

医療人育成・支援センター

■ B i e n n i a l R e p o r t

年報 2014 ▶ 2015年度



C enter for M edical E ducation and

C areer D evelopment

目 次

1	センター長挨拶	1
2	スタッフ紹介	5
	(1) 医学教育部門	
	(2) 臨床医学教育研修部門	
	(3) 災害医療総合学習センター	
3	各部門の取り組み	
	(1) 医学教育部門	医学教育部門長 亀岡 弥生 17 医学教育部門 准教授 石川 和信 18
	・活動カレンダー	
	FD (Faculty Development) / 福島医大模擬患者 (SP) の会 / 出前講座 / 学校見学 / オープンキャンパス / One-day 臨床実習プログラム (BSL プライマリーコース) / オーディエンス・レスポンス・システム / クリニカル・スキルス・ラボラトリー (スキルラボ) / 研究会活動	
	・研究業績	
	シミュレータを用いた医学部臨床実技試験の現状と問題点 / 研究業績	
	(2) 臨床医学教育研修部門	臨床医学教育研修部門長 大谷 晃司 59
	・活動カレンダー	
	5年生との未来を語る会 / 研修医説明会 / 地域医療体験研修 / 福島・良き医師をはぐくむプロジェクト / 福島県臨床研修病院ネットワークの活動 / 臨床指導医講習会 / 臨床研修医に対する支援・教育 (メンター制度を除く) / 臨床研修医に対する支援: メンター制度 / 福島県地域医療を考える懇談会 / 修学資金生・自治医科大学学生との合同セミナー / 臨床研修医による学生教育	
	・研究業績	
	(3) 看護学教育研修部門	99
	・活動カレンダー	
	看護学部生を対象とした就職ガイダンス / 看護職を対象とした教育研修会	
	(4) 災害医療総合学習センター	
	……………医療人育成・支援センター長(兼)災害医療総合学習センター長 大津留 晶 109 熊谷 敦史 110	
	・活動カレンダー	
	災害医療総合学習センター活動総括 / ① BSL 基礎編 / ② BSL 応用編 / ③ 学生のための福島災害医療セミナー / ④ Radiation and Disaster Medical Science Seminar, Medical Training Course in Fukushima / ⑤ 福島災害医療研修(鹿児島大学大学院生、長崎大学病院研修医) / ⑥ 福島災害医療セミナーについて / ⑦ 放射線災害医療eラーニング / ⑧ ベラルーシ共和国の医科大学との連携 / ⑨ よろず健康相談事業報告 / ⑩ 保健活動支援 / ⑪ ベラルーシ及びウクライナとの原発事故後協力委員会 / ⑫ 国際原子力機関 (IAEA) との連携	
	・研究業績	

1. 挨 拶



医療人育成・支援センター長あいさつ

公立大学法人 福島県立医科大学
医療人育成・支援センター長
大津留 晶



皆様には平素より医療人育成・支援センターへ多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当センターは、2008年4月に設立され、早8年の月日が経ちました。このたび、最近の2年間の私どもの足取りをまとめ年報を発行することとなりました。お世話になっている皆様からの声をもとに更なる発展の糧とさせていただきたいと思っておりますので、ご覧いただき忌憚ないご意見を賜われれば幸いです。

センターは、医学教育部門、臨床医学教育研修部門、看護学教育研修部門、災害総合学習センターの4部門よりなっております。卒前教育と卒後教育を一貫した考え方で支援できるように、医学生と看護学生の教育の連携が図れるように、東日本大震災と原発事故の経験をいかし専門や職種を超えて災害時の協力体制がとれるようにと、別々の縦割り組織で運営されがちな業務を、互いに連携協力しながら取り組めるよう、一つのセンターとして組織されました。昨年の4月からは、医学教育部門に亀岡弥生教授、臨床医学教育研修部門に大谷晃司教授が就任いただき、より強力な教育研修体制を作り上げてゆけるよう、協力して改革を進めているところです。

紀元前の古代ギリシャの哲学者ソクラテスの語った言葉に“Education is the kindling of a flame, not the filling of a vessel.”(教育とは、炎を燃えあがらせることであって、入れ物を満たすことではない。)というものがあります。単に知識や技能を学生の脳に注ぎ込むだけでなく、学生の心に火をつけて、医師や看護師になっても生涯自ら勉強してゆく気持ちを持続させることができるような教育体制ができることを、職員一同望んでいるところです。今後とも、どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2016年2月16日

2. スタッフ紹介



1) スタッフ紹介

(1) 医学教育部門

氏 名：亀岡 弥生

任 期：平成27年4月～

主な担当：一つの講座に収まらない教育業務、教育に対する教職員の
議論と連帯創出

趣 味：クラシック音楽（鑑賞とXXX）

《ひとこと》

宜しくお願い致します。



氏 名：石川 和信

任 期：平成20年5月～

主な担当：シミュレーション教育（スキルスラボ管理運営、臨床実
習）、医療コミュニケーション、模擬患者の会（コーディネータ）、OSCE、ICM、TBL、e-ポートフォリオ、FD、
教育研究、など

趣 味：ガーデニング、野菜作り

《ひとこと》

なせばなる' for altruistic values



氏 名：小林 元

任 期：平成20年10月～

主な担当：シミュレータ機器管理、医学教育支援

趣 味：読書

《ひとこと》

よろしくお願いたします。



氏 名：本谷 亮

任 期：平成22年4月～

主な担当：福島医大模擬患者の会、メンター制度等

趣 味：ドライブ

《ひとこと》

模擬患者の養成、模擬患者参画型授業の充実に努めます。また、機能的なメンター制度の構築を目指します。



氏 名：菅原亜紀子

任 期：平成21年4月～

主な担当：スキルスラボ、BSL、福島医大模擬患者の会

趣 味：料理

《ひとこと》

臨床検査技師。主な研究テーマは、医療コミュニケーション、医学教育研究です。



氏 名：諸井 陽子

任 期：平成22年4月～

主な担当：定員増に対する教育支援（1,2,3年）、ITC を活用した授業

趣 味：ミシン

《ひとこと》

医学生自身が「こうなりたい！」と考える医師になれるように応援します。



(2) 臨床医学教育研修部門

氏 名：大谷 晃司

任 期：平成20年5月～

主な担当：福島県臨床研修病院ネットワーク研修医招聘事業等

趣 味：寝ること (?!)

《ひとこと》

福島全体で研修医だけでなく、医学生も育てるという基盤づくりを目指します。



氏 名：中島 大

任 期：平成26年4月1日

主な担当：外部研修、BSL 医療面接、採血実習、初期研修医メンター等

趣 味：音楽鑑賞（音の風景）、映画鑑賞（SF、アクション、
ドキュメンタリー）、温泉（源泉かけ流し）

《ひとこと》

医学生および研修医が実習、研修をとおして、基本的な医療技術や像、医療の情報など広いアンテナを持てるようアドバイスをしていきたいと思います。福島県外出身ですが、福島にきて15年程度になります。

氏 名：松本 純弥

任 期：平成25年11月～

主な担当：臨床研修医のサポート、地域医療体験研修の引率、臨床研
修指導医養成研修会タスクフォース、その他医学教育等。

趣 味：旅行、ドライブ、ツーリング

《ひとこと》

心理学的アドバイスを通して臨床研修をサポートします。

氏 名：西條 聡

任 期：平成24年4月

主な担当：模型を用いた動脈採血・医療面接指導、地域医療研修

趣 味：釣り

《ひとこと》

あと短い期間ではありますがよろしく願いいたします。

氏 名：仲江川雄太

任 期：平成25年4月～

主な担当：学生実習、研修医のメンター等

趣 味：子育て

《ひとこと》

将来医師となるみなさんに少しでも貢献できればと考えます。

氏 名：高野 真澄

任 期：平成26年4月～

主な担当：福島県臨床研修病院ネットワーク事業等

趣 味：スキー

《ひとこと》

満足度の高い臨床研修につながるよう、サポートします。



(3) 災害医療総合学習センター

氏 名：熊谷 敦史

任 期：平成24年4月～

主な担当：学生、医療・保健従事者への災害医療・放射線災害医療教育、および教育パッケージの開発。地域支援として、県内各自治体とともに地域コミュニティでの放射線リスクコミュニケーション活動と、福島第一原発周辺の公的業務従事者（双葉地方広域市町村圏組合 [双葉消防等]、福島県警）の産業医活動による健康安全管理。

趣 味：山歩き、ランニング、自転車、温泉

《ひとこと》

緊急被ばく医療の実践、教育に加え、等身大の健康リスク認識のもとでご自身での判断ができるようなお手伝いも続けていきたいと思っています。



氏 名：安井 清孝

任 期：平成24年4月～

主な担当：放射線災害医療eラーニング

趣 味：トレイルランニング

《ひとこと》

普通の暮らしを充実させてゆけばいいですね。



氏 名：吉田 浩二

任 期：平成25年9月～

主な担当：学生教育

趣 味：野球、ゴルフ

《ひとこと》

学生と共に医療人として、社会人として成長していきたい。



○事務スタッフ



(兼)教育研修支援課長	橋 本 雅 之	2015年4月～
(兼)主幹兼副課長	大 橋 英 樹	2015年4月～
(兼)主幹兼副課長	国 分 勝 彦	2013年4月～
(兼)主任主査兼係長	小 林 秀 樹	2014年4月～
(兼)主任主査兼係長	高 野 陽 子	2013年4月～
(兼)主任主査兼係長	佐久間 直 子	2013年4月～
(兼)主任主査兼係長	高 橋 均	2013年4月～
(兼)主査	高 橋 信 二	2013年4月～
(兼)主査	檜 森 一 充	2014年4月～
(兼)主事	菅 野 貴 仁	2015年4月～
(兼)主事	石 井 美 紀	2015年4月～
(兼)主事	山 川 晴 美	2015年4月～
主事	高 橋 久美子	2008年4月～
主事	阿 部 恩	2012年4月～
主事 (准)	渡 邊 さつき	2013年8月～
主事 (准)	山 下 久美子	2015年4月～

3. 各部門の取り組み



1) 医学教育部門



医学教育部門長あいさつ

医学教育部門長 亀岡 弥生

平成27年4月から、医学教育部門長に就任致しました。どうぞ宜しくお願い致します。

それまでは本学薬理学講座に15年、その前は第一内科（現・循環器・血液内科学講座）と輸血部で、担当分野の教育の一端を現場で担って参りました。そのため、平成16年の研修医制度の創設を始め、臨床実習前のOSCE、Advanced OSCE、そして本学も数年後の受審を目指す分野別国際認証等、日本の医学教育界がこの10年積み上げてきた教育環境の社会的変化を、自分が臨床家だった頃の“before”と現在の“after”という感覚でとらえております。制度の変化とともに、プロフェッショナリズムやコミュニケーションの重要性がさかんに言語化されるのも、昔はお目にかからなかった現象です。幸い、教育制度の変遷の中で本学は、部門の石川先生、本谷先生、小林先生、諸井先生、菅原先生のチームがゼロから立ち上げた種々のシステムによって乗り遅れることなく環境を整えてきました。特に模擬患者の会はその人数と質において高い評価を受けています。

一方、今も昔も変わらないものも存在します。医師としての社会的使命や、良い医師の条件の芯の部分です。各々のプロフェッショナリズム論やコミュニケーション論を読むと、表現や重点の置きどころは違えども、ヒポクラテス時代の書物を受け継ぐ部分や、私の世代も若い医師も共感できる部分があり、それこそが受け継がれていくべき本質なのだと思います。

さて、今後臨床実習前後のOSCE整備によって教育成果の標準化が更に進みます。そんな中、福島医大で学ぶ付加価値は何なのでしょう。これは是非議論し、育み、次世代に引き継ぎたいテーマです。「心、和、知、技、地」という本学の教育理念は、「被災地」「地方」で応用可能な知識+技術の強化と、知識とは別物の「知性」の基盤教育を謳っているようにも見えます。理念の解釈・理想の共有・ローマップへの反映を通して、付加価値の明確化と具現化に尽力したいと思います。それは“福島医大ブランド”の確立にもつながります。教職員の意識の共有を図るため、教職員がやりがいを感じ、機能的に連携できる環境づくりも不可欠と考えております。

くれぐれも国際認証という目先の目標に終止せず次世代を見通す視点をもつことと、大学のため学生のために何がベストかという視点を失わないことを、肝に銘じて部門の仕事を進めていきたいと思っております。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

医学教育2014－2015を振り返って

医学教育部門 准教授 石川 和信

東日本大震災から5年を迎える。阪神大震災では仮設住宅の入所者がゼロになったのに対し、東北では14,000戸以上の世帯が未だ仮住まいという。広域複合災害の複雑性を物語っているように思う。

平成20年に医師不足・偏在が公に認められたことを受けて設置されたこのセンターの当初のコンセプト、数多くの教育研修の取り組みの効果、連携体制についての検証は復興という膨大な業務の多忙さに弾き飛ばされた感がある。兼務教員や事務職員は2～3年単位で異動となるので、一緒に苦労した旧メンバーは他の部署や行政の所属になっているが、当初から関わってきた教員達が自覚を深めて着実に継続・展開してきたとも感じている。

実際、このセンター発足の年に入学した医学生達が、見事に医師国家試験合格100%を成し遂げてくれたことは私達にとって大きな喜びであった。医学部担任制、チーム学習（TBL）、臨床技能講習会（採血、外科手技、救急、医学英語、プロフェッショナリズム、etc）、自主養成した模擬患者の会員が協力する医療コミュニケーション教育、レスポンスカードによる双方向性授業、iPad臨床実習ポートフォリオ、Wi-Fi学習環境導入などのテスターと評価者になってくれたのはこの学生達であった。工夫考案してきた様々な学習支援システムが、6年間のカリキュラムの到達目標を達成するためのリソースとして、継続的に発展することを期待している。

医学部定員増以降、全国に医学教育センターや講座が新設された。教育担当教員は、臨床医、研究者としてのコンピテンシーを保持しつつ、多岐にわたる講座の実状を俯瞰的・横断的に捕らえて、効果的な教育研修を設定するミッションがある。医師不足、法人化、成果主義の流れで、多忙さを増す医師教員の教育負担の矢面に立ちながら、学習者のアウトカムを測定・評価して、PDCAを築かなければならない。客観的な医学教育の可視化は難しいが、それを継続し得て、分野別国際認証に資する教育アウトカムが抽出されるだろう。認証評価の外形整備も重要だが、医学のグローバリズムの浸透の課程で、その中身と成果が確認される方向に成熟していこう。実際、医学、医療、教育学の理論と実践を理解した医学教育専門家制度が発足する。医療人教育研修が社会や患者に還元された際に最も価値が最も高いとする Kirkpatrick モデルを考えても、医学教育や医療安全の専門家を医療人養成課程で確実に養成するシステムとキャリアパスがこれからの課題であるように思う。

私達の教育研修の取り組みに快く協力して下さった学内・学外の教員・職員、模擬患者、患者、住民、行政の方々に心より感謝を申し上げたい。

復興も医療人養成も皆が願うような成果を“なせばなる”と信じたい。

2014年度

2014年

- 4月8日 第1回 SP 講習会「開講式・アドバンスド OSCE 報告」
- 4月22日 FD セミナー
大学と地域の連携による地域医療教育の実際
～地域で活躍する医師は地域で育てる～
筑波大学医学医療系地域医療教育学 教授 前野 哲博先生
- 5月17日 第3回東北シミュレーション医学教育研究会 主催
コーディネーター 石川 和信
- 5月20日 第2回 SP 講習会「フィードバックのスキルアップ “OSVE”」
- 6月17日 第3回 SP 講習会「OSCE シナリオの演習 “甲状腺機能亢進症”」
- 6月28日 第2回日本シミュレーション医療教育学会学術大会（宮崎）
- 7月1日 第4回 SP 講習会「BSL シナリオの演技力を高めよう “役作り”」
- 7月18日 第46回日本医学教育学会大会（和歌山）
～19日
- 7月20日 シムリンピックわかやま2014（和歌山）
- 7月29日 第5回 SP 講習会「入院患者を演じよう パートⅠ “KJ 法”」・おつかれさま会
- 9月9日 第6回 SP 講習会「看護におけるコミュニケーション教育 “脂質異常症”」
- 9月23日 平成26年度医学教育ワークショップ
『新カリキュラムへの移行に向けて～国際認証を控えて、福島医大の将来を検討する』
コーディネーター 石川 和信
講師：東京大学医学教育国際研究センター 主任 北村 聖先生
東京慈恵会医科大学教育センター 教育 IR 部門長 中村真理子先生
東京医科歯科大学医歯学教育システムセンター センター長 奈良 信雄先生
- 10月3日 全員参加型 FD 講習会／男女共同参画講演会『女性が輝く社会と復興』
講師：前国務大臣／参議院議員 森 まさこ先生
- 10月7日 第7回 SP 講習会
「入院患者を演じよう パートⅡ “ベッドサイドのロールプレイ”」
- 10月21日 第8回 SP 講習会「閉講式・医療面接実習練習」
- 11月1日 第6回福島医大模擬患者の会公開セミナー
『医療をささえるコミュニケーション・セミナー in 東北2014』
コーディネーター 石川 和信
【第1部】近況報告（仙台、秋田、山形、福島）
【第2部】特別講演と演習
『ムラージュを体験しよう ～演技のリアリティを高める工夫を学ぶ～』

講師：名古屋大学大学院医学系研究科地域医療教育学講座 阿部 恵子先生
日本医科大学医学教育センター 井上千鹿子先生

2015年

2月13日

全員参加型 FD 講習会

『地方大学でのやれる！マッチングV字回復、長崎の軌跡～変化する勇気と捨てる覚悟で、全医局協力⇒65名マッチ！』

講師：長崎大学病院 医療教育開発センター 教授 濱田 久之先生

2015年度

2015年

4月14日

第1回 SP 講習会「開講式・ロールプレイⅠ “腰が痛い”」

4月28日

第2回 SP 講習会「ロールプレイⅡ “痔の薬が欲しい”」

5月19日

第3回 SP 講習会「ロールプレイⅢ “どこも悪くないのに…”」

6月2日

第4回 SP 講習会「高齢者との医療面接 パートⅠ」

6月27日

第3回日本シミュレーション医療教育学会学術大会（栃木）

6月30日

第5回 SP 講習会「高齢者との医療面接 パートⅡ」・おつかれさま会

7月18日

オープンキャンパス

7月24日

第47回日本医学教育学会大会（新潟）

～25日

7月26日

シムリンピックにいがた2015（新潟）

9月29日

第6回 SP 講習会「フィードバックの伝え方」

10月27日

第7回 SP 講習会「標準模擬患者・医療面接実習練習・閉講式」

11月3日

第7回福島医大模擬患者の会公開セミナー

『医療をささえるコミュニケーション・セミナー in 東北2015』

コーディネーター 石川 和信

【第1部】近況報告（仙台、秋田、山形、福島）

【第2部】特別講演と演習

『住民参加による地域の健康づくりを目指して～まち歩きから考える地域医療～』

講師：東京大学 大学院医学系研究科

医学教育国際研究センター 講師 孫 大輔先生

11月13日

平成27年度全員参加型 FD 講習会

『医学教育の質保証と医学教育改革…望まれるアウトカム基盤型学習』

講師：順天堂大学医学部特任教授／東京医科歯科大学医学部特命教授

奈良 信雄先生

11月19日

平成27年度医学教育ワークショップ

～20日

『本学の卒業時アウトカム評価とロードマップ』

12月12日

講師：福島大学 総合教育研究センター 高森 智嗣先生
第6回東北シミュレーション医学教育研究会 主催
コーディネーター 石川 和信

FD (Faculty Development)

I. 2014年度 医学教育のための教員教育 (Faculty Development)

大学設置基準の改定や医学教育の質保証の観点から、医学部教員や医師養成に関わる職員には、教育者としての視点と能力が求められるようになりました。医学教育のニーズや時流を捉えた教員教育を企画しました。

地域医療教育や医学教育のグローバル化に対応するための啓蒙的なセミナーとワークショップを実施しました (石川 和信)。

1. FD セミナー

大学と地域の連携による地域医療教育の実際

～地域で活躍する医師は地域で育てる～

2014年 4月22日

医学教育の国際認証に対応するためにカリキュラム改革が進められていることから、2014年度から地域体験学習を導入することとなった。筑波大学が茨城県内の病院と進めてきた地域に根ざした取り組みは大変優れたモデルとして注目されていることから、このプログラムのリーダーとして活躍されている前野哲博先生 (地域医療教育学教授) に、地域医療教育のコンセプト、成功のポイント、問題点について、分かりやすくお話しいただいた。卒前、卒後教育、専攻医の育成についても総合的な視点からの講演は、教員・指導医として学ぶところが多かった。



2. FD 医学教育ワークショップ

新カリキュラムへの移行に向けて

～国際認証を控えて福島医大の将来を討論する～

2014年9月23日（火・祝）

医学教育分野別認証制度の我が国での導入を控えて、卒前教育全体を見直す大きな改革に迫られている状況から、これから必要となるFDを考えるためのコアFDを企画した。

6つの分科会のテーマ毎に、1) 現行カリキュラムの把握、2) 新カリキュラムで改善されるべき目標の案、3) 学習方略（カリキュラム）の案、4) プログラム評価の案、5) 予想される変化（良い点、副作用）について、プロダクトを作成してもらうこととした。

大学や医学部の理念やミッションの確認から始まり、6つの分科会の討論の成果を共有することで、良医を育てるためのカリキュラムデザインに結び付けていくことを願った。

コーディネーター：錫谷 達夫（医学部長）

大森 孝一（医療人育成・支援センター長）

千葉 英樹（医学部教務委員会委員長）

石川 和信（医療人育成・支援センター医学教育部門）

ディレクター：福島 哲仁（副学長）

八木沼洋行（副学長）

外部講師：奈良 信雄（東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長）

北村 聖（東京大学医学教育国際研究センター主任）

中村真理子（東京慈恵会医科大学教育センター教育IR部門長）

分科会

1. 統合カリキュラム（PBL教育・統合型授業）

Discussion Leader：橋本 優子（病理病態診断学講座）

2. 地域基盤型臨床教育（早期臨床体験からクラークシップまで）

Discussion Leader：葛西 龍樹（地域・家庭医療学講座）、大谷 晃司（医療人育成支援センター）

3. リサーチマインド（基礎医学の意義と可能性）

Discussion Leader：橋本 康弘（生化学講座）、和田 郁夫（細胞科学研究部門）

4. これからの臨床教育（講義、導入教育、臨床実習、卒後教育との連携）

Discussion Leader：【内科系】大平 弘正（消化器・リウマチ膠原病内科学講座）

【外科系】鈴木 弘行（臓器再生外科学講座）

5. 被災地での医学教育の特色（beyond コアカリキュラムとしての意義、災害医療）

Discussion Leader：大津留 晶（放射線健康管理学講座）

長谷川有史（救急医療学講座）

6. 医師のプロフェッショナルリズム

Discussion Leader：齋藤 拓朗（会津医療センター）

時 間	内 容
8 : 40	受付
9 : 00 (30分)	開会
	挨拶 (副学長 福島 哲仁先生)
	趣旨説明 (医学部長 錫谷 達夫先生)
	講師紹介・日程説明 (医学教育副部門長 石川 和信先生)
9 : 30 (40分)	【講演 1】 「国際認証に向けたカリキュラム改革のポイント」 東京大学医学教育国際研究センター主任 北村 聖先生
10 : 10 (20分)	【講演 2】 「本学の現行カリキュラムと新カリキュラムの考え方」 医学部教務委員会委員長 千葉 英樹先生
10 : 30	休憩
10 : 40 (115分)	【ワークショップ 1】 現行カリキュラム把握と新カリキュラムの目標 (石川 和信先生) <ul style="list-style-type: none"> ・プレアンケートと説明 ・グループワーク ※各分科会に分かれて <ol style="list-style-type: none"> ①各分科会テーマが、現行カリキュラムにどのように組み込まれているか ②問題点の抽出 ③改善案と学習目標の作成 ・発表+討論
12 : 35	昼食・休憩 (60分)
13 : 35 (40分)	【講演 3】 「医学教育アウトカムの構築について～慈恵医大での自己点検評価の経験から～」 東京慈恵会医科大学教育センター教育 IR 部門長 中村真理子先生
14 : 15 (120分)	【ワークショップ 2】 各分科会テーマのカリキュラム・プランニング (石川 和信先生) <ul style="list-style-type: none"> ・説明 ・グループワーク <ol style="list-style-type: none"> ①学生が能力を備えるためにどのような学習方略 (授業形態) が良いか? ②具体的な授業計画の作成 ③学生の能力評価の検討 ・発表+討論

時 間	内 容
16：15	休憩
16：25 (40分)	【講演 4】 「医学教育の国際認証制度の意義と考え方」 東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長 奈良 信雄先生
17：05 (30分)	【総合討論と講評】 「新カリキュラムへの移行に向けて～国際認証を控えて福島医大の将来を討論する～」 司会：副学長 八木沼洋行先生
17：35 (15分)	【アンケート記入】 ・ポストアンケート
17：50	修了証書授与（医学部長 錫谷 達夫先生）
18：00	閉会（副学長 八木沼洋行先生）

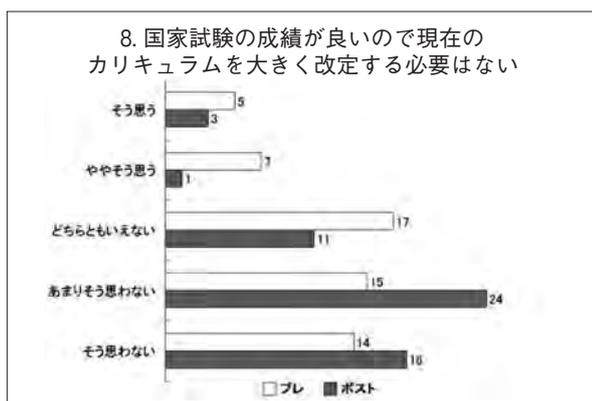
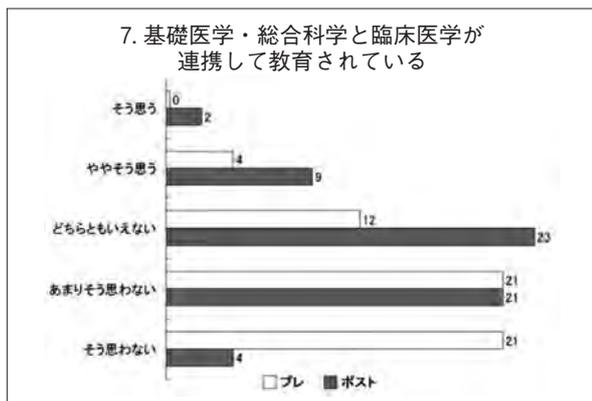
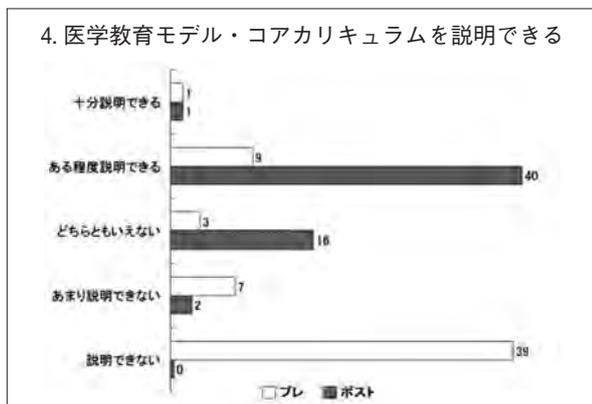
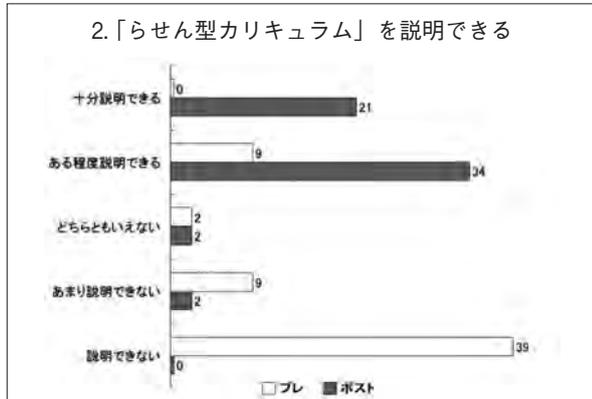
上記6分科会は、各グループ6～8名で討論を行い、教員の所属（臨床、基礎、総合）を分けずにいろいろな立場からの意見を述べてもらうことで、各所属や教員の状況を相互に知り合うことを重視した。総参加者は74名と多数で活気ある討論が交わされた。

教員予定参加者（当日参加者除く）

①統合カリキュラム	8名
②地域基盤型臨床教育	8名
③リサーチマインド	16名
④これからの臨床教育【内科】	8名
④これからの臨床教育【外科】	8名
⑤被災地での医学教育の特色	8名
⑥医師のプロフェッショナリズム	8名
計	64名

参加者アンケート結果

ワークショップの前後で、オーディエンス・レスポンス・システムで、医学教育の予備知識と現状認識を確認した。ワークショップ報告書を参照して改善をはかって欲しい。



Group work



General Discussion



Ⅱ. 2015年度 全員参加型 FD+医学教育ワークショップ

本学は、医学教育の国際認証評価を受けることを決定し、準備を進めている。しかし、分野別国際認証についても、本学が受審に向けて準備していることも、教職員の間で情報の共有がなされていない。そこで(1)~(3)を目的とし、全員参加型 FD 講習会と医学教育ワークショップを一つのシリーズとして開催した。

- (1) 認証評価の背景にある考え方と求められるものについて正しい認識の共有
- (2) 本学の教育目標の周知
- (3) 本学の学生にとって最良の教育プログラムを、アウトカムに基づいて共に考える意識の醸成

1. 全員参加型 FD 講習会

2015年11月13日（金） 17時30分～18時30分

テーマ：「医学教育質保証と医学教育改革…望まれるアウトカム基盤型学習」

講師：奈良 信雄先生

順天堂大学医学部 特任教授／東京医科歯科大医学部 特命教授

場所：講堂

2. 医学教育ワークショップ

1日目：2015年11月19日(木) 17時30分～20時

2日目：2015年11月20日(金) 17時30分～20時

テーマ：「アウトカム評価：いつ、誰が、何を、どうやって評価するか」

(1) 卒業時アウトカム評価項目の策定

(2) 評価尺度の策定

講師：高森 智嗣先生

福島大学総合教育研究センター 准教授

場所：8号館4階

1. 全員参加型 FD 講習会

東京医科歯科大医学部の奈良信雄先生には、2014年度のワークショップでもご講演頂いた。今回は、本学の進める教育改革の背景を教職員の間で広く共有するため、全員参加型 FD 講習会で、(1)日本の医学教育に国際認証が導入された経緯と、(2)求められる「アウトカム基盤型教育」が従来の教育とどこが違う、何故重要なのかについて、ご講演頂いた。参加者から多職種連携教育、評価についての質問があった。

参加者数：337名

2. 医学教育ワークショップ

本学の掲げる5つの教育目標「心、知、技、和、地」を一つずつ、7～8人からなるグループが担当し、コンピテンシーの作成を試みた。馴染みの薄い「コンピテンシー」作成を短時間に行うため、「ループリック」を活用した。ループリックの概念と学修評価の方法について、グループワーク前に外部講師によるレクチャーで学んだ。

一日目は、評価項目設定、二日目は、各評価項目について、合格ラインを決定した。これらの作業を経て、本学の教育目標の内容の具体的な内容を各講座の教員間で議論した結果、卒業時に求めたい技能レベルについて合意が形成されるとともに、既に設定されている学習アウトカム項目の中に見直しを必要とする箇所も挙げられた。

参加者数：31名

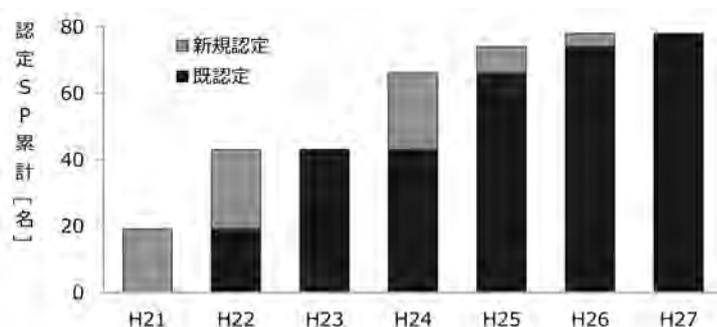
講	師：福島大学 総合教育研究センター 准教授	高森 智嗣
タスクフォース：	医学部長	錫谷 達夫
	教務委員長	永福 智志
	教務委員会 カリキュラム部門長	橋本 優子
	医療人育成・支援センター 臨床医学教育研修部門	大谷 晃司
進	行：医療人育成・支援センター 医学教育部門	亀岡 弥生

	次 第	担 当
1 日目	開会	錫谷 達夫先生
	ワークショップの目的説明	亀岡 弥生
	講演 「ループリックとは？」	高森 智嗣先生
	グループワーク概要説明	亀岡 弥生
	グループワーク I 「卒業時アウトカム評価項目の策定」	「心」「知」「技」「和」「地」の 5グループ
	総合討論 I	全員
2 日目	概要説明	亀岡 弥生
	グループワーク II 「評価尺度の策定」	「心」「知」「技」「和」「地」の 5グループ
	総合討論 II	全員
	講評	橋本 優子先生 永福 智志先生 錫谷 達夫先生
	閉会	

福島医大模擬患者（SP）の会

福島医大模擬患者（SP: Simulated Patient）の会は、福島で学ぶ医学生・看護学生、研修医や医療機関で働く医療スタッフのコミュニケーション技術を高め、心の通った医療が実践されることを目的として2009年3月に発足した。福島医大SP会は、主に地域住民や保護者の有志の方々によるボランティアで構成されており、2015年度までに累計78名の福島医大認定SPが誕生し、現在50名以上のSPさんが医学生や看護学生の授業に協力している。

福島医大 SP の会の認定 SP 数



福島医大認定 SP のバッジ

【活動実績】

年に約8回実施しており、医学部生の講義で活用するロールプレイのシナリオ演習、臨床実習前OSCEや臨床実習（BSL）シナリオ練習などの演技力を向上するための内容や学生に対するフィードバックのスキルアップを目的とした内容に取り組んだ。2014年度、2015年度における福島医大の主なSP参加型授業は、コミュニケーション論、臨床実習入門（医療面接実習）、臨床実習前OSCE（共用試験OSCE）、性差医療、臨床実習（BSL）、臨床実習後OSCE（Advanced OSCE）、看護学の基本などであり、学生の医療コミュニケーション教育に大きく貢献している。



2014年度福島医大 SP の会の内容

回	日時	内容
第1回	4月8日	開講式・Advanced OSCEの実施報告
第2回	5月20日	フィードバックのスキルアップ
第3回	6月17日	OSCE シナリオ演習 「熱っぽい感じが続く」 甲状腺機能亢進症
第4回	7月1日	BSL シナリオ演習 「糖尿病、白血病、肺がん、高血圧・高コレステロール血症」
第5回	7月29日	入院患者を演じよう パートⅠ おつかれさま会
第6回	9月9日	看護におけるコミュニケーション教育 「脂質異常症の方への指導」
第7回	10月7日	入院患者を演じよう パートⅡ
第8回	10月21日	閉講式 ・ 医療面接実習の練習①
公開セミナー	11月1日	医療をささえるコミュニケーションセミナー In 東北 2014 講師：名古屋大学大学院医学系研究科 助教 阿部 恵子 日本医科大学医学教育センター 助教 井上千鹿子



Advanced OSCE



入院患者を演じようの演習

2015年度福島医大 SP の会の内容

回	日時	内容
第1回	4月14日	開講式・ロールプレイⅠ「腰が痛い」
第2回	4月28日	ロールプレイⅡ「痔の薬がほしい」
第3回	5月19日	ロールプレイⅢ「どこも悪くないのに…」
第4回	6月2日	高齢者との医療面接 パートⅠ 「高齢者について、医学生や看護学生に学んでほしいと感じていること」
第5回	6月30日	高齢者との医療面接 パートⅡ 「問題のある高齢者—医療者のコミュニケーション」 おつかれさま会
第6回	9月29日	フィードバックの伝え方
第7回	10月27日	閉講式・医療面接実習の練習①
公開セミナー	11月3日	医療をささえるコミュニケーションセミナー In 東北2015 講師：東京大学大学院医学系研究科 講師 孫 大輔



ロールプレイの演習



“高齢者との医療面接”のシナリオ作成、および演習

【公開セミナー】

年1回、東北地方の医療コミュニケーションのレベルアップと仙台・山形・秋田のSP研究会や一般市民との交流・情報交換をはかるための公開セミナー（“医療をささえるコミュニケーションセミナー In 東北”）を実施している。2014年度は阿部恵子先生（名古屋大学大学院医学研究科）と井上千鹿子先生（日本医科大学医学教育センター）、2015年度は孫大輔先生（東京大学大学院医学系研究科）を外部講師としてお招きし、講演と演習を行った。



福島県立医科大学

主催 公立大学法人福島県立医科大学医療人育成・支援センター、福島医大模擬患者の会
共催 福島県立医科大学医学部後援会、福島県立医科大学看護学部後援会
福島県立医科大学医師会、福島県立医科大学光が丘協議会

第7回

医療をささえるコミュニケーション・セミナー In東北2015



東北地方をはじめとする各地域で活動しておられる模擬患者さん、医療コミュニケーション教育に関わっておられる教職員、興味をお持ちの一般の方を対象としたセミナーを開催します。

今回は、東京大学の模擬患者の会（つつじの会）で活躍しておられる孫先生がゲストです。参加者の皆さんに役立つ楽しい企画にしたいと思っております。どうぞ、気軽にご参加ください。

福島医大模擬患者の会コーディネータ 石川 和信

日時 平成27年11月3日（文化の日） 13:00～17:00（受付12:30～）

場所 コラッセふくしま 5F研修室

内容 特別講演 「住民参加による地域の健康づくりを目指して」

～まち歩きから考える地域医療～



東京大学 大学院医学系研究科医学教育国際研究センター 孫 大輔先生

超高齢社会を背景として、住民参加による地域包括ケアや健康づくりが大事だと言われるようになってきました。しかし「住民参加」とはどんなものでしょうか。どのようにすれば、市民と専門家が垣根を越えて、地域の健康づくりに向けて協働できるでしょうか。

2010年より市民との対話「みんくるカフェ」を続け、最近では、まち歩きや地域診断という取り組みを通して、住民と協働した健康づくりを模索しています。この取り組みについてお話し、参加者と「ワールドカフェ」という対話形式で、ともに考えてみたいと思います。

経歴 博士（医学）、博士（看護学）、
日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門医
2000年東京大学医学部卒。腎臓内科、総合診療（家庭医療）を専門として勤務を続けた後、2012年より現職。医学教育および研究に携わりながら、家庭医としての勤務を続けている。研究テーマはヘルスコミュニケーション、医学教育学、多職種連携教育など。2010年8月より市民・患者と医療者がフラットに対話できる場「みんくるカフェ」を主催している。

模擬患者グループの近況報告

仙台 SP 研究会 DatE
響き合いネットワーク山形 SP 研究会
秋田大学SP会
福島医大模擬患者の会 FAMCOM

一対象-

医療コミュニケーションに関心のある方、模擬患者、医学生、看護学生、臨床研修医、医師、看護師、検査技師、栄養士、その他の医療関係者

お問い合わせ先・お申し込み先

申込用紙は裏面です

福島県立医科大学 医療人育成・支援センター／教育研修支援課

〒960-1295 福島県福島市光が丘1 Tel: 024-547-1095 Fax: 024-547-1989

e-mail: famcom@fmu.ac.jp HP: <http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/index.html>

出前講座

高等学校からの要望に応じて、大学教員が高等学校に出向き、将来、医療に従事することに関心を持っている高校生を対象に、医学や医療に関する講義を行っている。医学や医療に関する多彩な話題を提供する出前講座は、医療人を志す高校生の医学や医療への興味関心を更に高め、本学医学部への進学意識や学習意欲を向上させる良い契機となっている。「出前講座」は高等学校からの申し込みを開催日の2ヶ月前までに受け付け、医療人育成・支援センター医学教育部門と教育研修支援課入試係が調整して開講している。

2014年度、2015年度はそれぞれ7校に教員を派遣した。

【実施状況】

2014年度

	派遣先	タイトル／講師名
1	宮城県宮城第一高等学校	「細菌ってどんな生き物？ —私たちにくらす細菌たち—」 【講師 錫谷達夫】
2	桜の聖母学院高等学校	「国内外で地域を診るために必要なこと」 【講師 後藤あや】
3	福島成蹊高等学校	「医療人を志すみなさんへお伝えしたいこと」 【講師 齋藤拓朗】
4	福島県立会津学鳳高等学校	「医師の醍醐味 —外科医として—」 【講師 鈴木弘行】
5	福島県立橘高等学校	「生殖医療について」 【講師 小宮ひろみ】
6	福島県立会津高等学校	「細菌ってどんな生き物？」 「身のまわりにいる細菌 —私達の健康との関係—」 【講師 錫谷達夫】
		「脳神経外科医は何をしているのか？」 「—脳神経外科の最新治療について—」 【講師 佐久間潤】
7	福島県立安積高等学校	「医学部耳鼻咽喉科学講座のお仕事について」 【講師 松塚 崇】

2015年度

	派遣先	タイトル／講師名
1	桜の聖母学院高等学校	「腸内細菌と内科疾患」 【講師 片倉響子】
2	福島県立会津学鳳高等学校	「成長発達における聴覚障害の影響」 【講師 小川 洋】
3	福島県立橘高等学校	「市民の勇気は高度医療に優る ー救急医療最新事情ー」 【講師 長谷川有史】
4	福島県立会津高等学校	「脳卒中との戦い ー脳卒中に対する初期対応と手術の実際ー」 「最新の脳神経外科手術 ー神経内視鏡手術・血管内治療・覚醒下手術ー」 【講師 佐久間潤】
5	福島県立白河高等学校	「脳とこころ」 「福島県立医科大学の医学教育」 【講師 永福智志】
6	福島県立安積高等学校	「急性白血病と骨髄移植」 【講師 小川一英】
7	福島県立福島高等学校	「糖尿病の予防から透析までー腎臓内科医の仕事ー」 【講師 寺脇博之】

出前講座の様子



学校見学

福島県立医科大学への理解を深め、医療系大学への進学意欲につなげるため、高等学校等の要望により大学見学を受け入れている。スキルラボ、ドクターヘリ等の施設見学に加え、模擬講義も学内教員の協力を得て実施している。

2014年度は11校、2015年度は4校の大学見学を受け入れた。

【実施状況】

2014年度

	学校名	見学者
1	福島県立磐城等学校 【模擬講義講師 穴戸裕章】	3年生
2	茗溪学園高等学校	3年生
3	福島成蹊中学校 【模擬講義講師 西條 聡】	3年生
4	福島県立郡山高等学校	PTA
5	郡山市立第二中学校	3年生
6	郡山市立第一中学校	3年生
7	福島県立会津学鳳中学校 【模擬講義講師 谷田部淳一】	3年生
8	郡山市立安積第二中学校	3年生
9	福島県立橘高等学校	1年生
10	福島県立光南高等学校	1年生
11	福島県立福島高等学校	PTA

2015年度

	学校名	見学者
1	福島県立磐城高等学校 【模擬講義講師 古田 実】	3年生
2	福島成蹊中学校 【模擬講義講師 松本純弥】	3年生
3	福島県磐城第一高等学校	1・2年生
4	福島県立原町高等学校	2年生



学校見学の様子



オープンキャンパス 「シミュレーション体験～ドクターの仕事～」

本学への入学志望の高校生等を対象に年1回、夏に実施されるオープンキャンパスにおいて、医療人育成・支援センター医学教育部門ではスキルラボを活用した「シミュレーション体験学習～ドクターの仕事～」を実施し、医学教育用シミュレータに触れる場を提供している。

2015年7月18日（土）に行われたオープンキャンパスでは、高校生56名が参加し、3つのシミュレーション学習（心音シミュレータと血圧測定、腹腔鏡下手術シミュレーション、腹部超音波検査）を体験した。

この企画は参加者に大変好評で、医療系大学進学へのモチベーション向上に大きく貢献できた。

①心音シミュレータ



②腹腔鏡下手術シミュレーション

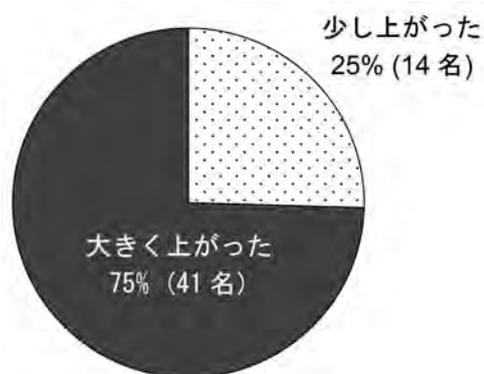


③腹部超音波検査



④参加者アンケート

医療系学校進学へのモチベーションは
上がりましたか？



One-day 臨床実習プログラム (BSL プライマリーコース)

～スキルラボにおけるシミュレーション学習～

2011年度より医学部5年生の臨床実習 (BSLプライマリーコース) において、スキルラボで採血手技と模擬患者 (SP) と医療面接を学習する「One-day 臨床実習プログラム」を開始し、2015年度で5年目を迎えた。

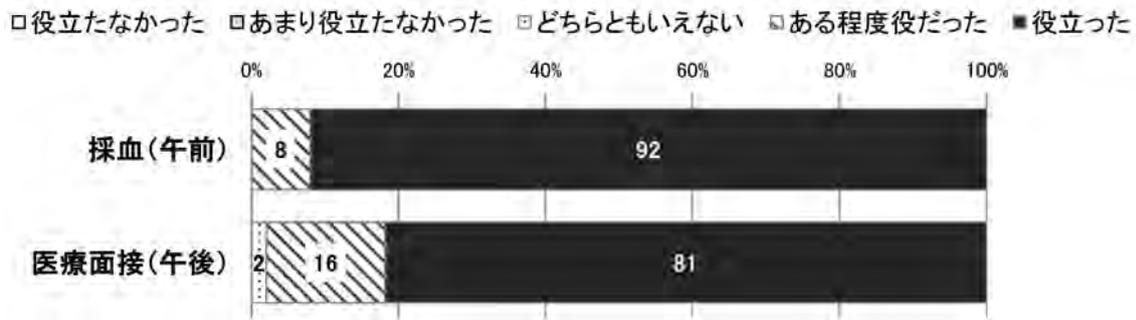
「侵襲性や患者さんの羞恥心を伴う診療技能の修得には、失敗が許されるシミュレーション (模擬患者さん、モデル、シミュレータ) での繰り返し学習や能動的なセルフ・トレーニングが必要であることを理解する」ことを学習目標として、採血演習では成人・小児静脈採血、動脈採血を、医療面接演習では、悪い知らせ (Bad news telling) や生活習慣病の患者教育、服薬アドヒアランス不良患者の対応などの実践的な医療面接をシミュレーション学習している。また、学生が関心のあるシミュレータで自己学習する時間を設け、練習不足だと感じている手技や将来の進路に関連する手技を経験できるように工夫している。

1日のコンパクトな実習であるが、複数の採血手技を集中的に学習できる点や、実践的な医療面接を模擬的に体験し、様々な立場からフィードバックを受けられる点が学生に好評を得ている。

【1. タイムスケジュール】

1. シミュレーション採血演習				
9:00～9:10	10分	アイスブレイク		
9:10～9:30	20分	ミニレクチャー		
9:30～10:00	30分	成人肘窩静脈	小児手背静脈	橈骨動脈
10:00～10:30	30分	橈骨動脈	成人肘窩静脈	小児手背静脈
10:30～11:00	30分	小児手背静脈	橈骨動脈	成人肘窩静脈
11:00～11:30	30分	学生同士の静脈採血 (希望者のみ)		
11:30～11:50	20分	振り返り		
2. 自己学習				
13:00～14:00	60分	シミュレーション自己学習 スキルラボのシミュレータを活用して		
3. 模擬患者 (SP) との医療面接演習				
14:00～14:50	50分	医療面接セッション 10分×4名		
14:50～16:10	80分	デブリーフィング (振り返りセッション) 学生の自己省察、学生 (観察者) ・SP・教員からのフィードバック等		
16:10～16:35	25分	医療面接セッション 10分×2名		
16:35～16:50	15分	デブリーフィング (振り返りセッション) 学生の自己省察、学生 (観察者) ・SP・教員からのフィードバック等		
16:50～16:55	5分	まとめ		

【2. 実習に対する学生の感想】 医学部5年生100名（2014年度）



自由記載（抜粋）

採血演習

- ・ムービーによる説明、シミュレータを用いた練習、お互いの採血という実習の流れがとても分かりやすかったです。
- ・採血時に気を付けるべき点を学べて良かった。病棟で日常的に行われていることだが、どんなことをしているか教わる機会がなかったためとてもためになった。
- ・今までのシミュレーション(模型)とは違い、実際に人に採血したのは初めてだったので、いい緊張感の中で実習できたと思う。患者さんに対して行う前に、少し自信が持てるようになりました。
- ・人に対して静脈採血をしたことがなかったので、今回の実習でできたことは良い経験になった。
- ・細かく手技を教えていただいたので、とても勉強になりました。患者さんに不安を与えない採血を行えるように、流れや手技を何度も復習したいと思います。
- ・小児の血管は見つけることができなかった。実際は、暴れて大変だと思うし、とても難しいことがわかった。
- ・意外と難しかった。小児採血は大変だろうと感じた。
- ・針の刺す深さの角度の微妙な違いによって、採血できたりできなかったりすることがあった。採血中の固定や、針刺しを防止するための工夫なども大切だと思いました。
- ・とても実践的で楽しかったです！勉強になりました！皮静脈の確認ができていても、いざ採血しようとするとな見えなくなってしまって大変難しかった。また、採血中の声掛けなども採血に集中してしまい気を配ることができなかった。
- ・患者さんによって、採血のしやすさに大きな差があると感じました。針を刺す以外にもたくさん手技があって、難しく感じました。
- ・どのシリンジを使うか、翼状針とふつうの針の使い方も知ることができて良かったです。
- ・実際に経験すると、他人に対し侵襲的な行為を行っているとあらためて感じました。落ち着いて行動したいと思います。
- ・採血実習は、出来ればBSL開始前に行いたかったです。
- ・4年生の最後あるいは5年生の最初の時に静脈採血の練習をしておきたかった。

医療面接演習

- ・医療従事者と患者の間には、病気に対する知識や認識に大きな差があることを痛感しました。それを埋めるために分かりやすく説明をすることが大切だと思いました。
- ・患者さんにお会いした時に優しく接するだけではだめで、言うべきことは言わないといけない（根拠を示して）と思いましたが、人間をよく観察して対応を使い分ける必要があると思いました。お忙しい中、ありがとうございました。
- ・患者さんの思いを聞き出すことが本当に難しく感じました。これからもっと練習を重ねて、SPの方のご厚意を無駄にしないように、患者さんの気持ちに寄り添える医師になっていきたいと思いました。
- ・患者背景の確認がとても重要だと感じた。検査結果をどこまで詳しく伝えるか悩みながらの医療面接となってしまったのを反省したい。模擬患者さんとの演習が行える機会は多くないと思うので今回の経験を大切にしたいと思う。
- ・言葉だけでなく態度や雰囲気も重要だと感じた。間も重要だと思った。
- ・自分が伝えたいことと、実際に患者さんに伝わることには差があるため、自分では伝えられたと思っていてもそうではないことが多くあった。そういうことも念頭に入れる必要があると感じました。
- ・自分の態度や医療面接の進め方を客観的に評価してもらえる機会は貴重で、ためになった。模擬患者さんもOSCE時とは違い様々な背景や考えをもって一人一人に応じた対応が求められると実感した。
- ・自分の理想通りに実践することは難しいと感じました。また、他の人の面接を見ることで、面接をどう組み立てて、どう説明するべきかを考えさせられました。
- ・将来対応しなければいけないであろう状況を学生のうちからシミュレーションでできるのはとても勉強になる。同級生、模擬患者さん、先生方からフィードバックしてもらえると、自分では気がつかない点や、コミュニケーションの方法などを知ることができてよい。
- ・ポキャブラリーを増やすこと、タンスの引き出しを常に引き出せる状態にしておくことが肝要だと感じました。機械が話している様にならないことはとても難しかったです。
- ・難しかったが、大変勉強になった。時間を気にしなければ、結構いけると自信がついた。
- ・面接はやっぱ緊張しました。ただ、4年生の時よりは確実に上達しているように感じる事ができました。

橈骨動脈採血



成人静脈採血



医療面接をモニターで振り返り



オーディエンス・レスポンス・システム

～TurningPoint® の活用～

講義型の授業は同時に多人数に対して知識を供与できるが、学生がどの程度、授業内容を理解しているかを教員は把握しがたい。また、教員は学生のニーズや興味を捉えているかどうかはわからず、教員から学生への一方的な知識の押し付けになってしまう可能性もある。

医療人育成・支援センターでは、2010年より学生一人一人の意見を回収できるオーディエンス・レスポンス・システム（ARS）を導入し、医学部および看護学部の授業、臨床研修医向けのセミナー、附属病院内の講演会等での活用をサポートしている。

1. システムの概要

本学ではARSとしてTurningPoint®（KEEPAD JAPAN株式会社製。http://www.keepad.com/jp/index.php）を利用している。専用ソフトで作成した質問のスライドに、名刺サイズのクリッカー（レスポンスカード）で回答すると、結果が瞬時に集計されグラフに表示される。授業に参加している教員と学生がその場で結果を共有することができ、全体の意見を踏まえた討論を実施し、学生の理解度に合わせた授業を展開することが可能になっている。



貸出用 ARS 一式
レスポンスカード 120枚
USB レシーバー 1台



レスポンスカード
(回答送信器)



USB レシーバー
(回答受信器)

※レスポンスカードは最大360枚まで対応可能です

2. 利用実績

利用年度	利用件数	内訳			
		医学部授業	看護学部授業	講習会・セミナー	その他
～2013年度	66	18	5	34	9
2014年度	20	1	0	13	6
2015年度	12	5	0	4	3
合計	98	24	5	51	18

(2015年12月31日現在)

3. 利用方法・貸出・予約について

機器の予約、利用方法は医療人育成・支援センター スキルラボアドバンス（内線2670）までお問合せください。スライドの作成等、ご不明な点は個別に対応しています。詳細は医療人育成・支援センターのホームページ（http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/turning_point.html）に掲載しておりますのでご参照ください。

クリニカル・スキルス・ラボラトリー（スキルラボ）

本学のスキルラボはシミュレーション学習施設として2009（平成21）年4月にオープンし、2015年度で7年目を迎えた。利用者のアクセスと学習内容を考慮して、アドバンス、ベーシック、手術室の3部構成として運用しており、医学生をはじめ、看護学生、教員、臨床研修医、附属病院スタッフなどが幅広い目的で利用している。シミュレータや設備の充実を図りながら、多様なニーズに合わせたトレーニングができるよう利用者の視点で工夫を重ねている。

【1. 施設概要】

スキルラボ・アドバンス（4号館5階）310m²

医療コミュニケーションを学ぶ医療面接・診察録画フィードバックシステムから腹腔鏡下手術などの高度な診療技能をトレーニングするシミュレータまで整備し、医学生や臨床研修医を中心に利用されている。

スキルラボ・ベーシック（8号館2階）481m²

基本的な診察手技やベッドサイドでの患者の診察・処置・ケアが大人数で学習できるようにレイアウトされた学習スペース。看護学生や看護師がフィジカルアセスメントや採血手技などを学習できるようにシミュレータを配置している。

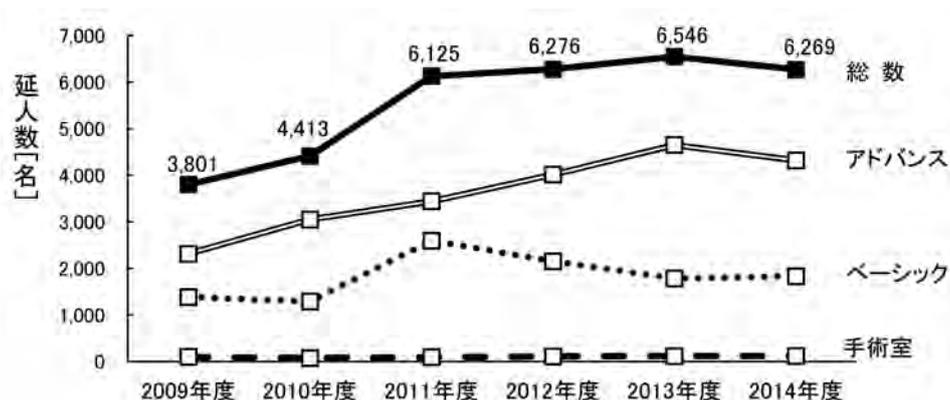
スキルラボ・手術室（附属病院3階）56m²

全身麻酔に伴う呼吸・循環の変化、急変対応が高性能シミュレータで学習できる。

【2. 利用実績】

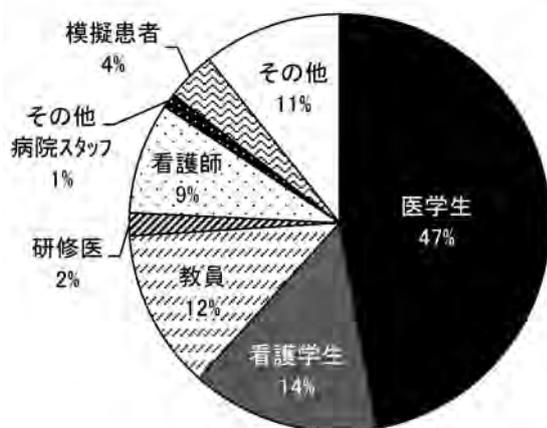
オープン後3年目（2011年度）以降は、年間6,000余名の利用が続いている。2015年現在、医学部臨床実習では17診療科28手技のシミュレーション教育プログラムが導入されており、そうした背景から、利用者の約半数は医学生が占める。次いで看護学生の利用が多く、利用目的も授業・実習が半数以上となっている。附属病院の看護部技術研修、医療安全管理の学内向けの講習会に加え、学内外対象の各種トレーニングコースでの利用も増えている。

スキルラボ利用者数



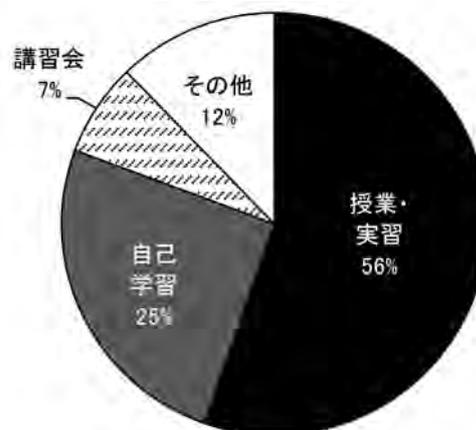
利用者内訳

6 か年（2009～2014年度）
延33,430名の内訳



利用目的内訳

6 か年（2009～2014年度）
延3,052件の内訳



<利用例>

医学部

1) 臨床実習 BSL（5、6年生）

循環器・血液内科	…心音・心雑音聴診、心エコー、心臓カテーテル手技
消化器・リウマチ膠原病内科	…腹部エコー、消化管内視鏡、直腸診
呼吸器内科	…呼吸音聴診、気管支鏡検査
小児科	…小児静脈ライン確保、乳児救急蘇生、新生児気管挿管
臓器再生外科	…腹腔鏡下手術、縫合、胸腔穿刺
器官制御外科	…腹腔鏡下手術、縫合
泌尿器科	…導尿、前立腺指診、腹腔鏡下手術
整形外科	…縫合、ガウンテクニック
麻酔科	…麻酔・呼吸管理
神経内科	…腰椎穿刺、頸部血管エコー
心身医療科	…腰椎穿刺
産科婦人科	…分娩介助、腹腔鏡下手術、縫合
耳鼻咽喉科	…気管切開
救急科	…エコー（FAST）、気管挿管
医療人育成・支援センター	…静脈・動脈採血、模擬患者医療面接
放射線災害医療センター	…被ばく医療、甲状腺エコー検査
輸血・移植免疫部	…静脈採血

2) 臨床実習入門（4年生）

…身体診察（眼底、耳診察、直腸診など）

3) 共用試験 OSCE（4年生）

4) 医学部オープンキャンパス

看護学部

- 1) 看護実践を支える看護技術とアセスメント (2年生)
- 2) 急性期にある人の看護 (3年生)
- 3) 健康障害を持つ子供の看護 (3年生)
- 4) 健康障害を持つ高齢者の看護 (3年生)
- 5) 在宅療養を支える看護 (3年生)
- 6) 看護学部オープンキャンパス

附属病院

- 1) 医療安全管理部 …中心静脈カテーテル挿入研修、人工呼吸セミナー
- 2) 看護部 …各種技術研修

その他

- 1) 福島医大模擬患者の会
- 2) 中高生の大学見学
- 3) 各種トレーニングコース …新生児心肺蘇生講習会、ISLS、JATEC、CIC、BIC、JMECC、DAM 実践セミナー、CBRNE 災害訓練

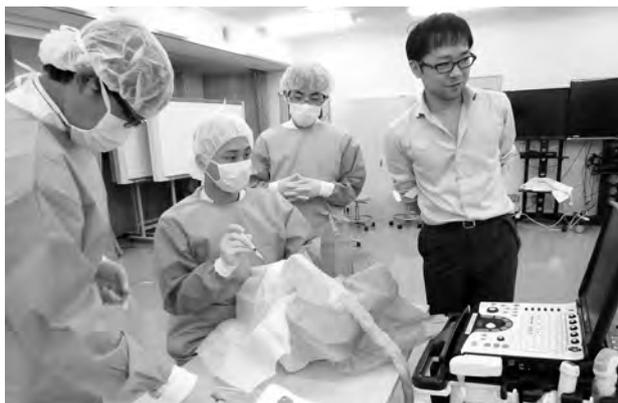
医学生の胸腔穿刺実習



中学生の大学見学 (スキルラボ体験)



研修医の中心静脈カテーテル挿入講習会



ISLS 病棟勉強会



【3. 利用できるシミュレータ】

(1) 基本診察・検査

品名	メーカー
フィジカルアセスメントモデル “Physiko”	京都科学
胸部診察シミュレータ “イチロー PLUS”	京都科学
心臓病診察シミュレータ “イチロー”	京都科学
心臓病診察シミュレータ “イチロー II”	京都科学
呼吸音聴診シミュレータ “ラング”	京都科学
直腸診シミュレータ	京都科学
前立腺触診シミュレータ	京都科学
乳癌触診モデル 装着式	京都科学
乳癌触診モデル	京都科学
婦人科内診シミュレータ	京都科学
携帯用耳鏡・検眼鏡	
眼底診察シミュレータ “EYE”	京都科学
耳の診察シミュレータ “EAR”	京都科学
気管支シミュレータ	京都科学
コードレス聴診教育システム “HI-STETHO”	泰斗工研
水銀血圧計	ケンツメディコ
自動血圧計	オムロン
血圧測定シミュレータ “あつ姫”	京都科学
超音波診断装置（胸部・腹部・表在）	フクダ電子、 PHILIPS、GE
超音波画像診断装置 “iLOOK25”（モバイルスタンドタイプ）	ソノサイト
超音波診断ファントム腹部モデル “ECHOZY”	京都科学
超音波診断ファントム 上腹部病変付モデル “ABDFAN”	京都科学
外傷・救急用超音波トレーニングファントム “FAST/ER FAN”	京都科学
心エコーバーチャルシミュレータ “VIMEDIX”	ガデリウス
心電計	日本光電社 フクダ電子
握力計	松宮医科精器製作所

(2) 注射・採血

品名	メーカー
装着式 上腕筋肉注射シミュレータ	京都科学
皮内注射シミュレータ	京都科学
手・手首関節注射モデル	日本ライトサービス
膝関節注射モデル	日本ライトサービス
肩関節注射モデル	日本ライトサービス

肘関節注射モデル	日本ライトサービス
採血・静注シミュレータ“シンジョー”	京都科学
装着式採血静注練習キット“かんたんくん”	京都科学
動脈採血シミュレータ	京都科学
手背の静脈注射シミュレータ	京都科学
小児の手背静脈注射シミュレータ	京都科学
点滴静注シミュレータ“Vライン”	京都科学

(3) 処置・治療

品 名	メ ー カ ー
女性導尿・浣腸トレーニングモデル	京都科学
男性導尿・清拭モデル	京都科学
腹腔鏡下手術トレーニング用シミュレータ“LAP Mentor II”	シンビオニクス
消化管内視鏡手技トレーニングシミュレータ“GI Mentor”	シンビオニクス
消化器内視鏡トレーニングシミュレータ“EndoVR”	ガデリウス
気管支内視鏡シミュレータ“アキュタッチ”	ガデリウス
CVC 穿刺挿入シミュレータ	京都科学
中心静脈栄養チューブ管理トレーナー	京都科学
経管栄養シミュレータ	京都科学
末梢挿入中心静脈カテーテル“PICC シミュレータ”	京都科学
サカモト気管切開トレーナー	坂本モデル
腰椎・硬膜外穿刺シミュレータ“ルンバールくんII”	京都科学
胸腔穿刺・ドレナージシミュレータ	日本ライトサービス
皮膚小外科キット	日本ライトサービス
皮膚小外科キット 指導者版	日本ライトサービス
陥入爪実習キット	日本ライトサービス
陥入爪キット 指導者版	日本ライトサービス
スーチャーチューター	日本ライトサービス
スーチャーチューター 指導者版	日本ライトサービス
縫合手技トレーニング フルセット	京都科学
縫合手技トレーニング 腕部セット	京都科学
腕型縫合シミュレータ	京都科学
局所麻酔実習キット	日本ライトサービス
局所麻酔実習キット 指導者版	日本ライトサービス
分娩シミュレータ“ノエル”	アクティブメディカル

(4) 救命救急

品名	メーカー
気道管理、外傷処理 ALS トレーニングシミュレータ “シムマン”	レールダル
ワイヤレス ALS トレーニングシミュレータ “シムマンエッセンシャル”	レールダル
高機能患者シミュレータ “ECS”	アイ・エム・アイ
小児救命処置シミュレータ “メガコードキッド&バイタルシム”	レールダル
乳児医療トレーニングシミュレータ “シムベビー”	レールダル
レサシアン半身スキルガイドモデル付	レールダル
エアウェイトレーナー “AIRSIM アドバンス”	日本ライトサービス
新生児蘇生マネキン “Neonatal Resuscitation Baby”	レールダル
新生児気道管理トレーナー	レールダル
トレーニング除細動器	PHILIPS
AED トレーナー	PHILIPS
救急カート	
シリコンレサシテータ	レールダル

(5) その他

品名	メーカー
医療面接・診察撮影録画フィードバックシステム	コセキ
妊婦体験スペシャルスーツセット 胎児9ヵ月付	京都科学
高齢者体験装具 “おいたろう”	京都科学
輸液ポンプ	テルモ
シリンジポンプ	テルモ
点滴スタンド	
軽量ストレッチャー	
スタンドライト	
コピーボード	
液晶プロジェクター	
マイクアンプセット	

福島県立医科大学クリニカル・スキルス・ラボラトリー（スキルラボ）ホームページ

<http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/lab.html>

研究会活動

東北シミュレーション医学教育研究会 <http://www.csl.med.tohoku.ac.jp/TWSE/>を本学にて主催しました。(大会長：石川和信)

第3回東北シミュレーション医学教育研究会 (2014年5月17日開催)

9:35~11:20 一般演題

座長：東北大学大学院 総合地域医療研修センター 加賀谷 豊

1. 模擬患者は医学生へのフィードバックをどう感じているか？
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 本谷 亮
2. シナリオベース・シミュレーション教育の普及に向けた活動の試み
東北大学病院 卒後研修センター 門馬 靖武
3. WHO手術安全チェックリスト導入におけるシミュレーショントレーニング
福島県立医科大学附属病院 医療安全管理部 杉田ゆかり
4. シミュレーション教育ファシリテーター育成の取り組み 部署への支援と人材育成
秋田大学医学部附属病院 看護部 大森 美香

座長：秋田大学大学院 医学教育学講座 長谷川仁志

5. 看護師対象の継続研修会における教育学的観点から行った講義方法の考察
東北大学病院 卒後研修センター 千葉 宏毅
6. 急性腹症 case study を通したシミュレーション教育の実践
福島県立医科大学 臓器再生外科学講座 多田 武志
7. ブタ皮膚の遠隔移送による皮膚縫合シミュレーション実習 (第2報)
福島県立医科大学 会津医療センター 斎藤 拓朗

11:30~12:30 ランチョンセミナー

『救急蘇生シミュレーション教育の実践と課題—気道管理を中心に—』

東京ベイ・浦安市川医療センター 救急科 志賀 隆

12:30~13:00 機器展示

13:00~14:30 シンポジウム

『シミュレータ・モデルを活用した診療能力の評価』

司会：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 石川 和信

1. 『初年次からの臨床症状・身体異常所見を表現するトレーニング』+『シムマン3G』+『エコーシミュレーター』を統合した学年横断的な教育展開とアドバンス OSCE-trans professional education への応用
秋田大学大学院 医学教育学講座 長谷川仁志
2. 教材としての「シミュレータ」を活かすために—教授設計を見直すことから始める—
青森県立保健大学大学院 成人看護学分野 織井優貴子
3. 診療能力の評価の現状から学習者の行動変容を支えるための方法を学ぶ
東北大学病院 卒後研修センター 門馬 靖武
4. シミュレーション教育評価を臨床能力向上に結びつけるには？
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 石川 和信

第6回東北シミュレーション医学教育研究会 (2015年12月12日開催)

10:00~11:30 一般演題

座長：秋田大学大学院医学系研究科 医学教育学講座 長谷川仁志

1. 臨床実習カリキュラムに組み込まれた腰椎穿刺シミュレーション学習
福島県立医科大学医学部 神経内科学講座 松田 希
2. 医学科1年生を対象としたシミュレータによる心臓聴診トレーニングの試み
東北大学大学院医学系研究科 医学教育推進センター 加賀谷 豊
3. 福島医大プライマリ・ケアを学ぼう会 救急医療部門の活動
福島県立医科大学 医学部3年 大関 篤
4. 脳卒中初期診療研修コースに県策定基準を取り入れる試み
新潟市消防局 田辺 博之

座長：秋田大学医学部附属病院 看護部 佐々木京子

5. 入院中の患者-医療者間で問題となるコミュニケーション~模擬患者の視点から~
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 菅原亜紀子
6. 新規採用看護師を対象とした急変対応研修会におけるシミュレーション教育の導入
福島県立医科大学 会津医療センター 中村 美華
7. シミュレーション教育の指導者育成の取り組み-部署の人材育成-
秋田大学医学部附属病院 看護部 小玉 恵子
8. 他施設協同 IPE 実践における看護学生の学び
岩手県立大学 看護学部 遠藤 良仁
9. 大学と病院が連携した救急医療のシミュレーション研修会開催の取組み報告
山形県立中央病院 救命救急センター 原田 美樹

11:30~12:00 トピックス

「医学生イベント シムリンピック Simulation Medical Olympic について
~シミュレーション教育の普及と臨床能力客観評価~」
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 石川 和信

12:00~13:00 休 憩

13:00~14:30 シンポジウム「シミュレーション教育と医療安全」

司会：東北大学大学院医学系研究科 医学教育推進センター 加賀谷 豊
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 石川 和信

1. 患者の安全を守るシミュレーション教育-指導者育成と臨床実践レベルの向上を目指して
秋田大学医学部附属病院 看護部 高山 賢路
2. 東北大学における医療安全向上を目指すシミュレーション教育の取り組み
東北大学大学院医学系研究科 医学教育推進センター 加賀谷 豊
3. 医療安全におけるシミュレーション教育~会津医療センターにおける取り組み
福島県立医科大学 会津医療センター 医療安全室 斎藤 拓朗

研究業績

シミュレータを用いた医学部臨床実技試験の現状と問題点

小林元 菅原亜紀子 松田希 諸井陽子 本谷亮 八木沼洋行 福島哲仁 石川和信

福島県立医科大学 医療人育成・支援センター

日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 2, 40-43, 2014.

医学教育の世界的な質保証の要請から客観的な卒前臨床実技評価が求められている。試験目的で臨床手技を患者に施すことは倫理的に問題があるため、適切なシミュレータやモデルを用いることが実際である。

本学では、平成24年10月に臨床実技試験（Advanced OSCE）をトライアル実施した。実施した3課題のうち2課題は、医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいてシミュレータを用いて実施できることが到達目標とされている静脈採血と腰椎穿刺の手技とした。静脈採血シミュレータは“シンジョー”（京都科学®）を、腰椎穿刺シミュレータは“ルンバールくんII”（京都科学®）を用いた。臨床実習中の医学部5年生19名が受験した。

試験終了後、受験学生、評価者教員8名、オブザーバー教員26名、スタッフが集まって振り返りを行い、それぞれの立場から感想と意見を述べた。反省会、および、事後アンケートで挙げられたシミュレータを用いた臨床実技試験の問題点を表に示した。

シミュレータの使用は手技の手順を確認する試験と成り得るが、実際の患者とシミュレータとの相違から手技の達成による実技評価が未だ困難であるとの指摘が多くあげられ、現在の穿刺シミュレータの問題点を確認した。

表 シミュレータを用いた臨床実技試験の問題点

シミュレータ	問題点	発言者
静脈採血	手を握る手順ができない 駆血帯を巻いても静脈が怒張しない 血液の逆流が確認できない 患者の痛み、しびれがわからない 実際の患者よりも採血しにくい	オブザーバー オブザーバー 評価者、オブザーバー オブザーバー 評価者
腰椎穿刺	腸骨稜が分かりにくい シミュレータ単体では上半身がない （本試験では上半身をレサシアン®で形成） 足を丸める姿勢の指示ができない シミュレータが不安定で横臥位が保てない 穿刺穴ができてしまい、後の受験者に影響がある 髄液採取のたびに貯水袋の水量が減少するため、徐々に初圧が下がってしまう 実際の患者よりも穿刺・髄液採取が難しい	受験学生 オブザーバー オブザーバー 評価者 受験学生 オブザーバー 評価者

研究業績

【論文】

1. 菅原亜紀子, 小林 元, 諸井陽子, 八木沼洋行, 福島哲仁, 石川和信. 福島医大クリニカル・スキルラボラトリーにおけるシミュレーション教育の展開. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 2, 24-27, 2014.
2. 小林 元, 菅原亜紀子, 松田 希, 諸井陽子, 本谷 亮, 八木沼洋行, 福島哲仁, 石川和信. シミュレータを用いた医学部臨床実技試験の現状と問題点. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 2, 40-43, 2014.
3. 菅原亜紀子, 本谷 亮, 小林 元, 諸井陽子, 松田 希, 西條 聡, 安井清孝, 大森孝一, 八木沼洋行, 福島哲仁, 石川和信. オリジナルビデオクリップを用いたコミュニケーション能力試験. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 3, 8-11, 2015.
4. 石川和信, 鈴木利哉, 奈良信雄. カナダ医師国家試験第2部 Large scale OSCE に学ぶ. 医学教育, 46, 171-177, 2015.
5. 石川和信, 首藤太一, 小松弘幸, 諸井陽子, 阿部恵子, 吉田素文, 藤崎和彦, 羽野卓三, 廣橋一裕. 医学生イベント・シムリンピックについて～シミュレーション教育の理解と臨床能力客観評価のための教員連携～. 医学教育, 47, 259-271, 2015.

【著書】

1. 石川和信, 奈良信雄 (監訳). エッセンシャル臨床シミュレーション医療教育. 篠原出版新社, 東京, 2015.

【国際学会】

1. Sugawara A, Motoya R, Kobayashi G, Moroi Y, Fukushima T, Ishikawa K. Gender difference among medical students during introductory communication skills training. AMEE conference 2014, Milan, Italy, 2014.
2. Ishikawa K, Sugawara A, Kobayashi G, Moroi Y, Nara N. Confounding factors affecting utilization of clinical skills laboratories among Japanese medical schools. AMEE conference 2014, Milan, Italy, 2014.
3. Ishikawa K, Kobayashi G, Sugawara A, Moroi Y, Suzutani T, Fukushima T. A tablet PC-web based e-portfolio system for clinical rotation to support reflective learning and alliance among teachers. 16th Ottawa Conference, Ottawa, Canada, 2014.
4. Sugawara A, Moroi Y, Motoya R, Kobayashi G, Kumagai T, Fukushima T, Ishikawa K. Characteristics of communication in breaking bad news by medical students with little clinical experiences. 12th Asia Pacific Medical Education Conference & 3rd International Conference on Faculty Development in the Health Professions, Singapore, Singapore, 2015.
5. Sugawara A, Motoya R, Kobayashi G, Moroi Y, Fukushima T, Ishikawa K. Is there different

readiness and traits in medical students by gender for communication skills learning? The 47th Annual Meeting of the Japan Society for Medical Education, Niigata, Japan, 2015.

6. Kobayashi G, Sugawara A, Moroi Y, Motoya R, Saito T, Ishikawa K. Effects of manual dexterity in laparoscopic simulation skills training on medical students' career preferences. AMEE conference 2015, Glasgow, UK, 2015.

【国内学会】

・シンポジウム

1. 石川和信. 医学教育に求められる e-ポートフォリオのあり方. 振り返り学習と教員連携をめざしたタブレット PC を活用した臨床実習電子ポートフォリオ. 第46回日本医学教育学会大会, 和歌山, 2014.
2. 石川和信. 模擬患者養成における地域連携の現状と展望. 医療をささえるコミュニケーションセミナー in 東北2009~2013を振り返って. 第46回日本医学教育学会大会, 和歌山, 2014.

・特別講演

1. 石川和信. シミュレータ・モデルを活用した診療能力の評価; シミュレーション教育評価を臨床能力向上に結びつけるには? 第3回東北シミュレーション医学教育研究会, 福島, 2014.
2. 石川和信. 必要なシミュレーション教育を定着させ, 活気あるスキルラボにするには? 第47回日本医学教育学会大会, 新潟, 2015.
3. 石川和信. 医学生イベント・シムリンピック和歌山2014の報告と新潟2015の開催について. 第47回日本医学教育学会大会, 新潟, 2015.
4. 石川和信. 医学生イベント シムリンピック Simulation Medical Olympic について~シミュレーション教育の普及と臨床能力客観評価~. 第6回東北シミュレーション医学教育研究会, 福島, 2015.

・一般発表

1. 斎藤拓朗, 添田暢俊, 武藤 亮, 浅野 宏, 竹重俊幸, 大谷泰介, 五十畑則之, 遠藤俊吾, 石川和信, 牧村幸敏, 國田智, 菱川修司, 小林英二. ブタ皮膚の遠隔移送による皮膚縫合シミュレーション実習 (第2報). 第3回東北シミュレーション医学教育研究会, 福島, 2014.
2. 本谷 亮, 菅原亜紀子, 小林 元, 諸井陽子, 松田 希, 佐久間光太郎, 西條 聡, 渡辺洋平, 中村裕一, 仲江川雄太, 安井清孝, 吉田浩二, 八木沼洋行, 福島哲仁, 石川和信. 模擬患者は医学生へのフィードバックをどう感じているか? 第3回東北シミュレーション医学教育研究会, 福島, 2014.
3. 菅原亜紀子, 本谷 亮, 小林 元, 諸井陽子, 松田 希, 安井清孝, 八木沼洋行, 福島哲仁, 石川和信. オリジナルビデオクリップを用いた医療面接 Advanced OSCE. 第2回日本シミュレーション医療教育学会, 宮崎, 2014.
4. 本谷 亮, 小林 元, 菅原亜紀子, 諸井陽子, 松田 希, 佐久間光太郎, 西條 聡, 渡辺洋平, 中村裕一, 仲江川雄太, 安井清孝, 吉田浩二, 八木沼洋行, 福島哲仁, 石川和信. こころのケア

- 学習で観察された模擬患者と医学生間の相違点. 第46回日本医学教育学会大会, 和歌山, 2014.
5. 小林 元, 菅原亜紀子, 諸井陽子, 本谷 亮, 八木沼洋行, 福島哲仁, 石川和信. 腹腔鏡下手術シミュレーション学習で観察された医学生の器用さと希望する進路との関連性. 第46回日本医学教育学会大会, 和歌山, 2014.
 6. 菅原亜紀子, 本谷 亮, 小林 元, 諸井陽子, 熊谷智広, 八木沼洋行, 福島哲仁, 石川和信. 臨床経験のない医学生が模擬患者へのがん告知を行った際に示した医療面接の特性. 第46回日本医学教育学会大会, 和歌山, 2014.
 7. 吉田浩二, 熊谷敦史, 安井清孝, 本谷 亮, 宮崎真, 長谷川有史, 佐藤久志, 緑川早苗, 大津留晶, 福島哲仁. 医学生に対する放射線災害医療教育の評価－理解度確認テストの分析－. 第46回日本医学教育学会大会, 和歌山, 2014.
 8. 平野雅, 朝倉由香, 大谷晃司, 石川和信. 体験研修で学んだ豪雪の会津と東日本大震災・原発事故被災した相双の地域医療. 第46回日本医学教育学会大会, 和歌山, 2014.
 9. 小林 元, 斎藤拓朗, 菅原亜紀子, 諸井陽子, 石川和信. 内科系と外科系志望医学生間に腹腔鏡下手術シミュレータ操作能力に差はあるか? 第4回東北シミュレーション医学教育研究会, 秋田, 2014.
 10. 菅原亜紀子, 小林 元, 本谷 亮, 西條 聡, 仲江川雄太, 安井清孝, 吉田浩二, 中島 大, 諸井陽子, 石川和信. クリニカル・スキルスラボで過ごす臨床実習 One-day プログラム. 第5回東北シミュレーション医学教育研究会, 仙台, 2015.
 11. 小林 元, 菅原亜紀子, 諸井陽子, 本谷 亮, 斎藤拓朗, 石川和信. 医学生で観察された腹腔鏡下手術シミュレータ操作の性差による特徴と自己評価力. 第3回日本シミュレーション医療教育学会, 下野, 2015.
 12. 菅原亜紀子, 本谷 亮, 小林 元, 諸井陽子, 安井清孝, 石川和信. オリジナルビデオクリップを用いたコミュニケーション能力試験で観察された医学生と SP の差異. 第47回日本医学教育学会大会, 新潟, 2015.
 13. 本谷 亮, 菅原亜紀子, 小林 元, 諸井陽子, 西條 聡, 仲江川雄太, 中島 大, 松本純弥, 安井清孝, 吉田浩二, 大森孝一, 石川和信. 模擬患者の考える入院中の患者 医療者間で問題となるコミュニケーション. 第47回日本医学教育学会大会, 新潟, 2015.
 14. 小松弘幸, 石川和信, 首藤太一, 阿部恵子, 藤崎和彦, 吉田素文, 大槻真嗣, 泉美貴, 鈴木敬一郎, 石川鎮清, 廣橋一裕. 臨床シミュレーション教育の活用は医学生の自己評価を高めるか? 第47回日本医学教育学会大会, 新潟, 2015.
 15. 諸井陽子, 小林 元, 菅原亜紀子, 本谷 亮, 石川和信. 医学生・医療人が起こしたインターネットを介するモラルハザードのレビュー. 第47回日本医学教育学会大会, 新潟, 2015.
 16. 小林 元, 石川和信, 諸井陽子, 菅原亜紀子, 大谷晃司, 村川雅洋, 羽金和彦, 渡辺直彦, 向原茂明, 福井次矢. 指導医講習会の学習効果と60歳以上の受講者に観察された医学教育研修でのパターンリズム. 第47回日本医学教育学会大会, 新潟, 2015.
 17. 石川和信, 本谷 亮, 菅原亜紀子, 小林 元, 諸井陽子. 一般住民である模擬患者は意思疎通が十分でない後期高齢者との医療面接スキルを学ぶべきと指摘した. 第26回日本老年医学会東北地方会, 仙台, 2015.

18. 松田 希, 菅原亜紀子, 小林 元, 諸井陽子, 石川和信. 臨床実習カリキュラムに組み込まれた腰椎穿刺シミュレーション学習. 第6回東北シミュレーション医学教育研究会, 福島, 2015.
19. 菅原亜紀子, 本谷 亮, 小林 元, 諸井陽子, 西條 聡, 仲江川雄太, 中島 大, 安井清孝, 吉田浩二, 石川和信. 入院中の患者—医療者間で問題となるコミュニケーション—模擬患者の視点から—. 第6回東北シミュレーション医学教育研究会, 福島, 2015.

【助 成】

・科学研究費補助金

1. 若手研究 (B) 24790506 2012年度～2014年度
困難な医療面接 ‘悪い知らせ’ に要求される医師側のコンピテンシーについての研究
代表：菅原亜紀子
2. 基盤研究 (C) 26460607 2014年度～2016年度
医学生の psychomotor skill は専門診療科選択に影響するか？
代表：小林 元
3. 若手研究 (B) 26860348 2014年度～2016年度
インターネット・コミュニティで医療人が起こしうるモラルハザード問題を考える
代表：諸井陽子
4. 若手研究 (B) 15K19153 2015年度～2017年度
継続診療のコミュニケーションスキルを学ぶ SP 参加型教育プログラムの開発
代表：菅原亜紀子

【受 賞】

1. Sugawara A. Award for Academic Excellence (Early Career Investigators). International Session of the 47th Annual Meeting of the Japan Society for Medical Education, Niigata, Japan, July24, 2015.

【その他】

1. 石川和信. 「臨床五輪」で良医育成. 読売教育ネットワーク：大学の實力：異見交論. <http://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/jitsuryoku/iken/contents/post-438.php>, 2015年11月10日.
2. 石川和信. 論点「臨床五輪」医学生鍛える. 読売新聞朝刊, p13, 2015年11月10日.

論点

「臨床五輪」医学生鍛える



石川 和信氏
いしかわ かずひさ

福島県立医科大学准教授、内科医。日本医学教育学会シムリンピック・コーディネーター。厚生労働省・医師国家試験委員。54歳。

医師として必要な力を学生時代に身につけてほしいと、日本医学教育学会が今年7月、新潟大学で「シムリンピック（臨床五輪）」を開いた。人体模型や診療トレーニング機器（シミュレーター）を活用し、さまざまな診療場面を設定して、身体診察、救急対応、外科縫合などの臨床能力を競う五輪だ。

昨年に続いて2回目、今回は「マラソン大会で倒れたランナーが倒れた」腕を切った患者さんの不安を和らげ、初期治療を行うなど6つの課題を設定。全国の大学から集まった12チーム36人の医学生が研鑽の成果を競った。

回は「マラソン大会で倒れたランナーが倒れた」腕を切った患者さんの不安を和らげ、初期治療を行うなど6つの課題を設定。全国の大学から集まった12チーム36人の医学生が研鑽の成果を競った。

臨床五輪では、個人としてだけでなく、チームとしても審査した。リーダーが治療方針を決め、チームで全力を尽くす。医療はチームワークが必須だからだ。私がシムリンピックを企画したのは、二つの理由から

「統合型教育カリキュラム」が充実できない。これは、医療チームの一員としてのコミュニケーション能力や問題解決力、使命感を身につける課程だ。

日本では、4年生までは講義中心で、5年生になって臨床実習が始まる大学が大半。その期間は40〜50週と、国際水準の72週以上にほど短い。短期間で内科や外科など二十数科以上の診療科を駆け回る。患者さんの協力が得られないと、学生は医療チームの一員ではなく、医師の後ろからの見学にとどまる。学生全員が指導医の下で診療に参加する機会を得るのは難しい。

今や、診療現場で患者や医療チームに接する参加型臨床実習の重視は、国際的な趨勢だ。2011年、世界保健機関（WHO）が患者安全カリキュラムガイドを公表した。それは、学生段階から患者の安全に配慮し医療チームの一員としての教育されるべきである、との考え方に立っている。

米国は、国際基準に基づいた医学教育認証評価を受けていない海外の医学部卒業生を、23年以降、米国の卒業臨床研修プログラムに受け入れないことを決めている。これは、単に米国で

研修できないという個人の問題だけでなく、国際基準にもとる医学教育は国際社会から指弾されかねないことを意味する。日本の医師養成の再検討が急務だ。

臨床現場は多忙ではあるが、患者さんに負担をかける、いつでも学べるシミュレーション教育を普及させ、医学生の臨床能力を向上させることはできる。基本的能力を高め、診療に参加して現場での経験を重ねる。良医育成には、「医師は社会が全員で育てる」という共通理解が欠かせない。（聞き手・専門委員 松本美奈）

2) 臨床醫學教育研修部門



臨床医学教育研修部門の取り組み

臨床医学教育研修部門長 大谷 晃司

平成26、27年度の臨床医学教育研修部門の活動報告の詳細は、別項の通りです。前回の年報で触れた地域医療再生基金を財源とする活動は、平成27年度末まで地域医療再生基金が延長されたため、福島・良き医師をはぐくむプロジェクトと福島県臨床研修病院ネットワーク事業は継続することができました。しかし、地域医療再生基金は平成27年度で終了となることは決定済みですが、後継の基金については、国の最終認可が未だ下りず、本稿の執筆時点（平成28年2月末）では、平成28年度の活動が例年通り行えるかどうかは未確定であります。

当センターの年報第1号（H20～21年度）を読み返してみますと、設立時の臨床医学教育研修部門の活動目標を以下の様に掲げていました。

1. 卒後臨床研修及び専門医研修における研修プログラムの企画・調整と統括
2. 地域医療研修プログラムの企画・調整と支援
3. 研修医の支援事業
4. 女性医師支援策（復帰プログラム等）の企画・調整と支援
5. 医師生涯教育による地域医療充実策の企画・調整と支援
6. 小児科、産科及び救急・麻酔科医師不足対策に関する企画と支援
7. 地域研修ネットワークとして、光が丘協議会（大学と研修協力病院で構成されている組織）の活用及び県内臨床研修病院との研修プログラム調整
8. 県内医師定着施策に関する検討

女性医師支援に関する内容は、女性医師支援センターが平成22年度に臨床医学教育研修部門の中に設立された後、平成26年度からは、女性研究者を支援してきたキャリアラボと統合され、男女共同参画支援室として、独立した部門へ発展しております。

それ以外の活動目標はどうかというと、試行錯誤を繰り返しながら、結果的には上記8の“県内医師定着施策に関する検討”を基盤とした個々の活動が他の項目となるように収斂してきたと言えるでしょう。

また、前回の年報では、いわゆる医学部の“72週問題”が触れられています。現状はといたしますと、平成27年度の入学生よりカリキュラムが大きく変更されています。例えば、授業時間の一コマが90分から60分への短縮や1年生と3年生に4日間の地域実習が開始、あるいは彼ら彼女らが4年生になったときBSL（bedside learning）が4年の後期から始まるといったことが挙げられます。臨床医学教育研修部門は、3年生の地域実習における県やいわき市の地域医療体験研修（2泊3日）との単位互換の橋渡し役となりました。平成28年度は、白河市、公立岩瀬病院（須賀川市）、公立小野町（小野町）がさらに地域医療体験研修を実施する予定となっております。また、BSLの改善に向けて、学内外との橋渡し役となる予定で、臨床医学教育研修部門の活動における学部教育の占める割合も少しずつ増えてきています。

2014年度

2014年

- 4月5日 新臨床研修医合同オリエンテーション開催（～6日）（ホテルリステル猪苗代）
- 4月11日 福島県立医科大学医学部5年生の未来を語る会開催（ウエディングエルティ）
- 4月26日 福島県臨床研修病院合同ガイダンス2014 in 福島へ出展（福島県立医科大学）
- 5月10日 福島県事業「ACLS講習会」との連携（福島県立医科大学他）合計5回開催
- 5月29日 緩和ケアセミナー（福島県立医科大学）合計10回開催
- 6月1日 eレジフェア2014 in 西日本へ出展（西日本総合展示場）
- 6月8日 マイナビレジデントフェスティバル宮城へ出展（仙台アエル）
- 6月14日 福島県研修病院ネットワークガイダンス in 東京2014開催（都市センターホテル）
- 6月21日 第19回福島アドバンスド・コース開催（～22日）（磐梯熱海「緑風苑」）
（FACE:Fukushima Advanced Course by Experts）
メイン講師：北海道勤医協札幌病院内科 佐藤 健太先生
- 6月22日 マイナビレジデントフェスティバル東京へ出展（東京ビックサイト）
- 6月29日 eレジフェア2014 in TOKYOへ出展（東京国際フォーラム）
- 7月6日 レジナビフェア2014 in 大阪へ出展（インテックス大阪）
- 7月20日 レジナビフェア2014 in 東京へ出展（東京ビックサイト）
- 8月9日 第20回福島アドバンスド・コース開催（～10日）（磐梯熱海「緑風苑」）
（FACE:Fukushima Advanced Course by Experts）
メイン講師：滋賀医科大学呼吸器内科 長尾 大志先生
- 8月27日 地域交流事業地域医療研修会への支援
・相双地域医療体験研修（夏期）相双コース（～29日）
- 9月28日 eレジフェア2014 in OSAKAへ出展（ATC 大阪）
- 10月3日 アラン・レフォー教授セミナーに対する学生支援（会津医療センター）
- 10月4日 レジデントスキルアップセミナー「心エコーセミナー」開催
（福島県文化センター）
- 10月25日 福島県主催指導医養成講習会への支援（～26日）（福島テルサ）
- 11月1日 第21回福島アドバンスド・コース開催（～2日）（磐梯熱海「緑風苑」）
（FACE:Fukushima Advanced Course by Experts）
メイン講師：地域医療機能推進機構本部研修センター長 徳田 安春先生
- 11月21日 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス開催（ウエディングエルティ）
- 11月22日 心電図セミナー（南会津まちふれあい健康セミナー講演会）（御蔵入交流館）
- 11月29日 第6回診断推論セミナー開催（～30日）（磐梯熱海「緑風苑」）
講師：名古屋第二赤十字病院 救急・総合内科部長 野口 善令先生
- 12月8日 グローバル医師育成海外研修 12月コース 実施（～12日）（米国ニューヨーク市）

2015年

- 1月10日 福島県立医科大学主催新臨床研修指導医養成研修会開催(～11日)(福島県立医科大学)
- 1月31日 レジデントスキルアップセミナー「腹部エコーセミナー」開催(コラッセふくしま)
- 2月7日 第22回福島アドバンスド・コース開催(～8日)(磐梯熱海「緑風苑」)
(FACE:Fukushima Advanced Course by Experts)
- 2月13日 福島県立医科大学向け指導医セミナー開催(福島県立医科大学)
講師:長崎大学病院医療教育開発センター教授 濱田 久之先生
- 2月14日 臨床研修病院向け指導医セミナー(ホテル辰巳屋)
講師:長崎大学病院医療教育開発センター教授 濱田 久之先生
- 2月26日 地域交流事業地域医療研修会への支援
・会津地域医療体験研修(冬期)会津・南会津コース(～27日)
- 3月1日 レジナビフェア2015 in 福岡へ出展(マリンメッセ福岡)
- 3月3日 地域交流事業地域医療研修会への支援
・相双地域医療体験研修(冬期)相双コース(～4日)
- 3月7日 東日本大震災追悼講演会に対する学生支援(大阪市)
- 3月7日 レジデントスキルアップセミナー「地域医療症例検討会」(福島県医師会館)
- 3月11日 地域交流事業地域医療研修会への支援
・県南地域医療体験研修(冬期)県南コース(～12日)
- 3月22日 レジナビフェアスプリング2015 in 東京へ出展(東京ビックサイト)

2015年度

2015年

- 4月4日 新臨床研修医合同オリエンテーション開催(～5日)(ホテルリステル猪苗代)
- 4月12日 マイナビレジデントフェスティバル北海道へ出展(札幌パークホテル)
- 4月24日 福島県立医科大学医学部5年生の未来を語る会開催(ウエディングエルティ)
- 4月24日 外傷初期診療セミナー(年10回開催)
- 4月25日 福島県臨床研修病院合同ガイダンス2015in 福島へ出展(福島県立医科大学)
- 4月26日 マイナビレジデントフェスティバル宮城へ出展(仙台国際センター)
- 5月4日 グローバル医師育成海外研修 5月コース 実施(～8日)(米国ニューヨーク市)
- 5月10日 マイナビレジデントフェスティバル東京へ出展(品川インターシティ)
- 5月24日 eレジフェア2015 in TOKYO(東京国際フォーラム)
- 5月30日 第23回福島アドバンスド・コース開催(～31日)(磐梯熱海「緑風苑」)
(FACE:Fukushima Advanced Course by Experts)
メイン講師:諏訪中央病院 内科総合診療部 山中 克郎先生
- 6月13日 福島県事業「ACLS 講習会」との連携(福島県立医科大学他)合計6回開催
- 6月14日 レジナビフェア2015 in 東京(後期研修)へ出展(東京ビッグサイト)

- 6月21日 e レジフェア2015 in OSAKA へ出展 (ATC ホール)
- 7月4日 福島県研修病院ネットワークガイダンス in 東京2015開催 (都市センターホテル)
- 7月5日 レジナビフェア2015 in 大阪へ出展 (インテックス大阪)
- 7月19日 レジナビフェア2015 in 東京へ出展 (東京ビッグサイト)
- 7月29日 地域交流事業地域医療研修会への支援
いわき市地域医療体験研修 (～31日)
- 8月8日 第24回福島アドバンスド・コース開催 (～9日) (磐梯熱海「緑風苑」)
(FACE:Fukushima Advanced Course by Experts)
講師: 東京大学医学部附属病院 比留間孝広先生
- 8月24日 地域交流事業地域医療研修会への支援
)
 ・ 県南地域医療体験研修 (夏期) 県南コース (24～26日)
- 9月2日
 ・ 相双地域医療体験研修 (夏期) 相双コース (26～28日)
 ・ 会津地域医療体験研修 (夏期) 会津・南会津コース (31～9月2日)
- 9月17日 第7回アラン・レフォー教授セミナーに対する学生支援 (会津医療センター)
- 9月19日 第7回診断推論セミナー開催 (～20日) (磐梯熱海「緑風苑」)
講師: 名古屋第二赤十字病院 救急・総合内科部長 野口 善令先生
- 9月25日 福島県立医科大学向け指導医セミナー開催 (福島県立医科大学)
講師: 長崎大学病院医療教育開発センター教授 濱田 久之先生
- 10月3日 レジデントスキルアップセミナー「地域医療症例検討会」開催 (星総合病院)
- 10月10日 福島県主催指導医養成講習会への支援 (～11日) (福島県立医科大学)
- 10月24日 レジデントスキルアップセミナー「心エコーセミナー」開催 (福島県文化センター)
- 11月7日 第25回福島アドバンスド・コース開催 (～8日) (磐梯熱海「緑風苑」)
(FACE:Fukushima Advanced Course by Experts)
講師: 地域医療機能推進機構 本部顧問 徳田 安春先生
- 11月8日 PIPC 福島県立医大セミナー (PIPC ベーシックコース) に対する学生支援
(福島県立医科大学)
- 11月20日 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス開催 (ウエディングエルティ)
- 12月7日 グローバル医師育成海外研修 12月コース 実施 (～11日) (米国ニューヨーク市)
- 12月13日 e レジフェア2015 in FUKUOKA へ出展 (福岡国際会議場)
- 1月9日 福島県立医科大学主催新臨床研修指導医養成研修会開催 (～10日) (福島県立医科大学)
- 1月30日 レジデントスキルアップセミナー「腹部エコーセミナー」開催 (コラッセふくしま)
- 2月6日 第26回福島アドバンスド・コース開催 (～7日) (磐梯熱海「緑風苑」)
(FACE:Fukushima Advanced Course by Experts)
講師: 東京慈恵会医科大学 麻酔科学講座 准教授 鈴木 昭広先生
- 3月6日 レジナビフェア2016 in 福岡へ出展 (マリンメッセ福岡)
- 3月20日 レジナビフェアスプリング2016 in 東京へ出展 (東京ビッグサイト)

5年生との未来を語る会

事業内容と目的：臨床実習が始まる5年生に対して、スムーズに実習に入ることが出来るように、食事をしながら、臨床系との教員との交流をはかる。

開催年月日	場所	参加者	
		5年生（学年人数）	教員（講座数）
H26. 4. 11	ウエディングエルティ	98（105）	83（26）
H27. 4. 24	ウエディングエルティ	107（110）	73（26）

第1部と第2部に分かれて構成されている。第1部のプログラムは、以下のとおり。

H26/H27：「BSL とはなんだろう」

- ・研修医と指導医によるパネルディスカッション

開催にあたっての資金は、医学部後援会から一部ご支援を頂いている。

学生に対するアンケート結果は概して良好。

参加者の声（H27アンケートより抜粋）

- ・BSLを開始するにあたって不安が解消された。
- ・先生方と距離が近く感じられる。
- ・先生方とお話できてとても良かった。



	5年生との交流会を来年も開催すべきかどうか？		
	開催した方がよい	どちらでもよい	開催しなくてもよい
H26	88	4	0
H27	83	11	0



研修医説明会

1. 臨床研修医募集に関する説明会

業者が主催する説明会（レジナビ）への参加と、福島県が主催する説明会への参加に大きく区別される。特に平成23年度からは、東日本大震災を受けて、単に臨床研修医募集を目的とするだけでなく、福島の実状を理解して頂くためという意味も含め、大阪や福岡で開催されるレジナビにも参加している。平成27年度の採用研修医には福岡レジナビで、平成28年度採用予定の研修医には東京レジナビ等で知り合った学生を採用することが出来た。

開催年月日	説明会名称	事業主体	開催場所	参加病院	参加者数	うち医大
2014. 6. 1	e レジフェア2014 in 西日本	ネットワーク	西日本総合展示場 (北九州市)	4	55	16
2014. 6. 8	マイナビレジフェス 宮城会場	福島県立 医科大学	仙台アエル (仙台市)			1
2014. 6. 14	福島県臨床研修病院合 同ガイダンス in 東京	福島県・ ネットワーク	都市センターホテル (東京都)	15	19	5
2014. 6. 22	マイナビレジフェス 東京会場	福島県立 医科大学	東京ビッグサイト (東京都)			16
2014. 6. 29	e レジフェア2014 in 東京	ネットワーク	東京国際フォーラム (東京都)	1	10	10
2014. 7. 6	レジナビフェア2014 in 大阪	ネットワーク	インテックス大阪 (大阪市)	1	9	9
2014. 7. 20	レジナビフェア2014 in 東京	福島県・ ネットワーク	東京ビッグサイト (東京都)	14	186	14
2014. 9. 28	eレジフェア2014 in 大阪	ネットワーク	ATC 大阪 (大阪市)	2	18	13
2014. 11. 21	福島県臨床研修病院合 同ガイダンス	福島県・ ネットワーク	ウエディングエルティ (福島市)	18	76	
2015. 3. 1	レジナビフェア2015 in 福岡	ネットワーク	福岡マリンメッセ (福岡市)	2	13	7
2015. 3. 22	レジナビフェア スプリング2015 in 東京	ネットワーク	東京ビッグサイト (東京都)	10	86	13
2015. 4. 12	マイナビレジフェス 北海道会場	福島県立 医科大学	札幌パークホテル			19
2015. 4. 26	マイナビレジフェス 宮城会場	福島県立 医科大学	仙台国際センター (仙台市)			10
2015. 5. 10	マイナビレジフェス 東京会場	福島県立 医科大学	品川インターシティ (東京都)			22
2015. 5. 24	e レジフェア2015 in 東京	ネットワーク	東京国際フォーラム (東京都)	7	96	18

開催年月日	説明会名称	事業主体	開催場所	参加病院	参加者数	うち医大
2015. 6. 21	eレジフェア2015 in大阪	ネットワーク	ATC 大阪 (大阪市)	2	24	17
2015. 7. 4	福島県臨床研修病院合同ガイダンス in 東京	福島県・ネットワーク	都市センターホテル (東京都)	13	10	4
2015. 7. 5	レジナビフェア2015 in 大阪	ネットワーク	インテックス大阪 (大阪市)	2	20	14
2015. 7. 19	レジナビフェア2015 in 東京	福島県・ネットワーク	東京ビッグサイト (東京都)	12	205	30
2015. 11. 20	福島県臨床研修病院合同ガイダンス	福島県・ネットワーク	ウエディングエルティ (福島市)	18	78	
2015. 12. 13	eレジフェア2015 in 福岡	ネットワーク	福岡国際会議場 (福岡市)	2	22	11
2016. 3. 6	レジナビフェア2016 in 福岡	ネットワーク	福岡マリメッセ (福岡市)	2	19	13
2016. 3. 20	レジナビフェア スプリング2016 in 東京	ネットワーク	東京ビッグサイト (東京都)	10		

ネットワーク：福島県臨床研修病院ネットワーク

2. 専攻医（いわゆる後期研修医）募集に関する説明会

専攻医については、各診療科が主体となり、医局説明会等を開催し、募集活動をおこなっている。平成27年度採用者は県内臨床研修医の増加を背景に、57名（うち歯科医師1名）と過去最高の実績となった。

医療人育成・支援センターでは、医局における活動と連携し、業者が主催する説明会（レジナビ）へ参加し、広く応募を呼びかけている。

開催年月日	説明会名称	事業主体	開催場所	参加者数
2014. 6. 15	レジナビフェア for Resident 2014 in 東京	福島県立医科大学	東京ビッグサイト(東京都)	2
2015. 6. 14	レジナビフェア for Resident 2015 in 東京	福島県立医科大学	東京ビッグサイト(東京都)	5

地域医療体験研修

地域医療の重要性が叫ばれてはいるが、現在、福島医大のカリキュラム上、医学生が地域に出て行って、地域医療の現状について直接学ぶ機会は残念ながら少ないと言わざるを得ない。また、大学病院での勉強や実習が中心となっている現行では、大学病院で行われている医療は、“国民・県民の健康を守る”という観点から見れば一部であり、医療の遂行には、大学病院以外の医療機関のみならず、行政や福祉との連携が重要であることを知る機会もなかなかない。さらには、福島で働く医師の招聘の上で、まずは福島医大生が“福島県”という地域に興味を持ってもらうことが重要である。このような観点から、医療人育成・支援センター 臨床医学教育研修部門は、様々な活動を行ってきた。

平成19年度より、奥会津の人材育成事業の一環として、会津保健福祉事務所・南会津保健福祉事務所が、夏期と春期の長期休業中に県内外の医学部生に対して、地域での医療体験を提供する研修事業を開始している。平成22年度からは、会津／南会津だけではなく、県南と相双の保健福祉事務所でも同様な取り組みが始まっている。医療人育成・支援センターは、センター発足後からプログラム作成、研修の引率等、積極的に関与している。

本活動のユニークな点の一つには、参加者を福島医大生だけに限らず、広く全国の医学生を対象としていることがあげられる。主な地域・協力施設とプログラム、参加者は以下のとおりである。

会津／南会津

開催年月日		福島医大生	福島医大以外
平成26年度	平成27年2月26日～27日	8	0
平成27年度	平成27年8月31日～9月2日	15	0
合 計		23	0

協力施設、研修内容：

昭和村国保診療所、南会津病院の視察、南会津地方消防本部の視察

地域住民・医療従事者等との懇談

会津の生活・文化のふれあい

昭和村からむし織の織姫との懇談会、県立宮下病院視察、医療従事者との懇談会、

只見町国民健康保険朝日診療所視察、介護保険施設こぶし苑視察、会津中央病院視察、

KJ法、グループワーク

県南

開催年月日		福島医大生	福島医大以外
H26年度	3月11日～12日	5	2
H27年度	8月24日～26日	15	0
合 計		20	2

協力施設、研修内容：

地域医療現場の視察

（金澤医院の視察、塙厚生病院の視察、白河厚生病院の視察・臨床研修医との懇談会）

地域医療に従事する医師との懇談会、地域住民との交流（金澤医院の診療訪問に同行）

福島県文化財センター白河館まほろん見学、医療従事者との懇談会（金澤医院、塙厚生病院）

鮫川村地域住民との交流、健康教室

相双

開催年月日		福島医大生	福島医大以外
H26年度	3月3日～4日	2	6
H27年度	8月26日～28日	17	0
合 計		19	6

協力施設、研修内容：

地域医療現場の視察（絆診療所の視察、南相馬市立総合病院の視察）

臨床研修医との懇談（南相馬市立総合病院の臨床研修医との懇談会）

地域の精神保健活動の視察（心のケアセンターなごみの視察）

食の安心・安全の取り組みの視察、津波被災地域及び地域の歴史と文化の視察、

かわうち草野心平記念館見学、川内村保健福祉医療複合施設ゆふね見学（震災時の保健活動にて）

医療従事者との懇談会、仮設住宅にて地域住民との交流、ボランティア活動、

公立相馬総合病院の視察及び臨床研修医との懇談会、KJ法、グループワーク

*各研修の報告書は、福島県のホームページの子育て・医療・福祉の中の医療・保健医師を志す学生に対する支援の地域医療体験研修から閲覧することができる。

【現状と今後の課題】

必ずしもすべてのプログラムが定員を満たすわけではない。参加者の満足度は極めて高いが、参加するまでのハードルが高いようである。平成27年度から3年生の地域実習Ⅱと単位互換制度にしたことで、医大学生の参加者が増加した。

福島・良き医師をはぐくむプロジェクト

福島県では個々の病院で研修している研修医同士が交流しながら勉強する機会がないという認識の元、平成21年より、福島アドバンスド・コース（FACE:Fukushima Advanced Course by Experts）と診断推論セミナーを開催しています。交流を通じて、研修医同士が自分の研修内容や実績を他院の研修医と比較し、今後の研修の励みとなるとともに、指導医も交流することが出来れば、県内の研修の質の向上につながるのではないかという意図で開催を続けています。当初は、県内の研修医を対象に企画していたのですが、回を重ねるたびに県外の研修医や県内外の医学部生が集まり、切磋琢磨の場のみならず、福島県の臨床研修の魅力を伝える場にもなっています。

財団法人太田総合病院の全面的な支援をいただき、源泉温泉付きの磐梯熱海の緑風苑で開催しております。温泉付きの勉強会として、全国的にも有名な勉強会となってきています。

1. 福島アドバンスド・コース

回数	開催年月日	メイン講師
第19回	平成26年6月21日～22日	北海道勤医協札幌病院内科 佐藤 健太先生
第20回	平成26年8月9日～10日	滋賀医科大学呼吸器内科 長尾 大志先生
第21回	平成26年11月1日～2日	地域医療機能推進機構（JCHO）本部 研修センター長 徳田 安春先生
第22回	平成27年2月7日～8日	—
第23回	平成27年5月30日～31日	諏訪中央病院内科総合診療部 山中 克郎先生
第24回	平成27年8月8日～9日	東京大学医学部附属病院 比留間孝広先生 他
第25回	平成27年11月7日～8日	地域医療機能推進機構（JCHO） 本部顧問 徳田 安春先生
第26回	平成28年2月6日～7日	東京慈恵会医科大学麻酔科学講座 鈴木 昭広先生

回数	学生		臨床研修医		後期研修医	医師	合計
	福島医大	その他	県内	県外			
第19回	7	1	30	2	0	3	43
第20回	3	1	18	2	0	9	33
第21回	11	3	10	2	2	4	32
第22回	10	1	14	1	0	0	26
第23回	11	0	20	2	3	2	38
第24回	1	0	20	0	6	1	28
第25回	11	2	15	1	1	1	31
第26回	7	1	19	0	0	4	31



2. 診断推論セミナー

	開催年月日	メイン講師
第6回	平成26年11月29日～30日	名古屋第二赤十字病院 救急・総合内科部長 野口 善令先生
第7回	平成27年9月19日～20日	

回数	学生		臨床研修医		後期 研修医	医師	合計
	福島医大	その他	県内	県外			
第6回	10	1	3	0	3	1	18
第7回	2	2	13	1	3	0	21

開催資金は、24年度までは、文部科学省大学改革推進等補助金（東北高度医療人キャリアパス支援システム）、25年度以降は、福島県地域医療再生基金臨時特例基金を活用しています。



福島県臨床研修病院ネットワークの活動

福島県臨床研修病院ネットワークの活動

福島県は医師不足が深刻な状況を踏まえ、平成22年11月に「地域医療再生計画」を策定し、各種施策を展開している。その一環として、県は本学に対する補助事業として「福島県臨床研修病院ネットワーク」を平成23年度から立ち上げ、当医療人育成・支援センターが事務局として運営している。活動は多岐にわたっている。

1. 臨床研修医招聘事業

1) 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 東京

首都圏の医学生に対する臨床研修病院の説明会として、毎年6月に都市センターホテルで開催している。2012年からは、福島県とタイアップして、県の修学資金生に対する面談も合わせて行っている。参加学生数等は、以下の通り。

年度	参加医学生	参加病院数	県内臨床研修病院数
2014	19名	15病院	18病院
2015	10名	13病院	18病院

2) レジナビフェア等への参加

各地で開催される医学生対象の臨床研修病院合同説明会に積極的に参加している。詳細は、別項の研修医説明会参照。

3) 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 福島の開催

県内研修病院の周知を目的として、福島医大5年生に対して、11月に開催している。県内全ての研修病院によるプレゼンテーションをはじめ、ネットワークの活動等の紹介も行う第1部と、立食パーティー形式の第2部からの構成を基本としている。

年度	開催月日	場所	参加学生数	5年生 在籍数	参加率 (%)
2014	11. 21	エルティ	76名	102名	75
2015	11. 20	エルティ	78名	110名	71



4) 福島県臨床研修病院合同ガイダンス

平成21年度まで春期休業中に福島県主催で行われていた福島県内の臨床研修病院合同ガイダンスを平成22年度から、ネットワーク共催という形で開催している。詳細は、別項の研修医説明会参照。

5) 福島県立医科大学内個別説明会等の開催

県内各臨床研修病院の福島医大学生への認知度を上げるために、各病院による昼休みや放課後での説明会や講義を積極的に奨めている。過去の実績は、以下の通り。

年度	実施回数 (のべ)	参加病院数	合計参加学生数
2014	14回	7 病院	230名
2015	9 回	6 病院	170名

6) ふくしま“絆”医学生臨床実習支援事業

平成24年度より、福島医大学生以外の医学生が県内臨床研修病院で学外臨床実習を行う場合、一人あたり5万円の助成を行っている。過去の実績は、以下の通り。

年度	支援者数 (のべ)	大学数	病院数
2014	3 名	1 大学	1 病院
2015	1 名	1 大学	1 病院

2. 臨床研修医育成事業

1) 臨床研修医合同オリエンテーション

平成24年度より、4月の第1週の土日に、県内で臨床研修を開始する全ての研修医を集めた合同オリエンテーションを開始した。初日には、福島県臨床研修病院ネットワークや県内で開催しているFACEといった勉強会の紹介、ネットワークが県内の臨床研修医全てに提供しているEBM情報ツールであるDynaMedの使い方の紹介等である。また、知事をお招きした懇親会も行っている。翌日は、福島県ACLS協会の全面支援のもと、BSLを開催している。

2) 福島アドバンスド・コース (Fukushima Advanced Course by Experts:FACE)、診断推論セミナーの開催

温泉付きの1泊2日の勉強会として、全国的に有名となったFACEと診断推論セミナーを開催している。FACEは開催当初から地域医療再生臨時特定事業補助金を原資としており、ネットワークが設立されてから、ネットワークの事業の目玉となっている。診断推論セミナーは、平成24年度までは、文部科学省大学改革推進等補助金（東北高度医療人キャリアパス支援システム）を原資とし、平成25年度から、地域医療再生臨時特定事業補助金を原資とするネットワークの事業の一つとして、事業を継続している。詳細は別項を参照。

3) セルフ鍛錬研修の提供

県内の臨床研修の質の向上と均てん化をはかるため、インターネットを活用した自主研修教材の提供を行っている。県内の研修医すべてに教材を提供するという試みは、全国初である。以前、県内の研修病院の調査で、二次情報ツールとしてのUP TO DATEやDynaMedを研修医教育に導入している病院は半数に過ぎないという事実から、EBM情報ツールであるDynaMedを導入した。

4) ACLS

県内の臨床研修の質の向上と均一化をはかる一貫として、NPO法人福島県ACLS協会（会長 福島医大救急科 田勢長一郎教授）の全面的な支援のもと、平成24年度からは、BLSは合同オリエンテーションで受講させることで受講の機会を提供している。県内臨床研修医のACLS受講実績は、以下の通りである。

ACLS 取得状況

H28. 1. 21

No.		在籍者数		受講者数		受講率	
		1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
1	医科大学附属病院	6	16	5	11	83.3%	68.8%
2	大原総合病院	6	6	5	6	83.3%	100.0%
3	わたり病院	3	1	2	1	66.7%	100.0%
4	福島赤十字病院	7	8	6	7	85.7%	87.5%
5	公立藤田総合病院	2	2	1	2	50.0%	100.0%
6	太田西ノ内病院	16	18	5	8	31.3%	44.4%
7	星総合病院	3	6	2	2	66.7%	33.3%
8	総合南東北病院	11	8	7	8	63.6%	100.0%
9	寿泉堂総合病院	4	3	2	3	50.0%	100.0%
10	公立岩瀬病院	1	1		1	0.0%	100.0%
11	白河厚生総合病院	1	4		4	0.0%	100.0%
12	竹田総合病院	8	8	8	8	100.0%	100.0%
13	会津医療センター	2	5		5	0.0%	100.0%
14	会津中央病院	4	2	3	2	75.0%	100.0%
15	総合磐城共立病院	6	8	6	4	100.0%	50.0%
16	福島労災病院	1	0		0	-	-
17	公立相馬総合病院	1	1	1	1	100.0%	-
18	南相馬市立総合病院	4	2	4	2	100.0%	100.0%
	合 計	86	99	57	75	66.3%	75.8%

*平成28年2月時点

5) レジデントスキルアップセミナー

平成24年度から、臨床研修開始時に合同オリエンテーションを行い、臨床研修医の交流の場を設けた。FACEや診断推論セミナーは、研修医の交流の場、すなわち、他者と比較することで、自分の研修のすすみ具合を確認して、研修のモチベーションを高めてもらうという意味も持たせているのであるが、必ずしも県内臨床研修医が多く集まるわけではない。また、臨床研修医からは、合同オリエンテーションだけでなく、研修医が集まる場を提供して欲しいという要望もあり、本事業を平成24年度から立ち上げた。年1回の開催から始まったが、平成26年度は3回開催、平成27年度も3回開催の予定である。開催実績は以下の通り。

平成26年10月4日	心エコーセミナー 参加臨床研修医35名 (県文化センターにて開催)
平成27年1月31日	腹部エコーセミナー 参加臨床研修医31名 (コラッセふくしまにて開催)
平成27年3月7日	地域医療症例検討会 参加臨床研修医 16名 発表者：7 研修病院 9 グループ (福島県医師会館にて開催)
平成27年10月3日	地域医療症例検討会 参加臨床研修医 41名 発表者：8 研修病院 9 グループ (星総合病院にて開催)
平成27年10月24日	心エコーセミナー 参加臨床研修医 34名 (県文化センターにて開催)
平成28年1月30日	腹部エコーセミナー (開催予定) 参加臨床研修医 23名 (コラッセふくしまにて開催)

※症例検討会については上記のほか、福島県と福島県医師会の共催により、平成26年12月20日及び平成28年2月27日(各年度1回)に実施している。

6) 短期海外研修

米国日本人医師会による協力のもと、平成26年度から派遣費用の予算を確保していただき参加しました。

平成26年12月8日～12日 県内研修医3名

- ・福島県立医科大学 2年次初期研修医 小野 貴志先生
- ・福島県立医科大学 2年次初期研修医 佐藤 香寿美先生
- ・総合南東北病院 1年次初期研修医 松本 勇貴先生

平成27年5月4日～8日 県内研修医1名

- ・総合南東北病院 2年次初期研修医 西間木 淳先生

平成27年12月7日～12日 県内研修医5名

- ・福島県立医科大学 2年次初期研修医 海老原 研一先生
- ・福島県立医科大学 2年次初期研修医 鹿目 将至先生
- ・総合南東北病院 1年次初期研修医 松信 亨先生
- ・太田西ノ内病院 2年次初期研修医 井形 悠先生
- ・太田西ノ内病院 2年次初期研修医 松尾 はるか先生



3. 研修指導強化事業

1) 臨床指導医講習会

ネットワークは、県主催の福島県医師臨床研修指導医養成講習会と、福島県立医科大学主催の新臨床研修指導医養成研修会を共催・支援している。詳細は、別項参照。

2) 指導医セミナー

平成16年度から実施されている医師臨床研修制度では、研修医を指導する“臨床研修指導医（いわゆる指導医）”は、厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会の受講が義務とされている。この受講は、1度受ければ更新の必要はない。さらなる臨床研修の改善のためには、いわば“アフター指導医講習会”としての各臨床研修病院のプログラム責任者を含む指導医や研修事務担当者を対象としたセミナーを平成22年度から開催している。開催実績は以下の通り。

平成27年2月13日（「福島県立医科大学」で開催）参加者245名

講演会

- ・長崎大学病院 医療教育開発センター 教授 濱田 久之氏の講演
「地方大学でもやれる！マッチングV字回復、長崎の奇跡
～変化する勇気と捨てる覚悟で、全医局協力→65名マッチ！～」

平成27年2月14日（「ホテル辰巳屋」にて開催）参加者47名

第1部：講演会

- ・長崎大学病院 医療教育開発センター 教授 濱田 久之氏の講演
「若人の集まる福島県の病院群になるために！ ～全県協力長崎ちゃんぽん方式の試み～」

第2部：福島県立医科大学附属病院 臨床研修医発表会

- ・「沖縄中部病院視察報告」
福島県立医科大学附属病院臨床研修医（2年次）佐々木恭介
福島県立医科大学附属病院臨床研修医（1年次）山元 勝悟

平成27年9月25日（「福島県立医科大学」で開催）参加者19名

- ・OSTE（客観的指導能力評価）に関する全員参加型ワークショップ
長崎大学病院 医療教育開発センター 教授 濱田 久之氏
長崎大学病院 研修医（1年次）3名

平成28年2月16日（「福島県立医科大学」で開催）参加者42名

講演会

- ・ 沖縄県立中部病院内科チーフレジデント 曾田哲朗氏の講演
「良き臨床研修を目指して～沖縄での研修から考える」

4. 広報事業

以下のような事業を行っている。

1) ホームページの開設、臨床研修医メーリングリストの作成

2) 福島県臨床研修病院ガイドブックの作成

3) ネットワーク通信の発行

個人情報保護という観点から、福島県内高校の卒業生の医学部進学者の名簿作成ができないなか、医療人育成・支援センターは、その開設以来、東日本医科大学体育大会の名簿や各種事業の参加者より、医学生の名簿を作成してきた。この名簿を元に、月に1回、ネットワーク通信として、ネットワークの各種事業や県内臨床研修病院の病院見学や各種イベントの広報や紹介を行っている。

4) 臨床研修病院のPRコーナーの設置など

福島医大内に県内臨床研修病院のPRコーナーを設け、パンフレットを置いている。また、各病院のイベント等の紹介を学内の医療人育成・支援センター掲示板を使い、適時掲示している。

5. 成果—臨床研修医採用状況

臨床研修制度開始以来の県内・医大の臨床研修医マッチングと採用実績は、以下の通りである。平成27年度のマッチング数では、史上最高の96名が県内研修病院にマッチした。しかしながら、人口10万人あたりの研修医採用数を全国平均とするには、福島県全体としては132名の採用が必要である。福島県臨床研修病院ネットワークの活動が、各病院の努力と相まって、本県の医療状況の改善に役立つことが期待されている。

		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
福島県臨床研修医採用数		78	67	83	85	76	72	72	69	56	77	92	83	—
最終採用者数	福島医大卒	49	30	36	44	37	41	42	44	26	50	54	43	—
	福島医大以外卒	29	37	47	41	39	31	30	25	30	27	38	40	—
	福島県内出身	39	27	33	37	38	34	39	30	27	49	52	41	—
	福島県外出身	39	40	50	48	38	38	33	39	29	28	40	42	—
福島県総マッチング者数		82	68	82	82	77	73	72	78	61	76	92	88	96
(うち県内出身者数)		24	19	23	25	31	33	30	23	28	45	39	44	46
福島医大	6年生数	85	73	79	85	79	79	79	84	75	80	90	102	101
	県内出身者数	24	19	23	25	31	33	30	23	28	45	39	43	43

6. 参考；福島医大学生の県内研修病院認知度調査

(平成27年4月 福島医大5年生)

県内研修病院名	よく知っている	名前は聞いたことがある	知らない
大原総合病院	37	57	0
わたり病院	23	68	3
福島赤十字病院	38	56	0
公立藤田総合病院	9	74	11
太田西ノ内病院	31	62	1
星総合病院	26	67	1
総合南東北病院	28	64	2
寿泉堂総合病院	22	67	5
公立岩瀬病院	10	44	40
白河厚生総合病院	22	61	11
竹田総合病院	16	72	6
会津医療センター	26	67	1
会津中央病院	12	61	21
磐城共立病院	23	65	6
福島労災病院	7	56	31
公立相馬総合病院	3	53	38
南相馬市立総合病院	3	51	40

臨床指導医講習会

平成16年度から実施されている医師臨床研修制度において、研修医を指導する“臨床研修指導医（いわゆる指導医）”は、厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会の受講が義務とされています。医療人育成・支援センターは、県主催の福島県医師臨床研修指導医養成講習会と、福島県立医科大学主催の新臨床研修指導医養成研修会の実施を実質的に担っています。平成25年度から27年度の開催実績は、以下の通りです。

1. 福島県医師臨床研修指導医養成講習会

平成25年10月26・27日 会場：福島テルサ

受講人数23名（うち医大11名）

ディレクター：菅野 裕之（福島県保健福祉部部長）

バイスディレクター：福井 次矢（聖路加国際病院院長）

タスクフォース：向原 茂明（壺崎市民病院総病院長）、
羽金 和彦（国立病院機構栃木医療センター）、

渡辺 直彦（町立三春病院院長）、

村川 雅洋（福島医大麻酔科学講座）、

石川 和信、大谷 晃司、小林 元（医療人育成・支援センター）

事務局：馬場 義文、伊藤 直樹、下重 修、本多 由美子、鈴木 真徳、
大内 彩香、佐藤 洋介、小林 圭介、国分 勝彦、安齋 真代

平成26年10月25・26日 会場：福島テルサ

受講人数30名（うち医大20名）

ディレクター：鈴木 淳一（福島県保健福祉部部長）

バイスディレクター：福井 次矢

タスクフォース：向原 茂明、羽金 和彦、渡辺 直彦、村川 雅洋、石川 和信、
大谷 晃司、小林 元、諸井 陽子（医療人育成・支援センター）

事務局：馬場 義文、湯田 保、國分 透、鈴木 真徳、佐藤 洋介、
阿部 孝之、斎藤 一樹、安齋 真代

平成27年10月10・11日 会場：福島医大

受講人数24名（うち医大10名）

ディレクター：鈴木 淳一（福島県保健福祉部部長）

バイスディレクター：福井 次矢

タスクフォース：向原 茂明（長崎県壺岐病院院長）、羽金 和彦、渡辺 直彦、
村川 雅洋、石川 和信、大谷 晃司、小林 元

事務局 : 安達 豪希、湯田 保、鈴木 真徳、佐藤 洋介、阿部 孝之、
齋藤 一樹、石井 美紀

2. 新医師臨床研修指導医養成研修会

平成26年1月11・12日 会場：福島医大

受講者数47名（うち医大27名）

ディレクター : 棟方 充（福島医大病院長）

バイスディレクター：福井 次矢（聖路加国際病院院長）

タスクフォース : 向原 茂明（壱岐市民病院総病院長）、
羽金 和彦（国立病院機構栃木医療センター）、
渡辺 直彦（町立三春病院院長）、村川 雅洋（麻醉科学講座）、
石川 和信、大谷 晃司、松田 希、
小林 元（医療人育成・支援センター）

事務局 : 国分 勝彦、伊藤 裕之、高橋 信二、高橋 均、安齋 真代

平成27年1月10・11日 会場：福島医大

受講者数41名（うち医大23名）

ディレクター : 紺野 慎一（福島医大病院長）

バイスディレクター：福井 次矢

タスクフォース : 向原 茂明、羽金 和彦、渡辺 直彦、村川 雅洋、石川 和信、
大谷 晃司、松本 純弥、小林 元

事務局 : 国分 勝彦、高橋 均、高橋 信二、佐藤 洋介、安齋 真代

平成28年1月9・10日 会場：福島医大

受講者数47名（うち医大27名）

ディレクター : 紺野 慎一

バイスディレクター：福井 次矢

タスクフォース : 向原 茂明（長崎県壱岐病院院長）、羽金 和彦、渡辺 直彦、
村川 雅洋、石川 和信、大谷 晃司、松本 純弥、小林 元

事務局 : 国分 勝彦、高橋 均、高橋 信二、山川 晴美、佐藤 洋介、
石井 美紀



3. 県内研修病院での指導医の割合の現状

	臨床経験7年目以上の 指導する立場の医師数	指導医講習会 受講者数	受講率 (%)	臨床研修病院数
青森県	732	524	71.6	13
岩手県	747	538	72.0	12
宮城県	1,337	734	54.9	19
秋田県	786	542	69.0	14
山形県	652	342	52.5	9
福島県	1,010	747	74.0	18
東北6県	5,264	3,427	65.1	85

(平成27年4月1日現在 東北厚生局調べ)

	指導医講習会受講率 (%)			
	H22年	H25年	H26年	H27年
青森県	63.2	73.4	71.7	71.6
岩手県	64.2	71.8	71.2	72.0
宮城県	41.6	49.3	52.8	54.9
秋田県	65.2	71.4	73.4	69.0
山形県	41.6	52.6	54.5	52.5
福島県	54.9	68.5	72.3	74.0
東北6県	53.5	62.9	65.0	65.1

(東北厚生局調べ)

大学病院	臨床経験7年目以上の 指導する立場の医師数	指導医講習会 受講者数	受講率 (%)
弘前大	220	156	70.9
岩手医大	324	200	61.7
東北大	363	194	53.4
秋田大	244	134	54.9
山形大	172	47	27.3
福島医大	313	280	89.5
東北6大学	1,636	1,011	61.8

(平成27年4月1日現在 東北厚生局調べ)

	指導医講習会受講率 (%)	
	H25年	H27. 4. 1
福島県立医科大学附属病院	85. 2	89. 5
大原総合病院	62. 7	75. 6
太田西ノ内病院	58. 3	72. 6
星総合病院	69. 4	82. 0
竹田総合病院	46. 7	54. 1
いわき市立総合磐城共立病院	43. 5	46. 8
総合南東北病院	49. 4	58. 2
公立岩瀬病院	56. 3	57. 9
福島労災病院	57. 1	64. 3
医療生協わたり病院	81. 3	83. 3
寿泉堂総合病院	82. 8	78. 1
白河厚生総合病院	75. 6	72. 3
公立藤田総合病院	87. 5	88. 0
会津中央病院	54. 3	50. 0
会津医療センター附属病院	80. 0	81. 8
福島赤十字病院	74. 3	83. 9
公立相馬総合病院	52. 9	73. 3
南相馬市立総合病院	73. 3	77. 8
福島県合計	68. 5	74. 0

(東北厚生局調べ)

県別に見れば、福島県の指導医講習会の受講率は年々増加している。特に、平成27年4月1日における受講率は、大学附属病院として東北でトップであり、また、福島県内でもトップである。これには、年2回の指導医講習会を開催していることが大きく影響を与えていると考えられる。県内の研修病院の質の向上のためには、多施設の指導医と交流しながら研修医教育の在り方を考えることができる本講習会はきわめて有意義であり、受講率の低い病院の受講率を上げることが、喫緊の課題である。

臨床研修医に対する支援・教育（メンター制度を除く）

臨床医学教育研修部門の主たる業務の一つが、福島医大附属病院臨床研修医に対する支援や教育である。本項では、メンター制度を除いた本学研修医に対する様々な支援や教育活動について述べる。

1. ステップアップセミナー

毎週火曜日18：00から1時間程度、主としてOJTでできない知識や技能の総まとめを目的として行っている。主に臨床研修医に内容の選定を委ねることとし、ステップアップセミナー受講率70%を臨床研修プログラム終了の必須条件としている。

2. ACLS

福島医大附属病院では、平成23年度より、福島県 ACLS 協会の全面的な支援の元、福島県臨床研修病院ネットワークの事業として、福島県内の臨床研修医は、臨床研修終了までに ACLS を取得することを目標として、県内各地で開催される ACLS 講習会の研修医優先枠を設定して頂いている。平成24年度からは、臨床研修開始時の合同オリエンテーションでBSLを終了し、向こう1年以内での ACLS 受講を積極的に薦めている。平成27年度の福島医大附属病院臨床研修医の ACLS 受講者率は、以下の通り。

	在籍者数 (A)	受講修了者数 (B)	受講率 (%)
1年次	6	5	83.3%
2年次	16	11	68.8%

※1年次は、プログラムA(ベーシックコース)のみ的人数で、プログラムB(ハイブリッドコース、いわゆるたすきがけ)を除いた数である。

3. 研修資金補助

本学附属研修医の給与は、県内の他の研修病院に比べて低いと言わざるを得ない。しかし、基本給のアップは事実上不可能であり、研修資金補助を目的として、平成23年度より助成制度を開始した。学会や研修会参加費及び交通費等を年間20万円まで助成し、臨床研修に関する費用であれば比較的自由に使うことができるようにしている。

	利用額 (円)			利用者率 (%)	総予算の利用額率 (%)
	最低	最高	平均		
2014年度	14,877	200,000	171,428	34/34=100%	582.8/680万=85.7%※
2015年度	0	200,000	76,912	16/22=72.7%	169.2/440万=38.5%※

(2015年度は2015年12月31日現在)

※対象者は、プログラムBによる市中病院所属者を除く。

臨床研修医に対する支援：メンター制度

【メンター制度とは】

初期臨床研修医（以下、研修医）は、特定の診療科に属することなく、ローテーションで研修を行っているため、研修中に問題や悩みが生じた場合に、研修期間を通し一貫して相談できるシステムがない。メンター制度は、この欠点を補うためのものであり、研修の進め方、研修後の進路、あるいは健康面（身体的・精神的）を含むさまざまな問題に対して、研修医が相談できる環境を整え、研修医が安心し、充実した研修を行えることを目的としてシステムである。

研修医に対する充実したサポートは、研修医の脱落防止や満足度向上につながり、結果として、研修医の確保が期待される。

【福島医大附属病院のメンター制度の特徴】

研修医1名に対して、シニアメンターとメンターがそれぞれ1名ずつ担当する。シニアメンターは、臨床や研究経験が豊富であり、教育実績のある教員が担当し、主に研修医のキャリアサポートを行う。一方のメンターは、医療人育成・支援センターの教員（臨床医学教育部門の教員）が担当し、研修後のキャリアサポートに加えて、研修中に生じる疑問や不安、EPOC 実施入力を含む研修到達度の確認など研修に関する幅広いサポートを行うほか、研修医の日常生活や健康状態といった研修生活全般に対するサポートも担う。シニアメンターは研修開始前に、研修医の希望によって自由に選択することができる。また、シニアメンターもメンターも、研修途中での変更が可能である。

メンター制度の一環として、研修環境に対する希望や疑問、および研修医の健康状態の把握を目的として、年に2回、アンケートを実施している。アンケート結果は、各シニアメンターやメンターへ報告され、メンタリングへ活用されるほか、研修環境を向上させるための参考資料としても活かされる。

【メンタリングについて】

研修医は、シニアメンターとメンターに対して、希望する際にはいつでも相談を受けられることになっている。また、特に研修医からの相談希望がない場合でも、シニアメンターとは年に1回、メンターとは年に2回、定期的にメンタリングを実施しており、研修医の研修状況や健康状態などについて確認し、2年間の研修が滞りなく進められるようにサポートしている。

【今後の課題と展望】

メンターは、研修医と年齢が近く、何でも気軽に相談できる存在として、研修医をサポートすることが期待されている。しかしながら、メンターが常駐する部屋は整備されておらず、物理的にメンターと研修医が接点をもつ機会は限られている。そのため、通常のメンタリング以外においても、研修医と連絡を取ることが必要である。また、通常、メンターと比較して、研修医と接点が多く、研修医の研修状況や生活状況等を把握しているのは、事務職員であることが多いため、事務職員とメンターとの情報交換を定期的に行うことも研修医のサポートには不可欠であり、そのためのシステム作りも今後の課題である。

平成27年度の活動（予定含む）

日	時	内 容
平成27年	4月1日	研修医オリエンテーション（メンター制度について）
	5月18日～29日	アンケート実施（第1回）
	6月25日～	メンターとのメンタリング（第1回）
	9月16日～	シニアメンターとのメンタリング
平成28年	1月※	アンケート実施（第2回）
	2月※	メンターとのメンタリング（第2回）

※は予定

福島県地域医療を考える懇談会

福島医大の定員増に合わせて、福島県の修学資金受給者が大幅に増加している。学年が上がるにつれ、修学資金受給者は、修学資金受給の義務を実際にはどのように果たしていくのか、自分の将来の専門性やキャリアアップと義務を果たすことの整合性はどうか等、様々な疑問を持つようになる。福島県の地域医療支援センターは、適宜、奨学金受給者との面談を行い、修学資金制度の説明を個別に行いながら、上記の疑問に答えるべく努力をしている。福島県は、将来の修学資金受給の義務を果たす対象となる県内の公的病院を修学資金受給者に周知し、また、実際の修学資金受給者がどのように義務を果たしているかの実情を知ってもらうために、平成24年度（平成25年2月開催）より、福島県地域医療を考える懇談会を開催している。医療人育成・支援センターの医学教育研修部門は、この懇談会の開始当初から、協力している。具体的には、福島県の医療の状況と修学資金受給の義務と自分の将来の専門性やキャリアアップについての講演を行っている。

参加対象 福島医大4年生、5年生の修学資金受給者

参加病院 福島赤十字、公立藤田、公立岩瀬、白河厚生、会津医療センター、総合磐城共立、福島労災、公立相馬、南相馬市立

内 容 福島の医療の現状 講演（大谷晃司）

修学資金制度について 講演（福島県地域医療支援センター）

勤務の実際 講演（修学資金受給者 H26 秋田発医師、

H27 渡部昌之医師、H28 小林一貴医師）



平成26年 2月21日 参加 4年生：35名中15名 5年生：30名中18名

平成27年 2月20日 参加 4年生：44名中24名 5年生：35名中19名

平成28年 2月5日 参加予定 4年生：44名中36名 5年生：34名中23名

平成25年度福島県地域医療を考える懇談会

日 時：平成26年 2月21日(金) 17:45から20:50
会 場：福島市(杉妻会館)第1部4階「牡丹」、第2部3階「百合」
対象者：福島県立医科大学及び他大学の福島県療養学資金員と医学生(5・4年生)
参加費：無料

開会あいさつ (福島県保健福祉部) (17:45~17:50)
第1部 懇談会 (17:50~19:45)
●福島県の医療の現状について(仮題)
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
副部門長 大谷寛司先生(福島県立医科大学 整形外科学講座 准教授)
●公的病院での勤務について(仮題)
福島県立総合病院 秋田 勇先生
●福島県療養学資金制度について
●公的病院との相談会
福島赤十字病院・公立藤田総合病院・公立岩瀬病院・白河厚生総合病院・
福島県立医科大学会津医療センター 附属病院・いわき市立総合医療センター
附属病院・福島労災病院・公立相馬総合病院・南相馬市立総合病院

第2部 情報交換会 (19:50~20:50)
●公的病院関係者との情報交換(立食形式)

申込期限：2014.2.7(金)		
氏名	(印)が印	性別
	氏名	男・女
学校名及び学年	入学	在学
申込区分	参加・不参加 ※不参加の場合は、理由をご記入ください。 理由：	

主催 福島県(福島県地域医療支援センター)
福島県立医科大学(医療人育成・支援センター)
共催 福島赤十字病院・公立藤田総合病院・公立岩瀬病院・白河厚生総合病院・
福島県立医科大学会津医療センター 附属病院・いわき市立総合医療センター 附属病院・福島
労災病院・公立相馬総合病院・南相馬市立総合病院

〒960-1299 福島県福島市光が丘5丁目
TEL (024)849-1711 (024)647-1710
FAX (024)547-1715
E-mail: frc@pref.fukushima.jp

平成27年度 福島県 地域医療を考える懇談会

平成27年 2月20日(金) 18:00~20:50
ラコバふくしま(福島市仲間町4番8号)

参加費無料
※下記印刷・送付を必ずご連絡下さい！

福島県療養学資金被資者医学生
対象者：5年生・4年生

◆講演◆
『福島県の医療の現状について(仮題)』
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 大谷寛司先生
『地域医療の現場を経験して(仮題)』
道の療養学資金被資者医師

◆公的病院との相談会◆
公的病院関係者との情報交換会(立食形式)

◆情報交換会◆
病院関係者との情報交換会(立食形式)

申し込み・問い合わせ先
地域医療支援センター(福島県立医科大学)事務局
電話：024-849-1711 FAX：024-647-1710
E-MAIL: frc@pref.fukushima.jp

主催：福島県・福島県立医科大学(医療支援センター)
共催：福島県立医科大学(医療人育成・支援センター) 公立岩瀬病院 白河厚生総合病院 福島県立医科大学会津医療センター 附属病院 福島県立医科大学相馬総合病院 福島県立医科大学南相馬市立総合病院
〒960-1299 福島県福島市光が丘5丁目
TEL (024)849-1711 (024)647-1710
FAX (024)547-1715
E-mail: frc@pref.fukushima.jp

平成27年度福島県 地域医療を考える懇談会

参加費無料
※下記印刷・送付を必ずご連絡下さい！

医学部生・5年生・4年生 対象

平成28年 2月5日(金) 18:00~20:55

会場 ラコバふくしま(福島市仲間町16番8号)

◆講演◆
『福島県の医療の現状について(仮題)』
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 大谷寛司先生
『地域医療の現場を経験して(仮題)』
道の療養学資金被資者医師

◆公的病院との相談会◆
公的病院関係者との情報交換会(立食形式)

◆情報交換会◆
病院関係者との情報交換会(立食形式)

申込締切
1/15(金)

申し込み・問い合わせ先
地域医療支援センター
福島県立医科大学事務局
電話：024-849-1711 FAX：024-647-1710
E-MAIL: frc@pref.fukushima.jp

修学資金生・自治医科大学学生との合同セミナー

将来勤務先を同じくする可能性のある本県出身の自治医科大学学生と福島医大の修学資金被貸与者や地域医療に関心のある学生を対象とした合同セミナーを開催している。交流を通じて学生一人ひとりの福島県の地域医療に対する関心を持ってもらうことを目的としている。以前は、医療人育成・支援センターの独自の取り組みであったが、平成24年度からは、県の委託事業として、年に2回、開催している。なかなか学生のスケジュールがあわず、参加者数からみれば十分とはいえないが、自治医科大学や福島医大生だけでなく、他大学の学生も参加しており、学生と福島県内の指導医や大学教員とのお互いの顔が見える良い交流の機会となっている。

平成26年3月15、16日 ふくしまの地域医療を学ぶスプリングセミナー2014

参加者：自治医科大学9名、秋田大学2名、指導医等8名

内 容

- ・会津中央病院視察
- ・福島介護・福祉について学ぶ（講演：会津中央病院 佐竹 秀一）
- ・介護保険主治医意見書の書き方について学ぶ
（講演と実習：会津中央病院 佐竹 秀一）
- ・症例検討（グループワークと発表）



ふくしまの地域医療を学ぶスプリングセミナー2014

日 程：平成26年3月15日(土)・16日(日)
場 所：1日目 会津中央病院(会津若松市) 2日目 レイクビュー(郡山市)

対 象：福島県立医科大学学生、自治医科大学、他大学医療系学生、修学資金被貸与者、地域医療に関心のある学生

申込方法：電子フォーム又はファクス
申込期：福島県地域医療支援センター、福島県立医科大学 支援センター
電子メール：支援センター FAX 024-547-1715

主 催：自治医科大学

【スケジュール】

1日目【平成26年3月15日(土)】
会津中央病院視察 (15:00~16:00)
第1部 福島の介護・福祉について学ぶ (16:00~18:00)
第2部 介護保険主治医意見書の書き方について学ぶ【自費】 (18:00~18:30)
第3部 情報交換会(懇話会) (18:30~)

2日目【平成26年3月16日(日)】
第4部 症例検討【討論+グループワーク】 (9:00~10:00)
第5部 グループワーク【グループワーク発表】 (10:30~12:00)
当日参加の学生は、事前に申し込み。

申込書 締切：2014.2.21(金)		
氏名	UGの印	性別
氏名		性別
住所		
学校名(学部)	(学部)	
電話番号		
電子メールアドレス		

主催：福島県・福島県立医科大学「医療人育成 支援センター」
後援：福島県立医科大学及び協議校、福島県立医科大学学生支援センター、自治医科大学学生支援センター

協賛校：福島県立医科大学、自治医科大学、秋田大学、山形大学、宮城大学、岩手大学、青森大学、弘前大学、東北大学、東京大学、東京医大、東京薬大、北里大学、新潟大学、金沢大学、富山大学、石川大学、福井大学、滋賀大学、京都府立医科大学、大阪府立医科大学、兵庫県立医科大学、徳島大学、高松大学、香川大学、岡山大学、広島大学、山口大学、徳島大学、高松大学、香川大学、岡山大学、広島大学、山口大学

平成26年9月20日 ふくしまの地域医療を学ぶ September セミナー2014

参加者：自治医科大学2名、埼玉医大1名、東京医大6名、東京薬大1名、北里大学（薬）1名、福島医大初期臨床研修医3名、福島医大指導医1名

内 容

- ・福島の医療の現状（講演：福島医大 大谷 晃司）
- ・福島の医療を良くするには？（グループワークと発表）
- ・整形外科外来で身につけるべき考え方（講演：福島医大 大谷 晃司）
- ・ギプス巻き実習（福島医大 大谷 晃司）
- ・縫合実習（福島医大 大谷 晃司）



平成27年3月7、8日 ふくしまの地域医療を学ぶ Spring セミナー2015

参加者：自治医科大学2名、福島医大11名、福島医大初期臨床研修医2名
 福島医大指導医3名、県内指導医等6名

内 容

- ・白河厚生病院視察
- ・地域医療におけるキャリア形成（講演：会津中央病院 佐竹 秀一）
- ・総合診療について（講演：市立奈良病院 宮下 淳）
- ・県南地区の地域医療について（講演：県南保健福祉事務所 村田 弘）
- ・へき地診療所の現場から（講演：只見町国保診療所 榎田 啓十）
- ・福島県の医療の現状（講演：福島医大 大谷 晃司）
- ・福島県で働く医師を増やすには？（グループワークと発表）



平成27年10月4日 ふくしまの地域医療を学ぶオータムセミナー2015

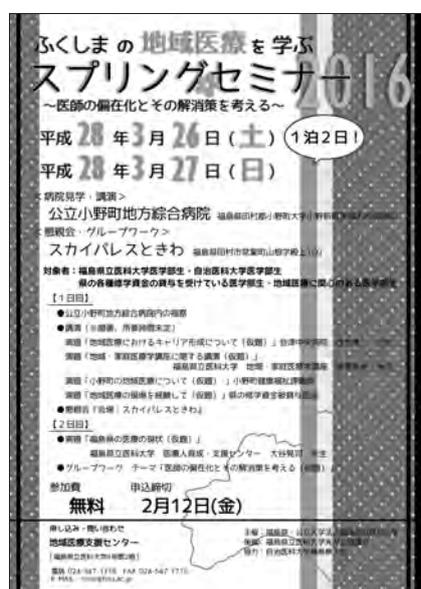
参加者：自治医科大学11名、福島医大14名、東京医大7名、福島医大初期臨床研修医1名
 福島医大指導医2名、

内 容

- ・ 福島県の医療の現状（講演：福島医大 大谷 晃司）
- ・ 福島県で働く医師を増やすには？（グループワークと発表）
- ・ 腹部の打診等（実習：福島医大 菅家 智史）
- ・ ギプス巻き実習（福島医大 大谷 晃司）
- ・ 縫合実習（福島医大 大谷 晃司）



平成28年3月 26、27日に開催予定



臨床研修医による学生教育

教務委員会の配慮で、平成25年度より5年生のBSLオリエンテーションの一コマを臨床研修医に講義してもらうことにした。この目的は、座学から実習に移るときに、2年前まで学生であった臨床研修医により、勉強の仕方のコツや国試の勉強がBSLや実臨床に直結すること、あるいはBSLへの心構えをアドバイスをしてもらうことにある。また、臨床研修医も学部教育に関与していく（すべきである）ことを実感してもらう効果も期待している。

学生の評価は極めて高評価であった。

平成28年度も実施予定である。

講義内容

前半：勉強ツールや英語の勉強法の紹介、BSLの心構え等

後半：参考書や書籍の紹介、診療科での勉強のポイント等

アンケート結果（抜粋）（実数）

	H26	H27		H26	H27
とても面白かった	41	66	とても参考になった	54	75
面白かった	51	36	参考になった	39	28
普通だった	2	2	普通	0	1
つまらなかった	0	0	参考にならない	0	0
寝ていた	0	0	その他	0	0
その他	0	0	無回答	1	0

もっと聞きたい内容は？			研修医が講義することは？		
	H26	H27		H26	H27
具体的な所見の取り方	23	29	賛成	72	92
サマリの概要と作り方	7	33	どちらかといえば賛成	21	11
研修医の1日の流れ	36	4	どちらかといえば反対	0	0
研修医の1年の流れ	33	19	反対	0	1
その他	4	19	その他	0	0

研修医の講義はどう思いますか？			研修医の講義が正規のカリキュラムに組み込まれたら？		
	H26	H27		H26	H27
わかりやすそう	54	72	是非出席したい	37	44
質問しやすそう	37	42	出席したい	44	52
研修に直結	76	81	どちらでもよい	9	7
国試試験対策	27	14	出席したくない	2	1
その他	10	6	その他	0	0

研究業績

研究業績

【国内学会】

[一般発表]

1. 平野 雅, 朝倉由香, 大谷晃司, 石川和信. 体験研修で学んだ豪雪の会津と東日本大震災・原発事故被災した相双の地域医療. 第46回日本医学教育学会; 2014. 07. 19; 和歌山. 医学教育. 45 (Suppl.) : 206.
2. 照井稔宏, 小澤尚弥, 関根虎之介, 熊谷敦史, 安井清孝, 大谷晃司. 医学部生・看護学部生のための福島災害医療セミナー開催の経験: 第2報. 第46回日本医学教育学会; 2014. 07. 19; 和歌山. 医学教育. 45 (Suppl.) : 209.
3. 大須賀穂高, 大関 篤, 天海一明, 石田 卓, 大谷晃司. 画像読影ツールとしてのiPadとインターネット中継を併用した胸部X線セミナーの試みとその有効性. 第46回日本医学教育学会; 2014. 07. 19; 和歌山. 医学教育. 45 (Suppl.) : 210.
4. 小澤尚弥, 照井稔宏, 四宮 翼, 大谷晃司, 松井史郎. 医学部生・高校生のための医療セミナー開催の経験. 第46回日本医学教育学会; 2014. 07. 19; 和歌山. 医学教育. 45 (Suppl.) : 212.
5. 小林 元, 石川和信, 諸井陽子, 菅原亜紀子, 大谷晃司, 村川雅洋, 羽金和彦, 渡辺直彦, 向原茂明, 福井次矢. 指導医講習会の学習効果と60歳以上の受講者に観察された医学教育研修でのパターンリズム. 第47回日本医学教育学会; 2015. 07. 24; 新潟. 医学教育. 46 (Suppl.) : 168.
6. 四宮 翼, 関根 萌, 永井 拓, 熊谷敦史, 安井清孝, 川嶌 讓, 小早川義貴, 小塚 浩, 大谷晃司. 医学部生・看護学部生のための福島災害医療セミナー開催の経験(第3報) 医学生が関心を持つ項目は何か? 第47回日本医学教育学会; 2015. 07. 25; 新潟. 医学教育. 46 (Suppl.) : 242.
7. 永井 拓, 四宮 翼, 関根 萌, 豊田喜弘, 垣野内 景, 大谷晃司. 災害時に求められる医学生への活動 東日本大震災時の福島医大附属病院での経験. 第47回日本医学教育学会; 2015. 07. 25; 新潟. 医学教育. 46 (Suppl.) : 243.
8. 関根 萌, 四宮 翼, 永井 拓, 佐竹秀一, 大谷晃司. 外傷初期診療セミナー 解剖生理を学んでいない下級生と上級生との間に理解度・満足度等の差異はあるか. 第47回日本医学教育学会; 2015. 07. 25; 新潟. 医学教育. 46 (Suppl.) : 243.

【受賞】

第46回日本医学教育学会学生セッション優秀ポスター賞

永井 拓, 四宮 翼, 関根 萌, 豊田喜弘, 垣野内 景, 大谷晃司. 災害時に求められる医学生への活動 東日本大震災時の福島医大附属病院での経験.

被災地でのボランティア活動や 災害医療セミナーなどを通して 震災や災害の対応力を身につける



メンバーが毎年参加・講演している、NARA will Wakayama Will主催の3.11追悼キャンドルイベント

災害医療

福島県立医科大学 Fukushima WILL

基本データ

部員数 45人(男子22人 女子23人)
 創立年 2011年3月(サークルになったのは2013年4月)
 活動日 月1回(勉強会)、長期・短期休暇時
 主な行事 イベント 外傷初期診療セミナー(月1回)、夏の災害医療セミナー、南相馬でのボランティア活動、3年に1度の学祭(光輝祭)での部門発表
 主な実績 日本医学教育学会大会(45,46,47回)での演題発表
 日本集団災害医学会総会・学術総会(20回)学生支部での企画・発表

Fukushima WILLのメンバーの集合写真



夏の災害医療セミナーで行っている大規模災害発生時を想定した机上訓練

夏の災害医療セミナーでの放射線計測講習



金津中央病院のセミナーでは、救急現場活動における治療の技術向上をはかるメテオカラリーの学生版に取り組んでいる



毎年有志で実施している南相馬市・小高区(旧東原町)でのボランティア活動

外傷初期診療セミナーで、患者さんの搬送方法について指導を受ける

写真はすべて福島県立医科大学 Fukushima WILL 提供



代表からのメッセージ

関根 萌さん
 福島県立医科大学医学部3年
 福島県立福島高校卒

強い思いで 夢の実現を

Fukushima WILLは、東日本大震災と原発事故当時、県内、県外でボランティア活動などを展開していた福島医大生の活動の記録・共有・発信を目的に作られた団体です。

WILLは今、「伝える」「備える」の2本柱で活動しています。「伝える」

とは東日本大震災の記憶を風化させず、県内・県外に発信を続けていくこと。「備える」とは、震災や災害について学び、有事の際に活動できるスキルを身につけることです。

震災当時高校1年生だった私に、できることはほとんどありませんでした。しかし、同じ福島の地で自分たちにできることを懸命に模索し、活動していた医大生たちがいたことを後になって知り、衝撃を受けました。いつかまた災害が発生した場合に、「何もできない自分」でいたくない。そういう思いもあり、福島医大を受験し、WILLに入部しました。

WILLの活動で得られたのは、人

と人とのつながりです。WILLを立ち上げ、その想いを私たち後輩に託した多くの先輩方、惜しみない援助を続けてくださる顧問の大谷晃司教授をはじめ災害医療センター・救急の先生方、志高く様々な活動を共に展開してくれる他大学の仲間たち。多くの人たちの想いと共に、WILLは今日も活動を続けています。

受験勉強は大変です。私自身も不安がいっぱい本当は苦しかった。でも、医学部に入って福島の人役に立ちたいという思いが支えになりました。最後まで諦めず、強い気持ちで夢を追い続けて下さい。皆さんの頑張りを心から応援しています！

3) 看護学教育研修部門



2014年度

2014年

- 7月3日 看護学部生を対象とした就職ガイダンスの開催
説明機関：訪問看護ステーション、地域包括支援センター、本学附属病院、会津医療センター附属病院
- 7月12日 平成26年度看護シミュレーション教育研修会の開催
—シミュレーション教育を看護実践力アップに活かすために—
講師：青森県立保健大学大学院 健康科学研究科 織井優貴子氏
- 10月6日 看護学部生を対象とした就職ガイダンスの開催
説明者：看護学部4年生の保健師合格者3名からの報告

2015年

- 2月3日 看護学部3年生を対象とした就職ガイダンスの開催
説明機関：本学附属病院、会津医療センター附属病院

2015年度

2015年

- 4月3日 看護学部4年生を対象とした就職ガイダンスの開催
参加機関：県内医療機関18機関
- 4月6日 看護学部4年生を対象とした就職ガイダンスの開催
説明機関：本学附属病院
- 8月29日 在宅ターミナルケアのお話を聞く会の開催
講師：医療法人社団 鈴木医院 看護師 萩原 知子氏

2016年

- 2月1日 看護学部3年生を対象とした就職ガイダンスの開催
説明機関：本学附属病院、会津医療センター附属病院就、保健師
- 2月8日 看護師の特定行為研修に関する説明会の開催
講師：厚生労働省 医事課 看護指導官 小山三恵子氏

看護学部生を対象とした就職ガイダンス

看護学教育研修部門では、看護学部生を対象に、県内の医療機関等を対象とした就職ガイダンスを実施しています。

平成26年度は、県内の主要な医療機関を対象とした就職ガイダンスの他、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、保健師等に関する就職ガイダンスを、平成27年度は、県内の主要な医療機関18機関を対象とした就職ガイダンスの他、「在宅ターミナルケアのお話を聞く会」など、テーマを絞った座談会なども行いました。

就職ガイダンスは、単に就職を目的とするだけではなく、県内医療機関の状況を知るための機会と位置付けており、医療機関の職員と直接、話をする良い機会となっています。

2014（平成26）年度

月 日	内 容	出席者等
7月3日	就職ガイダンス ・訪問看護ステーション ・地域包括支援センター ・附属病院 ・会津医療センター	本学看護学部全学年対象 希望者80名
10月6日	就職ガイダンス ・4年生の保健師合格者から	本学看護学部全学年対象 希望者50名
2月3日	就職ガイダンス ・附属病院 ・会津医療センター	本学看護学部 3年生全員



2015（平成27）年度

月 日	内 容	出席者等
4月3日	就職ガイダンス ・ 県内医療機関18機関	本学看護学部 4年生全員
4月6日	就職ガイダンス ・ 附属病院	本学看護学部 4年生全員
8月29日	在宅ターミナルケアのお話を聞く会 ・ 講師：医療法人社団 鈴木医院 看護師 萩原 知子氏	本学看護学部全学年対象 希望者14名
2月1日	就職ガイダンス ・ 附属病院 ・ 会津医療センター ・ 保健師	本学看護学部 3年生全員



在宅ターミナルケアの お話を聞く会

医療法人社団 鈴木医院 看護師
萩原 知子 氏

☆日時 8月29日(土)
☆時間 13:30~
☆場所 S413
☆対象 看護学部生



今は病院ではなく、在宅の時代です。皆さんが現場で働くときにはまずまず在宅中心になっていきます。
どんな病気の方でも病院に入院するのは短期で、家（または施設など）に帰るのです。
その実態をお話しして頂くので、興味をお持ちの方は是非ご参加ください。

主催：看護学部、
医療人育成・支援センター

就職ガイダンス



☆日時 4月3日(金)
 ☆時間 13:00~16:00
 ☆場所 N301ほか
 ☆対象 4年生全員

【スケジュール(予定)】

13:00~ 主催者あいさつ (看護学学生部長 本多教授)
 13:05~16:00 各ブース巡り

参加機関等(18ブース)

- 福島赤十字病院
- あづま脳神経外科病院
- 公立藤田総合病院
- 星総合病院
- 竹田総合病院
- J A福島厚生連
- 一橋会病院
- 大原総合病院
- 福島県立宮下/南金津/矢吹病院
- 二本松青年海外協力隊訓練所
- 太田総合病院
- 常盤病院
- 寿泉堂総合病院
- 総合南東北病院
- 福島労災病院
- 総合磐城共立病院
- 県羽総合病院
- 福島総合病院

今後の将来を考えるためだけでなく、県内医療機関の実態を知っていただくために企画しています。積極的に各ブースを回ってください。

主催：看護学部
 医療人育成・支援センター

就職ガイダンス

—今からはじめよう！行政の保健師採用試験の準備—

☆日時 10月6日(月)
 ☆時間 11:55~12:30
 ☆場所 N301
 ☆対象 全学年



【予定】

11:55~ 主催者あいさつ (医療人育成・支援センター 結城真智子部門長)
 12:00~ 行政の保健師採用合格者4年生から「採用試験対策について」情報提供
 12:20~ 質疑応答

[運営協力：地域・在宅看護学部門 高瀬教授・古戸講師・鈴木助手・黒川助手]

保健師採用試験合格者から、公務員試験対策などを
 お話しいただきます。是非、御参加ください!!

昼休みに開催します。昼食持参で御参加ください。



附属病院・ 会津医療センター 説明会



☆日時 2月3日(火)
 ☆時間 14:30~15:15
 ☆場所 S415
 ☆対象 3年生全員

【スケジュール(予定)】

14:30~ 主催者あいさつ
(医療人育成・支援センター 坂本祐子看護学教育研修部門長)
 14:35~ 会津医療センター
 14:50~ 附属病院看護部
 15:05~ 給与、勤務条件等の説明 (総務課 大人人事係)



今後の将来を考えるにあたって、附属病院、会津医療センターの状況を確認してみましょう。他病院と比較するための参考にしてください。

就職ガイダンス

普段はあまり聞く機会の少ない訪問看護ステーションや地域包括支援センターの職員をお呼びして、就職ガイダンスを実施します。

視野を広げるうえで、是非、御参加ください!!

☆日時 7月3日(木)
 ☆時間 11:55~13:00
 ☆場所 N301



昼休みに開催します。昼食持参で御参加ください。

【説明内容(予定)】

11:55~ 主催者あいさつ (医療人育成・支援センター 結城真智子部門長)
 12:00~ 訪問看護ステーション
 連絡協議会長 門馬君江 氏
 12:15~ 地域包括支援センター
 坂本千絵 氏 (本学部第7期・H19卒業生)
 12:30~ 附属病院
 12:45~ 会津医療センター

看護職を対象とした教育研修会

地域住民の健康の保持・増進を担う看護師等の資質向上を支援するため、県内の看護職を対象とした教育研修会を開催しています。

平成26年度においては、現場で必要とされる観察力や状況判断能力、瞬時の対応能力を養うため、高性能患者シミュレータを使用し実践力を養う看護シミュレーション教育研修会を実施しました。

また、平成27年度には、看護師の特定行為研修に関する説明会を実施しました。

2014（平成26）年度

月 日	内 容	出席者等
7月12日	看護シミュレーション教育研修会 —シミュレーション教育を看護実践力アップに活かすために— 講師：青森県立保健大学大学院 健康科学研究科 織井優貴子氏	県内看護職等 51名

2015（平成27）年度

月 日	内 容	出席者等
2月8日	看護師の特定行為研修に関する説明会 講師：厚生労働省 医事課 看護指導官 小山三恵子氏	本学医師、看護師、教員等 関係者



看護シミュレーション教育研修会

—シミュレーション教育を看護実践力アップに活かすために—

青森県立保健大学大学院 健康科学研究科 教授

織井 優貴子 先生

参加
無料



☆日時 7月12日(土)
☆時間 9:30~12:00
(講義 60分、実技 70分)
☆場所 福島県立医科大学
8号館3階 N301ほか

【研修会の目的】
地域住民の健康の保持・増進を担う看護師等の資質向上を支援するため、県内の看護職を対象とした教育研修会を開催します。
今年度においては、現場で必要とされる判断力や状況判断能力、臨時の対応能力を養うため、高性能患者シミュレータを使用し実践力を養う看護シミュレーション教育研修会を実施します。

福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
看護学教育研修部門長 結城 美智子

【問い合わせ先】

福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 看護学教育研修部門 電話:024-547-1806 担当:佐久間 直子

看護師の特定行為研修 に係る説明会

看護師の特定行為に係る研修制度が、平成27年10月に施行され、本学では、指定研修機関として申請することを決定し、平成29年4月の開設に向け準備を進めています。

この制度は、医師の判断を待たずに手順書により一定の診療の補助を行う看護師を養成するもので、在宅医療のみならず、一般の病院における円滑な医療サービス提供の推進を図っていくためのものです。

まずは、本制度の内容を知って頂くため、説明会を開催しますので、多くの職員の方々に、御出席いただきますよう、御案内いたします。

☆日時 2月8日(月)
17:30~18:30

☆場所 11号館 第2臨床講義室

☆対象 大学・病院で働く全ての職員

☆内容

◇看護師の特定行為研修制度の概要

講師:東北厚生局 医事課

看護指導官 小山三恵子氏

◇本学の状況



【問い合わせ先】

教育研修支援課 看護学部教務係 担当:佐久間 直子 内線5110

4) 災害医療総合学習センター



ご 挨拶

医療人育成・支援センター長
(兼)災害医療総合学習センター長

大津留 晶

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を受けて、福島県内の災害医療体制も極めて緊迫した状況となりました。その教訓をうけて、地域医療再生に取り組むとともに、今後も発生が懸念される大災害を想定した災害医療・放射線被ばく医療に従事できる医療者の養成が急務となりました。

福島県立医科大学では、医療人育成・支援センター内に災害医療総合学習センターを設立し、2012年1月に文部科学省3次補正の国庫補助事業に採択され、同年5月からスタートいたしました。本センターは、災害復興の最前線で、災害医療・放射線被ばく医療の実践に対応できるエキスパートの教育・研修体制を確立することを主な任務としています。本学の学生や県内の医師・看護師はもちろん、全国から災害医療・放射線被ばく医療を学びたいと希望する医療関係者も受け入れております。また、米国のコロンビア大学やマウント・サイナイ医科大学の医学生や研修医もこの教育プログラムに参加しており、チェルノブイリ原子力発電所事故の被災者の支援を続けているベラルーシ医科大学、ゴメリ医科大学とも協定を結び、医療関係者・大学関係者や学生の交流が行われています。

関連する講座や大学病院の放射線災害医療センターと協力して行っている放射線災害実習・セミナーだけでなく、被災地域や仮設住宅などを健診などの機会を利用して直接訪問し、被災された皆様の放射線だけに限らない様々な不安や悩みに応える総合的な健康相談、いわゆる「よろず健康相談」も行っておりました。この4年間で、500カ所以上を訪問し、5000件を超える相談を行いました。現在は、放射線医学県民健康管理センターが「よろず健康相談」を運営し、参加する医療関係者の教育を当センターが担う体制が整備されつつあります。

この年報でご紹介しているセンターの取り組みが震災復興の一助となり、このプログラムで育った人達が、災害医療の優れた担い手となることを願い、センタースタッフ一同、その職責を果して行きたいと考えております。これからも御指導、ご鞭撻とともに、忌憚のないご意見を賜りますようお願いする次第です。

最後になりますが、これまでの災害総合学習センターへのご支援に心より感謝申し上げ、今後ともご協力を賜りますようどうかよろしくお願い申し上げます。

災害医療総合学習センター活動総括

熊谷 敦史

災害医療総合学習センターは、震災及び原子力災害により被害を受けた福島県内医療体制の再生や放射線の影響等に係る教育、研修体制の充実、人材確保を目的に、文部科学省の2011年度「復興教育支援事業」大学等における地域復興のためのセンター的機能の整備（2011年度第3次補正予算）の採択を受け、福島県立医科大学医療人育成・支援センター内に設置され、2012年4月1日付で医師1名、看護師1名、事務職員3名の職員を配置し、2012年5月17日より本格的に活動開始した。以降、学生教育、医療者教育、地域支援の3分野を軸としたが、展開した多くの事業は当初想定されておらず、関係各所の前向きなご理解のもとで実現できたものである。2013年9月から保健師（看護師）1名を新たに迎えてさらに機能を充実した。我々の活動は、今後の福島の復興に資するのみならず、日本で唯一原発事故を受けて、実践的な放射線医学教育を医学生および医療人に展開したものであり、今後の日本そして世界における放射線健康リスクに対する新たな教育体制づくりを牽引してきたと言える。

【学生教育】

- (1) 医学科学生教育（5年生対象、臨床実習3日間プログラム）
- (2) 医学科学生教育（3年生対象、講義協力）
- (3) 他大学（国内外）からの学生を対象とする教育セミナー
- (4) e-ラーニングの開発と供用（医学生、看護学生、附属病院看護師、各種セミナー参加者）
- (5) ベラルーシ共和国内の医科大学との協定に基づく教育（講師招聘、学生派遣）
- (6) 新たな被ばく医療教育プログラム構築のためのIAEAとの連携（ハンドブック作成）

まず福島県立医科大学の医学生（5年次）対象の教育プログラムを、臨床実習の時間枠を用いて2012年度より開始した。当初、「基礎編」放射線に関する基礎的知識・技能と「応用編」汚染傷病者救急対応の各1日で計2日の日程にて開始した。「応用編」は救急医学講座のご協力により救急医学の臨床実習の枠の中に入れていただき実施した。次年度よりリスクコミュニケーションや甲状腺疾患に関する時間を追加するために「基礎編」を2日に拡大し現在に至る。加えて、教育機会を他大学の熱意ある学生にも開放し、「学生のための福島災害医療セミナー」を開講し、国内外からの数多くの学生を受け入れた。また、より幅広い学習者層への展開を期して、放射線災害e-ラーニングのコンテンツを作成し活用した（医学生、看護学生、新規採用看護師対象の学習教材、各種セミナー・講習の事前研修教材）。さらに医学生の海外短期留学を含めた協力関係構築のため、チェルノブイリ原発事故後の医療を継続しているベラルーシ共和国の二大学（ベラルーシ医科大学、ゴメリ医科大学）と、長崎大学との連携協定による協力のもとに2013年9月に教育に関する協力協定を締結した。このほか、2013年以降毎年の当センターでのマウントサイナイ アイカーン医科大学（米国）医学部学生

研修受け入れを契機として、同大学との大学間連携協定締結に至っている。これらの協定に基づき、2014年2～3月にベラルーシ共和国の2大学に1名、マウント サイナイアイコン医科大学に1名の福島県立医科大学医学部4年次学生を基礎上級のカリキュラムの一環として派遣し、以降も継続実施している。また、IAEAと福島県立医科大学の協定に基づき、福島原発事故後に転換点を迎えた被ばく医療教育のあり方に関するプロジェクト（IAEA主催）に福島原発事故現地の医科大学教育部門として参画し、我々の取り組みを紹介し、協議を重ねて結果をハンドブックにまとめた。これらの成果は世界各地で行われたシンポジウム等で広く発信している。

【医療・保健従事者教育】

- (1) 医師・看護師等の医療・保健従事者を対象とする福島災害医療セミナー
- (2) 地域保健師等への放射線健康リスクに関する教育
- (3) よろず健康相談事前学習開講

医師・看護師・放射線技師等の医療者に対し、「福島災害医療セミナー」および「よろず健康相談事前学習」として災害・被ばく医療そして原発事故後の福島の現実を学ぶ場を数多く提供した。2014年からは、受講者からの要望に応じ、これまで実施してきたセミナー参加者を対象として、より発展的な知識と専門的な体験を提供する上級コースとしての福島災害医療セミナー（第8回、第16回）を開催した。受講者個人の学習意義のみならず、よろず健康相談へ協力いただける人材ネットワークが構築され、福島の復興に資する人材育成となっている。加えて日本全国の緊急被ばく医療従事者のネットワークとして機能する人的ネットワークの構築に資する教育体系となっている。

また、2014年度からは、福島県内で住民と最も近い立場から保健活動に奔走してきた保健師を対象とする教育体系の拡充のために、福島県、福島県立医科大学性差医療センター、公衆衛生学講座とともに保健師等支援研修会（出前講座）を実施し、保健師のニーズ把握と効果的な教育を実施している。

【地域支援】

- (1) 地域住民への放射線健康講座（地域保健師等との連携事業）
- (2) 地域保健師等の事業支援（上述保健従事者支援にも含まれる）
- (3) よろず健康相談（帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域を域内に含んだことのある13市町村の住民対象）
- (4) 産業医支援（福島県警、双葉地方広域市町村圏組合：双葉消防を含む）
- (5) いいたてホーム職員健康相談

2012年度には、原発事故の旧警戒区域、緊急時避難準備区域、計画的避難区域の自治体保健師と協力し、住民・保健師支援を目的とした、内容を限定せず健康相談に応じる住民対象の「よろず健康相談」、また計画的避難区域内で介護事業を継続していた特別養護老人ホーム「いいたてホーム」職員対象の健康相談を開始した。その後、「よろず健康相談」は主な実施主体を放射線医学県民健康管理センターに移管し、当センターは協力を継続してきた。また、いいたてホーム職員健康相談は初年度

にて終了した。

さらに、原発事故後の混乱期には多少の放射線健康影響に関する講演会等が実施されていたものの、残念ながらその多くはかなり難しい内容で住民には伝わっていないことが多かった。その後、時を経てその機会すら減少している現状に対し、県内の地域保健師や放射線相談員等と連携して、放射線の現状や影響についての考え方に関する座談会・車座集会・相談会・出前講座等を、地域町内会、母親子育て教室等の小グループ単位で繰り返し実施した。地道な取り組みにより、単なる諦めではなく、自主的な放射線リスクの理解と主体的な生活再建への機運の醸成に貢献している。

加えて、放射線や災害全般の影響を心身ともに強く受け続けている存在である旧警戒区域での公的作業従事者（福島県警、双葉地方広域市町村圏組合：双葉消防を含む）に対する産業衛生管理は、当該地区の安全管理・復旧・復興に極めて重要であることから、両組織職員に対する産業医（健康管理医）の委嘱を受け、活動を展開している。

2014年度

2014年

- 4月～ 福島県警察健康管理医（～2015年3月）
- 5月～ よろず健康相談事業（～2015年3月）
- 5月5日 WHO／REMPAN会議参加(The 14th Coordination and Planning Meeting)（～11日）
- 5月17日 福島災害医療研修（鹿児島大学大学院生対象）
（第Ⅰ期：5月17日～21日、第Ⅱ期：6月2日～6日）
- 6月6日 第9回福島災害医療セミナー 被ばく医療コース（～9日）
- 6月16日 Radiation and Disaster Medical Science Seminar, Medical Training Course in Fukushima（～7月27日）
- 7月～ 保健活動支援（～2015年2月）
- 7月25日 IAEA会議参加（Technical Meeting on Enhancing Radiation Medicine Education）
（～27日）
- 8月17日 IFMSA- ACTION-project; Human-Caused Disasters; Recovery of Fukushima
- 8月18日 放射線災害医療サマーセミナー2014（～23日）
- 8月22日 平成26年度学生のための福島災害医療セミナー（夏期短期コース）
- 9月1日 平成26年度学生のための福島災害医療セミナー（夏期長期コース）（～4日）
- 9月25日 第10回福島災害医療セミナー 被ばく医療コース（～28日）
- 9月29日 福島災害医療研修（長崎大学病院研修医対象）（～10月1日）
- 10月～ 双葉地方広域市町村圏組合産業医（～2015年3月）
- 11月6日 第11回福島災害医療セミナー 被ばく医療コース（～9日）
- 11月26日 福島災害医療研修（長崎大学病院研修医対象）（～28日）

2015年

- 1月27日 特別講義「チェルノブイリからの教訓」
- 1月28日 第12回福島災害医療セミナー 上級コース（～30日）
【第1部】講義（～29日）
【第2部】東京電力福島第一原子力発電所見学（30日）
- 2月15日 ゴメリ医科大学、ベラルーシ医科大学へ学生派遣（～3月25日）
ゴメリ医科大学における講演会

2015年度

2015年

- 4月～ 福島県警察健康管理医（～2016年3月）
- 4月～ 双葉地方広域市町村圏組合産業医（～2016年3月）

5月～	よろず健康相談事業（～2016年3月）
5月～	保健活動支援（～2016年3月）
5月20日	福島災害医療研修（鹿児島大学大学院生対象）（～29日）
5月21日	第13回福島災害医療セミナー 被ばく医療コース（～24日）
6月4日	福島災害医療研修（長崎大学病院研修医対象）（～6日）
6月15日	Radiation and Disaster Medical Science Seminar, Medical Training Course in Fukushima（～7月27日）
7月11日	第1回福島災害医療セミナー 県内医療従事者コース
7月16日	第14回福島災害医療セミナー 被ばく医療コース（～19日）
8月17日	放射線災害医療サマーセミナー2015（～22日）
8月20日	平成27年度学生のための福島災害医療セミナー（夏期短期コース）（～21日）
8月24日	平成27年度学生のための福島災害医療セミナー（夏期長期コース（8月））（～27日）
9月5日	福島災害医療研修（長崎大学病院研修医対象）（～7日）
9月19日	第2回福島災害医療セミナー 県内医療従事者コース
9月23日	平成27年度学生のための福島災害医療セミナー（夏期長期コース（9月））（～25日）
10月1日	第15回福島災害医療セミナー 被ばく医療コース（～4日）
10月10日	福島災害医療セミナー in 弘前 2015
10月12日	福島災害医療研修（長崎大学病院研修医対象）（～14日）
10月12日	IAEA 会議参加（Train the Trainers Workshop on Medical Physics Support for Nuclear or Radiological Emergencies）（～22日）
11月10日	IAEA 会議参加（Technical Meeting on Science, Technology and Society Perspectives on Nuclear Science, Radiation and Human Health）（～11日）
12月16日	福島災害医療研修（長崎大学病院研修医対象）（～18日）
2016年	
1月11日	福島災害医療研修（長崎大学病院研修医対象）（～13日）
1月27日	特別講義「チェルノブイリからの教訓」
1月27日	第16回福島災害医療セミナー 上級コース（～29日） 【第1部】講義（～28日） 【第2部】東京電力福島第一原子力発電所見学（29日）
2月20日	ゴメリ医科大学、ベラルーシ医科大学へ学生派遣（～3月30日予定）
3月6日	第3回福島災害医療セミナー 県内医療従事者コース

① BSL 基礎編

□事業背景：災害医療、被ばく医療に関する医学生教育は震災以前には殆ど行われていなかった。放射線を否応なく意識せざるを得ない震災後の福島においては、医療従事者は放射線被ばくによる人体影響について知悉していることが求められる。2012年度より実施している医学部5年生対象のBSL（臨床実習）放射線災害医療教育を、2014年度から2日間から3日間に拡大し、1～2日目を基礎編とし、3日目を応用編として位置づけ実施している。放射線の基礎的な知識は、事前学習の放射線災害医療 e-learning で取得し、講義や演習ではその応用について深めるようにしている。

□事業内容：医学部5年 BSL 実習

□学習目標

- ① 放射線の基本知識の確認
- ② 東日本大震災の概要について、特に医療関連の側面を概説できるようになる
- ③ 放射線の健康リスクに関するエビデンスを説明できるようになる
- ④ 測定器を使った放射線の測定ができるようになる
- ⑤ 甲状腺検診について考える
- ⑥ 東日本大震災後の福島の現状や医療従事者の対応を理解し、今後の役割を考える
- ⑦ 放射線事故の歴史を知り、急性放射性症候群の病態を考える
- ⑧ 健康相談演習を体験する
- ⑨ 対象への放射線リスクコミュニケーションについて考える
- ⑩ 国際保健について考える
- ⑪ まとめとテストでBSL 基礎編の理解度を確認する

□実施日：通年（隔週水曜日・木曜日）

□実施回数：2013年度18回、2014年度18回、2015年度18回

□教育内容：以下2015年度のスケジュール

1日目

時間	形式	内容	担当教官
8：30～9：00	導入	オリエンテーション	大津留
9：00～9：50	演習	東日本大震災を考えるプロブレムマッピング	安井、吉田
10：00～12：20	講義	放射線と健康	熊谷
13：20～15：00	実習	放射線測定実習・霧箱実験	長谷川、安井、吉田
15：10～16：00	講義	避難者のメンタルヘルス	本谷
16：10～17：00	講義	急性放射線症候群と放射線事故の歴史	吉田

2日目

時間	形式	内容	担当教官
9：00～10：30	講義	原子力災害と甲状腺疾患	緑川
10：40～12：30	講義	原子力災害慢性期の状況と地域保健	宮崎
13：30～15：00	実習	健康相談模擬演習	安井、熊谷、吉田
15：00～15：30	講義	リスクコミュニケーション特論	熊谷
15：40～16：10	講義	21世紀の世界と日本～支援の現場から～	橋本
16：10～17：00	討論	まとめ・テスト	大津留

□講義の様子：一部紹介



1. 東日本大震災を考える

震災当時を振り返り、当時の報道や自身の体験などをもとに、実習生が主体的に福島の災害後の問題点を抽出し議論するブレインストーミングを行った。

2. 放射線と健康

東日本大震災における複合災害の概要、住民避難に伴う問題点、原爆被爆者やチェルノブイリ事故から得られた放射線の健康影響に関する知見の概説、さらに福島の現状(住民の被ばく量や環境や食品の汚染状況)に関するデータの紹介と解説を行い、福島における健康リスクを考えた。



3. 放射線測定実習・霧箱実験

各種線量計 (GM、NaI) の扱い方を確認し、大学敷地内の環境放射線測定や、表面汚染密度の計算・評価を行った。

霧箱実験では、放射線の可視化を図り、モナズ石 (トリウム含有) によるアルファ線の飛跡を確認した。

4. 原子力災害と甲状腺疾患

放射線誘発甲状腺癌の特徴やチェルノブイリでの甲状腺内部被ばくと甲状腺がんの増加の事例を通して、福島での甲状腺被ばくや甲状腺スクリーニングについて考えた。また実際にエコーを使用し、甲状腺超音波検査を行った。



5. 健康相談模擬演習

実習生が互いに住民役・相談役となり、実際に教員が住民から受けた避難住民の相談内容 (放射線の不安に伴う健康問題、心の問題等) の事例を使用して、住民に対する健康相談を演習形式で実施した。終了後に事例について検討し、放射線リスクコミュニケーションのあり方について考えた。

② BSL 応用編

□事業背景：BSL 基礎編に準ずる

□事業内容：医学部5年 BSL 実習

□学習目標

- ① 救急基本知識の確認
- ② 放射性物質汚染・被ばく傷病者に対する外傷初期診療ができるようになる
- ③ 放射線災害を想定した机上演習を体験する
- ④ 住民とのコミュニケーションについて考える
- ⑤ まとめとテスト解説で BSL の成果を確認する

□実施日：通年（隔週の水曜日）

□実施回数：2013年度18回、2014年度18回、2015年度18回

□教育内容：以下2015年度のスケジュール

時間	形式	内容	担当教官
9:00~12:00	実習	外傷初期診療・緊急被ばく医療実習	長谷川、安井、吉田
13:00~15:00	演習	放射線災害机上演習	熊谷
15:10~16:00	講義	社会コミュニケーション特論	松井
16:10~17:00	講義	まとめ・テスト	大津留（熊谷）

□講義の様子：一部紹介



1. 外傷初期診療・緊急被ばく医療実習

外傷初期診療の復習を行った上で、放射性物質による汚染を伴った重傷外傷傷病者を想定した実習を行う。汚染傷病者の情報収集や防護策、初期診療と除染を実施し、被ばく・汚染管理と並行した救命処置や除染の体験を行った。

2. 放射線災害机上演習

原発内で汚染傷病者が発生したという想定で、必要となる医療活動について考える。この演習を通じて、被ばく・汚染傷病者の受け入れ準備や重症汚染傷病者の初期診療、被ばく線量の評価方法を学ぶこと、また被ばく線量からの人体影響を考えた。



3. 社会コミュニケーション特論

放射線災害後の福島県内の住民とのコミュニケーションの課題や現在の関わりを知り、コミュニケーターとしての役割を考えた。



③ 学生のための福島災害医療セミナー

全国の医学部生及び看護学部生等に対し、福島で見る、聞く、体験することを重視した一般災害・放射線災害に関するセミナーを各種実施しており、2014年度からは「学生のための福島災害医療セミナー」と名称を変更し、夏期短期コース及び夏期長期コースとして開催した。夏期短期コースは、東日本大震災後より災害ボランティアとして本県に訪れている、奈良県立医科大学・和歌山県立医科大学のメンバーや福島県立医科大学の災害医療系サークルFukushima WILLが中心となり、当センターと共同企画により実施し、夏期長期コースについては、大阪大学や長崎大学及び鹿児島大学からの夏季休暇中の学生研修受け入れ依頼に対応して実施した。

また、2014年度からは本学と長崎大及び公益財団法人笹川記念保健協力財団との共催で「放射線災害医療サマーセミナー」を開催し、講義・実習を通じ、放射線や被ばく医療の基礎知識を習得するとともに、川内村及び福島第二原子力発電所の見学を通して、自然災害発生時に併発する特殊災害の対応を理解することを目的とし総合的な研修を行っている。

1. 学生のための福島災害医療セミナー（夏期短期コース）

	開催月日	講師	参加者	会場
①	2013年8月21～22日	7名	医学生 37名 看護学生 5名 その他 1名	福島県立医科大学内
②	2014年8月22日	5名	医学生 35名 看護学生 14名	福島県立医科大学内
③	2015年8月20～21日	7名	医学生 28名 看護学生 10名	福島県立医科大学内

講師一覧

（学内講師）

- 災害医療総合学習センター 熊谷 敦史^{*1}・安井 清孝^{*1}・吉田 浩二^{*4}
- 医療人育成・支援センター 本谷 亮^{*2}
- 救急医療学講座 島田 二郎^{*2}・長谷川有史^{*2}・佐藤めぐみ^{*2}
- 総合周産期母子医療センター 小賀坂奈美^{*2}

（学外講師）

- 国立病院機構 災害医療センター 河畠 讓^{*3}・小早川義貴^{*3}・小塚 浩^{*3}
- 興生総合病院 田治 明宏^{*4}
- 国立長寿医療研究センター 浅野 直也^{*4}

※1 ①-③）、※2 ①）、※3 ②・③）、※4 ③）

2. 学生のための福島災害医療セミナー（夏期長期コース）

	開催月日	講師	参加者	会場
①	2013年8月26～29日	9名	医学生 8名 看護学生 2名	福島県立医科大学内及び 県内協力機関

②	2014年9月1～4日	11名	医学生 10名	福島県立医科大学内及び 県内協力機関
③	2015年8月24～27日	12名	医学生 8名 看護学生 4名	福島県立医科大学内及び 県内協力機関
④	2015年9月23～25日	7名	看護学生 7名	福島県立医科大学内及び 県内協力機関

講師一覧

(学内講師)

- 災害医療総合学習センター 熊谷 敦史^{*1}・安井 清孝^{*1}・吉田 浩二^{*7}
- 医療人育成・支援センター 本谷 亮^{*1}
- 救急医療学講座 長谷川有史^{*2}
- 人文社会科学講座 藤野美都子^{*5}
- 疫学講座 大平 哲也^{*6}
- 放射線健康管理学講座 大津留 晶^{*2}

(学外講師)

- 川内村 井出 寿一^{*2}・猪狩 恵子^{*3}・秋元 英男^{*4}
- 広野町 鈴木洋四雄^{*8}
- 相馬広域こころのケアセンターなごみ 米倉 一磨^{*4}
- 川内村国民健康保険診療所 佐藤 正憲^{*2}
- 長崎大学 折田真紀子^{*3}
- 双葉地方広域市町村圏組合消防本部 遠藤 朗生^{*6}
- 南相馬市立総合病院 金澤 幸夫^{*9}・根本 剛^{*9}
- 福島めばえ幼稚園 伊藤ちはる^{*8}

*1 (①-④)、*2 (①)、*3 (①・②) *4 (①・④) *5 (②)、*6 (②・③)、*7 (②-④)、*8 (③)、*9 (④)

3. 放射線災害医療サマーセミナー

	開催月日	講師	参加者	会場
①	2014年8月18～23日	16名	医学生 12名 看護学生 7名 その他 3名	福島県立医科大学内及び 県内協力機関
②	2015年8月17～21日	22名	医学生 1名 看護学生 10名 その他 14名	福島県立医科大学内及び 県内協力機関

講師一覧

(学内講師)

- 理事長 菊地 臣一^{*3}
- 副理事長兼副学長 大戸 斉^{*1}
- ふくしま国際医療科学センター 谷川 攻一^{*3}

- 災害医療総合学習センター 熊谷 敦史^{*1}・安井 清孝^{*1}・吉田 浩二^{*1}
- 疫学講座 大平 哲也^{*3}
- 救急医療学講座（放射線災害医療学講座） 長谷川有史^{*1}
- 甲状腺内分泌学講座 鈴木 眞一^{*2}
- 災害こころの医学講座 前田 正治^{*1}
- 放射線健康管理学講座 大津留 晶^{*1}・緑川 早苗^{*3}
- 県民健康管理センター（広報コミュニケーション室） 松井 史郎^{*1}

（学外講師）

- 笹川記念保健協力財団 喜多 悦子^{*1}
- 長崎大学 山下 俊一^{*1}・松田 尚樹^{*1}・林田 直美^{*1}・
タチアナ・ログノビッチ^{*1}・折田真紀子^{*1}・
高村 昇^{*3}
- 川内村 遠藤 雄幸^{*1}・猪狩 恵子^{*1}
- 相馬中央病院 越智 小枝^{*3}

※1 ①・③、※2 ①、※3 ②



2013年度
学生のための福島災害医療セミナー
（夏期短期コース）



2014年度
学生のための福島災害医療セミナー
（夏期長期コース）



2015年度
放射線災害医療サマーセミナー

④ Radiation and Disaster Medical Science Seminar, Medical Training Course in Fukushima (海外の医科大学学生のためのセミナー)

1 概要

地震・津波・原子力災害を経験した福島の教訓を広く世界に発信し、かつ福島の学生の国際的視野を広げることを目的に、海外の学生に対する災害医療教育を実施している。オリジナル英文テキストを作成し、福島の震災、放射線の人体影響、チェルノブイリや福島の原子力発電所事故による影響等に関する講義や、放射線測定、緊急被ばく医療、避難所設営、放射線リスクコミュニケーションなどの実習を英語にて行ったのち、関係各所の協力のもと、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の被災地、事故対応施設および被災者のもとを訪問し、あわせて被災住民の方々のもとに直接伺い、原子力発電所の事故対応等についても見学した。放射線健康影響に関する知識の修得、現地訪問を通じ、放射線災害に関する総合的な理解を深める研修となっている。2012年度のコロンビア大学からの初回受講生が中心となり2013年度以降の調整を行い、2013年度・2014年度と規模を拡大して実施した(参考資料①)。さらに、コロンビア大学学生受け入れ実績に基づき、同じくニューヨークのマウントサイナイ アイカーン医科大学からも学生研修受け入れの要請を受け、2013年度から同大学学生2名の受け入れも行った。マウントサイナイ アイカーン医科大学の学生が福島県内住民に聞き取り調査を行った結果は論文としてまとめられ、アメリカにて発表された(参考資料②)。

2014年度にも、コロンビア大学3名、マウントサイナイ アイカーン医科大学2名の計5名が来日し、コロンビア大学学生は1週間、マウントサイナイ アイカーン医科大学学生は1ヶ月半の研修を行った。特にマウントサイナイ アイカーン医科大学学生は、福島県立医科大学とIAEAとの連携事業のシンポジウムにて9.11同時多発テロとハリケーン・カトリーナおよび今回の研修成果とをあわせて発表を行った。また、マウントサイナイ アイカーン医科大学研修生の所感による詩が学会ホームページに発表されたのをはじめ(参考資料③)、コロンビア大学学生の研修報告もWeb上に発表されている(参考資料④⑤⑥)。これらの実績によりマウントサイナイ アイカーン医科大学と大学間の連携協定が締結され、2014年以降毎年2～3月に本学から学生1～2名(4年生)が研修派遣され、学生の国際的視点の醸成に貢献している。

2015年度はコロンビア大学2名、マウントサイナイ アイカーン医科大学2名およびロンドン大学1名の学生に対して研修を行った。コロンビア大学学生は1週間、マウントサイナイ アイカーン医科大学およびロンドン大学学生は2か月の研修を行った。マウントサイナイ アイカーン医科大学およびロンドン大学学生は6月24～26日までのIAEA Workshopおよび7月1日のIAEA Workshop for STSに参加した後、福島県立医科大学で放射線災害医療に関するレクチャーを受け、研究として、仮設住宅の住民と写真および文章で日常生活を記録するPhoto Voice活動を開始した(参考資料⑦)。本年度のコロンビア大学、マウントサイナイ アイカーン医科大学およびロンドン大学学生の研修内容について以下に報告する。

2 実施期間と受講生

- (1) 2015年6月15日(月)～6月19日(金)
- (2) 2015年6月24日(水)～7月27日(月)

(1)	コロンビア大学医学部	Shimon Jacobs
	同上	Mariko kanai
(2)	マウントサイナイ アイカーン医科大学医学部 1年生	Christina Anderson
	同上	Claire Mann
	ロンドン大学	Alessandro Massazza

3 使用言語 英語

4 日程と内容

- (1) コロンビア大学

Date	Time	Style	Outline	Teacher
6/15	9:00～9:20	Introduction	Introduction	
	9:20～10:10	Workshop	Please think about what happened during /after "Fukushima Disaster".	Ns.Yoshida
	10:20～11:20	Lecture	Disaster of Fukushima	Dr.Kumagai
	11:30～12:30	Lecture	Basic knowledge of radiation	Dr.Kumagai
	13:30～15:00	Exercise	How to measure the radiation	Dr.Kumagai
	15:15～15:45	Courtesy call		Dr.Yaginuma Dr.Suzutani Dr.Sekine Dr.Ohtsuru
	16:00～17:30	Lecture	Radiation health risk in Fukushima(1)	Dr.Kumagai
6/16	9:00～10:30	Lecture	Radiation health risk in Fukushima(2)	Dr.Kumagai
	10:40～11:30	Lecture	Public health approach and maternal and child health	Dr.Goto
	12:30～14:00	Table-top exercise	How to manage the shelter	Ns.Yasui
	14:10～15:00	Lecture	Daily life of evacuation and problems	Ns.Yasui
	15:10～16:00	Lecture	Mental health problems among the evacuees	Dr.Motoya
	16:15～17:30	Lecture	Radiation health risk in Fukushima(3)	Dr.Kumagai
6/17	9:00～10:00	Lecture	History of radiation related accidents	Ns.Yoshida
	10:00～12:00	Lecture/ Exercise	Emergency radiation medicine at "Fukushima Disaster"/Protection tools for contamination patients	Dr.Kumagai
	13:00～15:00	Table-top exercise	Emergency radiation medicine/dose assessment	Dr.Kumagai
	15:10～16:00	Lecture	Lecture from Prof.Ohtsuru	Dr.Ohtsuru
	16:10～17:10	Simulation	Health consulting for evacuees(mock patients exercise)	Ns.Yasui
6/18	8:30～11:30	Inspection	Health consulting for citizens(Kawamata town)	
	13:00～14:00	Transfer	Kawamata to Minamisoma city	
	14:00～16:00	Inspection	Tsunami suffered area and evacuation zone	

Date	Time	Style	Outline	Teacher
6 / 19	8 : 00 ~ 13 : 00	Inspection	Other natural risk ; active volcano in Fukushima	Ns.Yasui / Dr.Kumagai
	13 : 30 ~ 15 : 00	Discussion	Risk communication and Physician's role	Dr.Kumagai
	15 : 20 ~ 16 : 00	Conclusion	Wrap up meeting	Dr.Yaginuma Dr.Suzutani Dr.Sekine Dr.Ohmori Dr.Ohtsuru Dr.Kumagai Ns.Yasui Ns.Yoshida

(2) マウントサイナイ アイカーン医科大学およびロンドン大学

Date	Time	Style	Outline	Teacher
6 / 24 ~26	9 : 00 ~ 18 : 00	Workshop	IAEA Workshop for Medical Physicists	
7 / 1	9 : 00 ~ 18 : 00	Workshop	IAEA Workshop about STS	
	18 : 30 ~		Meeting about nurse's QOL data	Dr.Otani
7 / 2	9 : 00 ~ 10 : 30	Problem mapping	Please think about what happened during /after "Fukushima Disaster".	Ns.Yoshida Ns.Yasui Dr.Kumagai
	11 : 00 ~ 12 : 00		Presentation skills class	Dr.Nollet
	13 : 30 ~ 17 : 00	Lecture	Fukushima Disaster Overview, Radiation health effects	Dr.Kumagai
7 / 3		Courtesy call	Courtesy call	Dr.Yaginuma Dr.Suzutani Dr.Sekine Dr.Ohtsuru
7 / 5	All day		First meeting with PhotoVoice participants in Nagomi	
7 / 6	9 : 00 ~ 16 : 00	Field work	Inspection of suffered area	Dr.Kumagai Ns.Yasui Ns.Yoshida
7 / 8	13 : 00 ~ 16 : 30	Lecture	Radiation health risk in Fukushima(1)	Dr.Kumagai
	16 : 30 ~		Meeting about PhotoVoice activities	Dr.Sekine
7 / 9	9 : 00 ~ 10 : 30	Lecture	Radiation health risk in Fukushima(2)	Dr.Kumagai
	11 : 00 ~ 12 : 00		Presentation skills class	Dr.Nollet
	13 : 30 ~ 15 : 00	Exercise	How to measure the radiation	Dr.Kumagai
7 / 11 ~12			Interviews/Focus groups with PhotoVoice participants	
7 / 15	9 : 00 ~ 10 : 30	Table-top ex	How to manage the shelter	Ns.Yasui
	10 : 30 ~ 12 : 00	Lecture	Evacuee's daily life	Ns.Yasui
	13 : 00 ~ 15 : 00	Table-top ex	Emergency radiation medicine/dose assessment	Dr.Kumagai
7 / 16	13 : 30 ~ 16 : 30	Discussion		Dr.Ohtsuru
7 / 18	All day		Interviews/Focus groups with PhotoVoice participants	
7 / 19	All day		Interviews/Focus groups with PhotoVoice participants	

Date	Time	Style	Outline	Teacher
7/25	All day		Interviews/Focus groups with PhotoVoice participants	
7/26	All day		Interviews/Focus groups with PhotoVoice participants	
7/27	9:00~10:00		Wrap up meeting	Dr.Kumagai Ns.Yasui Ns.Yoshida
	10:00~12:00	Presentation	Wrap up meeting	Dr.Ohtsuru Dr.Kumagai Ns.Yasui Ns.Yoshida

【研修風景】



【講義】



【被災地見学】



【福島医大生との交流】

なお、参考資料に関しては以下のページをご参照願います。

参考資料① <http://nishimiyafellowsprogram.org/>

参考資料② [http://www.annalsofglobalhealth.org/article/S2214-9996\(14\)00263-X/fulltext](http://www.annalsofglobalhealth.org/article/S2214-9996(14)00263-X/fulltext)

参考資料③ ※Society of General Internal Medicine の website に掲載

参考資料④ <http://nishimiyafellowsprogram.org/2014-program/miyukis-blog/>

参考資料⑤ <http://nishimiyafellowsprogram.org/2014-program/millies-page/>

参考資料⑥ <http://nishimiyafellowsprogram.org/2014-program/williams-page/>

参考資料⑦ <http://www.danieljacklyons.com/#/fukushima/>

⑤福島災害医療研修

1 目的

今回、鹿児島大学大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程放射線看護専門看護師コースに在学中の学生を2014年度に2名、2015年度に2名、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻放射線看護専門看護師養成コース在学中の学生を2014年度に1名及び長崎大学病院臨床研修医を2014年度に2名、2015年度に5名を受け入れ、放射線災害時の対応や住民の放射線に対する不安への対応、及び一般災害時にも対応できる人材育成を目指し研修を実施した。

研修内容としては、福島の震災から始まり、放射線基礎、人体への放射線影響、放射線測定実習、緊急被ばく医療実習、リスクコミュニケーション演習などを行い、放射線災害後の急性期から慢性期にかけての学習を行った。また、救護所設置の机上演習などを通して一般災害時の備えについて学習を行った。更には、仮設見学、被災地見学、よろず健康相談、甲状腺検診の介助など福島だからこそ行える研修に参加し、福島の現状を体験してもらった。

2 実施期間

(1) 鹿児島大学大学院生

- ① 2014年6月2日（月）～6日（金）
- ② 2015年5月20日（水）～29日（金）

(2) 長崎大学大学院生

2014年6月5日（木）～8日（日）

(3) 長崎大学病院臨床研修医

- ① 2014年9月29日（月）～10月1日（水）
- ② 2014年11月26日（水）～28日（金）
- ③ 2015年6月4日（木）～6日（土）
- ④ 2015年9月5日（土）～7日（月）
- ⑤ 2015年10月12日（月祝）～14日（水）
- ⑥ 2015年12月16日（水）～18日（金）
- ⑦ 2016年1月11日（月祝）～13日（水）

3 受講者

(1) ①土橋由美子（2年次）、松川京子（2年次）

②松本衣未（2年次）、堀 裕子（2年次）

(2) 中山優美（2年次）

(3) ①池永 仁（1年次）、②白石斗士雄（1年次）、③増田真吾（2年次）、④土屋りみ（1年次）、

⑤小松葉穂子（1年次）、⑥福田侑甫（2年次）、⑦松田 剛（1年次）

4 内容

(1) 鹿児島大学大学院生

形式	内容
①講義・ワークショップ	「福島の震災」「福島における放射線リスク」「避難者の生活とメンタルヘルス」「幼稚園における震災後の取り組み」「双葉消防の活動」「福島原発事故の社会科学的考察」「被ばく・汚染傷病者医療対応」「急性期原子力災害医療対応の現実」「急性被ばく症候群と放射線事故の歴史」「原子力災害慢性期の状況と地域保健」「原子力災害と甲状腺疾患」「リスクコミュニケーションと医療者の役割」「放射線治療について」
②演習・実習	「福島原発事故がもたらした問題を考える」「二次被ばく医療機関における放射線事故対応」
③見学・訪問	「被災地視察」「広野町放射線相談員との交流会」「仮設住宅訪問」

(2) 長崎大学大学院生「第9回福島災害医療セミナー（被ばく医療コース）」で受入

(3) 長崎大学病院臨床研修医

形式	内容
①講義・ワークショップ	「福島の災害」「放射線と健康」「急性放射線症候群と放射線事事故例」「リスクコミュニケーション特論」
②演習・実習	「放射線測定実習・霧箱実験」「よろず健康相談説明・模擬演習」
③見学・訪問	「よろず健康相談」

5 受講者の感想

(1) 鹿児島大学大学院生

セミナーでは、講師の先生の調整や講義・実習の構成などを、医師、看護師、事務職との共同で運営されており、準備の大変さや細やかさを感じることができた。また、汚染患者受入実習では、多職種の協同・連携がスムーズでないと、患者に不安と負担をかけることから、この訓練も回数を重ね、チームで修得していくことが大切だと学んだ。

(2) 長崎大学大学院生

今回のセミナーでは、震災について、放射線について更に深く知ることが出来た。福島でこのセミナーがあることにより、現場で起きていることを現場から風化させることなく発信できると改めて思った。長崎にいても感じない、伝わってこない情報があることがわかってその気持ちは更に感じる事が出来た。私は、実際に福島県で保健師活動の実習をさせてもらった中で、放射線と健康影響についてお話しする機会も多くあり、難しく感じながら活動していたが、客観的データをもとに、住民の生活背景を聞きながらコミュニケーションをとることを常に考えていたので、よろず相談では改めてリスクコミュニケーションの必要性和難しさを知った。また、様々な職種の方とセミナーを一緒に出来ることで、様々な視点から震災、原発事故、放射線に関して考えることが出来、とても充実した4日間を終えられた。

(3) 長崎大学病院臨床研修医

震災の概要を学んだ。地震、津波、原発事故の3つが重なっており、そのうち特に原発事故が大きく絡んでいた。事故当時から現在にかけて、どのように医療体制や避難体制、また情報の変化があったかを知った。特に避難に関してはどの時点でどのような患者を避難させるか、ただやみくもに避難させるだけでは却って不利になることを考える必要があった。始まったばかりではあるが、カルチャーショックという少し異なるかもしれないが、今までの感覚とは大きく異なる実生活が福島にはあるということを知った。その根本には放射線の影響が強かった。この1ヶ月の研修では実際に避難生活を継続している方々、支援する方々などに触れあう機会が多く、自分なりに考えてみようと思う。



⑥福島災害医療セミナー

このセミナーは、講義、実習を通して、一般災害・放射線災害に関する基礎知識や災害医療・放射線被ばく医療の知識及び技術の習得を図るとともに、被災地・関係機関への実地研修を通じ、災害医療に関する幅広い視野をもつ人材を育成することを目的として2012年度より通算16回開催された。

そのうち既受講者を対象とした第8回、第12回及び第16回セミナーを上級コースとして実施し、被ばく医療コースでは触れられなかった、より深い内容を考えることを主眼とし、県民健康管理調査の現状や、ベラルーシ共和国内の医科大学の教官による現地報告、社会心理学の専門家による分析やワークショップ等を実施し、さらに実際に東京電力福島第一原子力発電所を見学した。

また、2015年度は県内医療関係者のみを対象とした「県内医療従事者コース」として、放射線健康リスク及びメンタルヘルスに重点を置いた1日コースのセミナーを実施した。

本セミナーの「被ばく医療コース」受講者は247名にのぼっており、そのうち、今年度（12月末現在）よろず健康相談に参加されている方が26名（のべ人数241名）である。よろず健康相談として、実際に福島の子民のために活躍する人材育成の場ともなっている。

1 実施回数・日程

(1) 被ばく医療コース 計13回

第1～3回	「医療人育成・支援センター年報2010～2013年度」版参照		
第4回	2013年6月6日(木)～9日(日)	第10回	2014年9月25日(木)～28日(日)
第5回	2013年9月20日(金)～23日(祝・月)	第11回	2014年11月6日(木)～9日(日)
第6回	2013年10月10日(木)～13日(日)	第13回	2015年5月21日(木)～24日(日)
第7回	2013年12月5日(木)～8日(日)	第14回	2015年7月16日(木)～19日(日)
第9回	2014年6月5日(木)～8日(日)	第15回	2015年10月1日(木)～4日(日)

(2) 上級コース（「被ばく医療コース」受講済み対象） 計3回

第8回	2014年1月28日(火)～30日(木)	第16回	2016年1月27日(水)～29日(金)
第12回	2015年1月28日(水)～30日(金)		

(3) 県内医療従事者コース 計3回

第1回	2015年7月11日(土)	第3回	2016年3月6日(日)
第2回	2015年9月19日(土)		

2 受講者数および講師、協力者数

(1) 被ばく医療コース

	受講者数					講師、協力者数 (のべ)		
	医師 ^{※1}	看護職	技師 ^{※2}	その他 ^{※3}	合計	学内	学外	合計
第1～3回	13	8	6	3	30	14	21	35
第4回	4	3	2	3	12	9	6	15
第5回	6	4	3		13	10	6	16
第6回		6	2	1	9	9	5	14
第7回	7	1	4		12	8	5	13
第9回	9	5	6		20	10	2	12
第10回	4	7	5	3	19	10	3	13
第11回	7	8	4	2	21	10	2	12
第13回	6	7	6	2	21	9	2	11
第14回	5	8	7	2	22	8	2	10
第15回	3	12	7	6	28	9	2	11
合計	64	69	52	22	207	106	56	162

(2) 上級コース

	受講者数					講師、協力者数 (のべ)		
	医師 ^{※1}	看護職	技師 ^{※2}	その他 ^{※3}	合計	学内	学外	合計
第8回	9	4	3		16	6	9	15
第12回	10	6	7	1	24	7	10	17
第16回	4	13	7	2	26	7	8	15
合計	23	23	17	3	66	20	27	47

※1 研修医含む ※2 診療放射線技師 ※3 臨床心理士、臨床検査技師、薬剤師、救急救命士、消防士、大学教員、管理栄養士、事務職

(3) 県内医療従事者コース

	受講者数					講師
	医師	看護職	技師 ^{※1}	その他 ^{※2}	合計	学内
第1回	5	12	1	9	27	5
第2回	2	3	2	6	13	5
第3回	2	7		1	10	5
合計	9	22	3	16	50	15

※1 診療放射線技師 ※2 臨床検査技師、薬剤師、理学療法士、鍼灸師、救急救命士、社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、消防士、事務職

3 受講者の感想 (抜粋)

(1) 被ばく医療コース

■医師 (栃木県より。第7回に参加。)

基礎医学的な話から、人文科学の話まで、幅広い内容であったにも関わらず、とても充実しており、その質に大変おどろきました。また、講義と実習のバランスもとれていて、福島ならではの話と一般的な話のバランスもとれていたと思います。自分の施設でもぜひ活用したいと思っておりますし、他の人にも受講を強く勧めたいコースだと思います。



■診療放射線技師（神奈川県より。第5回に参加。）

今回このような機会にて参加・実習・視察・体験できたことが非常に良かったです。福島の被災地を見学できた時は言いようもない衝撃を体感しました。被災者との相談会では、普段患者との会話が少ない業務なので貴重な体験となりました。除染棟での実習は模擬的とはいえ、汚染や被ばくを考えて、技師として伝えるという大切さや現場に介入して医師等に指示するといった緊張感のある実習となりました。今後はいかに院内もしくは院外で現状と対策等を伝えていくか、体験した4日間を無駄にしないためにも協議をしていかなければと感じました。



(2) 上級コース

■医師（青森県より。第8回に参加。）

福島原発事故による社会的影響はあまりにも大きく、問題の複雑さや根深さなどを改めて肌で感じる事が出来ました。社会的な側面に関する関心を高く保ちいろいろな情報を得ていきたいと思いました。また、心理学的アプローチも非常に重要であると再認識しました。住民の感情に寄り添いながら、正しいデータを理解してもらう事が我々医療職者に課せられた任務だと思いますが、そのためにはどの様にアプローチすれば良いのかいろいろなヒントをいただきました。WSの課題は“低線量被ばくに関する医療体制への信頼性が低い状態でどの様に one-way、two-way のアプローチをしていくか”というもので、これを福島で行う意義とスタッフの本気度がひしひしと伝わりました。第一原発の収束までには気の遠くなるような長い年月がかかるでしょうし、自分にできる事は限られていますが、少しずつでもできる事を継続していきたいと改めて感じました。今後も資料を見ながら復習したいと思います。

(3) 県内医療従事者コース

■看護師（福島県より。第2回に参加。）

簡潔でわかりやすい講義内容で、今まで考えていたモヤモヤした疑問が解消されました。放射線の事実と社会的問題を混同することが、福島の復興をさまたげていると思います。目標が“健康”なので病院に来る患者様と医療者は、共感意識をもちやすい立場関係にあるので、説明機会があれば、情報提供したいと思います。



⑦ 放射線災害医療 e ラーニング

災害医療総合学習センターでは2012年度に放射線災害医療 e ラーニングの開発を行い、2013年10月から県内の看護学生および医学生、看護師を中心とした医療従事者および当センターが主催した福島災害医療セミナー受講者、よろず健康相談に参加する医師に対して提供してきた。2014年にはスマートフォン用eラーニングを開発し、提供を開始した。2013年度から2015年度までの実績は以下である。

2013年度

看護学生	295	臨床検査技師	1
看護師・保健師	117	理学療法士	2
医学生	57	救急・消防関係	1
医師	28	事務職	4
薬学部生	1	その他	4
診療放射線技師	9	総数	519

2014年度

看護学生	222	臨床検査技師	2
看護師・保健師	98	理学療法士	3
医学生	156	臨床心理士	1
医師	125	精神保健福祉士	3
薬学部生	1	事務職	8
診療放射線技師	14	総数	633

2015年度（3月8日現在）

看護学生	124	臨床検査技師	2
看護師・保健師	114	救急・消防関係	5
医学生	138	精神保健福祉士	2
医師	74	事務職	11
薬剤師	2	その他	17
診療放射線技師	27	総数	516

□ コンテンツ

はじめに

ドキュメント・福島第一原子力発電所事故
プレテスト

基礎編

- ①放射線の基礎知識Ⅰ
- ②放射線の基礎知識Ⅱ
- ③東京電力福島第一原子力
発電所事故
- ④避難者の生活とメンタル
ヘルス

応用編

- ①放射線の基礎知識Ⅰ
- ②放射線の基礎知識Ⅱ
- ③東京電力福島第一原子力
発電所事故
- ④避難者の生活とメンタル
ヘルス
- ⑤緊急被ばく医療

総合テスト

正解率80%以上で修了証発行

⑧ベラルーシ共和国の医科大学との連携

チェルノブイリ原子力発電所事故（1986年）により甚大な放射性物質汚染を被ったベラルーシ共和国において、事故当時の対応およびその後の医学教育にあたってきたベラルーシ医科大学（ミンスク）とゴメリ医科大学の両校と、2013年9月に教育に関する連携協定を締結し、これまで3回の講師招聘（計6名）と、3回の学生派遣（計3名）を行ってきた。この教育協定締結および人材交流事業は当センターが中心になって担当したものである。

チェルノブイリ原発事故は、未曾有の原発事故として今なお史上最も厳しい影響を及ぼしたものであり、現地では原発作業員・除染従事者・住民それぞれの健康リスクに対応した施策が実施されている。チェルノブイリ周辺は、25年前に事故を体験した地域であり、その教訓を学び続けることは、福島、そして世界の被ばく医療をより良いものにすることであり、福島において世界で最も望ましい医療・放射線健康リスクコミュニケーションを展開するために不可欠の取り組みである。また、ゴメリ医科大学は事故後に設立された大学であり、放射線健康リスクを踏まえた医学教育・住民教育のあり方についても意見交換を行っている。

【招聘実績】

- 2013年度：ワシリー・ルデノーク（ベラルーシ医科大学副学長）
アレクサンドル・カズロフスキー（ゴメリ医科大学副学長）
- 2014年度：アラム・アベティゾフ（ベラルーシ医科大学准教授）
タマラ・シャルシャコワ（ゴメリ医科大学教授）
- 2015年度：アレクサンドル・スタジャーロフ（ベラルーシ医科大学教授）
ウラジーミル・ボルトノフスキー（ゴメリ医科大学教授）

【派遣実績】

- 2013年度：本郷 剛（医学部4年）2014年2月10日～3月19日
- 2014年度：奥村一輝（医学部4年）2015年2月15日～3月24日
- 2015年度：細井玲奈（医学部4年）2016年2月20日～3月30日

「ベラルーシ留学報告」 医学部 4年奥村一輝

1. 期間

全日程：2015年2月15日～3月24日

2. 派遣先

2月16日～3月5日：ゴメリ医科大学（ゴメリ市）

3月5日～3月24日：ベラルーシ医科大学（ミンスク市）

3. ベラルーシ共和国について

ベラルーシ共和国はロシア、ウクライナ、ポーランド、リトアニアなどに囲まれる内陸国で、1991年以前は旧ソビエト連邦に属していた。社会主義国家であり、日本と違って医療費が無料である。言語はロシア語、ベラルーシ語が話され、宗教は主にキリスト教（ベラルーシ自治独立正教、ロシア正教、ローマ・カトリック）である。人口は1000万人ほどで、首都はミンスクである。

4. 留学の動機

私は震災・原発事故があった2011年に福島県立医科大学に入学し、急ピッチで復興を進める福島の地で4年間を過ごしてきた。現在、福島市において人々は平穏な日々を取り戻しつつあるが、一部雑誌では未だに「福島にいと鼻血が出る」「福島県でガンが多発」などという描写がされるなど、低線量被ばくに関する情報は錯綜している。それらを見て私はおかしいと感じたものの、知識不足により論理的な批判ができなかった。自分で調べた結果、簡単に言えば福島県民の被ばく量は広島・長崎やチェルノブイリ原発事故の被ばく者よりもケタ違いに小さく、その影響は極めて小さいということが分かったのだが、それすら正しく説明できる福島医大生は少ないのではないかと思った。

また同時に発がんリスクとしては生活習慣病の方が高く、震災後に肥満が増えているという現状を知った。しかしそのことを伝える報道は少なく、多くの福島県民が生活習慣病よりも放射線の方を気にしていると思われる。そのようなリスク認知のゆがみは問題なのではないかとも思った。

以上の放射線に対する知識とリスク認知について問題意識を持った上で、原発事故後27年のベラルーシにおいてはどうなっているのかという疑問を持ち、私は今回の留学に参加するに至った。

5. 研修の総括

ゴメリ医科大学では、循環器病院・感染症病院において外国人留学生とともに臨床講義・実習を受け、ベラルーシの教育・医療について学んだ。またゴメリ医科大学の先生方のお力を借りて放射線の知識とリスク認知に関する質問紙を作成し、学生に対して質問紙調査を行った。

ベラルーシ医科大学では、チェルノブイリ原発事故に関連した様々な施設を見学し、原発事故後

27年経った今でも被害者の医療支援などが行われていることを学んだ。また学生らと議論する中で、ベラルーシの医療の問題と、原発事故後の福島今後の医療のあり方について考えた。

6. ゴメリ医科大学における研修

ゴメリはチェルノブイリ原発事故において拡散した放射性物質による被害が最も大きかった州で、ゴメリ医科大学は原発事故を受けて設置された大学である。ここでは生活習慣病にかかわるといことで循環器病院にて臨床講義・実習を受けるとともに、学生に対して放射線の知識とリスク認識について質問紙調査を行った。連絡ミスにより授業にでられないというトラブルがあったが、そのため急遽感染症病院に行くこととなり、ゴメリにおける医療の現状を垣間見ることができた。



Figure 1 ゴメリ医科大学

循環器病院では、スリランカ・インド・トルクメニスタン・イラク出身の留学生達とともに循環器センターで循環器の臨床講義を受けた。ベラルーシでは他のヨーロッパ諸国よりも学費が安いいため、他国から多くの留学生が学びに来るのだという。授業はすべて英語で行われ、学生たちは積極的に先生と議論しながら医学の知識を学んでいた。驚くことに彼らは臨床実習のためにロシア語でも医学を学ぶ必要があり、さらに卒業後は母国語で試験を受け、医師になるのだという。その勉強量には感服し、英語さえ不十分な自分にとってとてもよい刺激となった。



Figure 2 循環器病院での臨床講義

臨床実習では実際に病棟に行き、患者さんの話を伺った。病棟の様子は、ナースコールや酸素ガスの配管などは無くただベッドと電源コンセントが並んでいるだけのシンプルなもの、ベッド間にカーテンも無くプライバシーが保たれていなかったり、ベッドが足りずに廊下にも患者が寝ていたり日本とは大きく違っていた。しかしどの患者さんも日本から来た自分に対してとても親切に接してくれた。先生によるとベッド間にカーテンがないことにより患者同士が気軽に話せるというメリットがあるそうで、ベラルーシの人々の朗らかな性格を反映しているのかもしれない。ちなみにベラルーシの食事は炭水化物と脂肪が多く、死因としては心血管系の疾患が最多なのだという。福島も放射線と生活習慣病という2つのリスクを抱えるという点が共通しており、交流や研究をしていく意義は大きいと感じた。

そしてゴメリ医科大学の学生がどれだけ放射線に対する知識を持ち、放射線を含めた様々な健康リスクをどのように認識しているかについて質問紙調査を行った。結果としては、リスク認知の質問に対してゴメリ医科大学の学生は「原子力発電所の診療所で働く」「自然放射線の高い地域に住

む」といった日常とはかけ離れたことに不安を感じる一方で、「ゴメリの農作物を食べる」「森のキノコやベリーを食べる」といった日常に密接していることはあまり不安に思っておらず（表1参照）、回避行動も少ない（表2参照）ということがうかがわれた。しかし不安と回避行動の相関を調べると、「ゴメリの農作物を食べる」よりも「森のキノコやベリーを食べる」が高い結果となった（表3参照）。これは、前者は主食であるので食べざるをえないが、後者は「食べる」・



Figure 3 質問紙調査の様子

「食べない」の選択ができるからだと考えられる。それはこれからの福島の方評被害にもつながる話だと思う。

<表1 様々な健康リスクへの不安度ランキング>

順位	リスク	点数の平均値
1	慢性的に睡眠不足の生活を送る	2.91
2	遺伝子組み換え食品を食べる	2.81
3	標準体重に比べ、大きく太っている (BMI \geq 30)	2.78
4	タバコを一日10本以上吸う	2.76
5	原子力発電所の診療所で働く※	2.71
6	自然放射線の高い地域に住む※	2.56
7	日焼けサロンに行く	2.36
8	慢性的に運動不足の生活を送る	2.32
9	標準体重に比べ、大きくやせる (BMI $<$ 19)	2.27
10	揚げ物を週に2回以上食べる	2.24
11	自分が放射線検査を受けたときの被ばく※	2.23
12	放射線科医として働く※	2.19
13	食塩を一日5グラム以上摂取する	2.03
14	ゴメリ産の森のキノコやベリーを食べる※	2.02
15	紫外線ケアをせず野外で活動する	1.98
16	国際線の飛行機に乗る※	1.56
17	ゴメリの農産物を食べる※	1.54

(※は放射線関連の質問を示している)

<表2 様々な健康リスクへの回避度ランキング>

順位	リスク	点数の平均値
1	タバコを一日10本以上吸う	3.62
2	日焼けサロンに行く	3.21
3	標準体重に比べ、大きく太っている (BMI \geq 30)	2.97
4	遺伝子組み換え食品を食べる	2.67
5	揚げ物を週に2回以上食べる	2.61
6	標準体重に比べ、大きくやせる (BMI $<$ 19)	2.44
7	食塩を一日9グラム以上摂取する	2.37
8	慢性的に運動不足の生活を送る	2.31
9	慢性的に睡眠不足の生活を送る	2.16
10	ゴメリ産の森のキノコやベリーを食べる※	1.89
11	紫外線ケアをせず野外で活動する	1.75
12	放射線検査 (X線検査など) をうける※	1.61
13	ゴメリの農産物を食べる※	1.35

(※は放射線関連の質問を示している)

<表3 不安・回避の相関度ランキング>

順位	リスク	点数の平均値
1	ゴメリ産の森のキノコやベリーを食べる※	.604 ^{***}
2	遺伝子組み換え食品を食べる	.574 ^{***}
3	紫外線ケアをせず野外で活動する	.507 ^{***}
4	揚げ物を週に2回以上食べる	.467 ^{***}
5	標準体重に比べ、大きくやせる (BMI $<$ 19)	.433 ^{***}
6	日焼けサロンに行く	.411 ^{***}
7	食塩を一日9グラム以上摂取する	.405 ^{***}
8	ゴメリの農産物を食べる※	.391 ^{***}
9	放射線検査 (X線検査など) をうける※	.368 ^{***}
10	標準体重に比べ、大きく太っている (BMI \geq 30)	.306 ^{***}
11	慢性的に運動不足の生活を送る	.273 ^{***}
12	タバコを一日10本以上吸う	.251 ^{***}
13	慢性的に睡眠不足の生活を送る	.013

(※は放射線関連の質問を示している)

また放射線の知識についての質問では、チェルノブイリ原発事故での発生した甲状腺ガンの10年生存率を問う問題で正答率が低く、実際は10年生存率99%にもかかわらず、かなり死亡率が高いと知っているようである (表4参照)。これは学生が放射線の被害に対して過剰な不安を持っていることを表しているのかもしれない。しかし甲状腺ガンが増える甲状腺等価線量、全身のガン死亡率が上がる被ばく量に関しては比較的高い正答率を示し、原発事故の教訓が生かされているのかもしれないと感じられた。

<表4 放射線防護の基礎知識>

問題	正答率 (%)
①甲状腺に蓄積しやすい放射線物質は I^{131} である	80.5
②チェルノブイリ原発30km圏内から避難した6歳以下の小児における甲状腺被ばく線量は、平均約2000mSvであった	2.7
③チェルノブイリ原発事故後に発生が増加した、小児甲状腺乳頭癌の10年生存率は約99%である	1.2
④甲状腺ガンが増加する最小の甲状腺等価線量は100mSvである	47.5
⑤全身被ばくでガン死亡率が増加する最小の線量は累積100mSvである	40.9
⑥一般の人に対しては（自然放射線量と医療被ばくを除いた）年間追加被ばく線量を1mSvにするという目標が設定されている	20.0
⑦医療被ばくにおいて、患者の医療被ばくの限度は定められていない	14.1

自分の知識不足によりまだデータの解析は不十分であるが、結果がまとまり次第、然るべき場所で発表したいと考えている。また福島県立医大の学生に対しても同様の質問紙調査を行い比較したいと考えている。

最後の臨床講義は感染症病院にて受けたのだが、そこは日本の病院と多くの違いがあった。そもそも感染症病院というものは日本にはないのだが、空気感染する感染症（結核・水痘・麻疹）を除いたインフルエンザやウイルス性肝炎などあらゆる感染症になった人が入院する病院とのことらしい。感染症病院なのに手の消毒液が無かったり、エイズ患者の隣に急性気管支炎、インフルエンザの患者が寝ていたりと衛生環境が良いとはとてもいえなかった。しかし学生が言うには「公立病院だから仕方が無い」のだそうだ。しかし私立病院は一部の富裕層しか利用できないので、国としての医療の質としては高くないといわざるを得ない。医療費が無料というベネフィットの裏に、このような実情があることを知った。



Figure 4 感染症病院

7. ベラルーシ医科大学における研修

ベラルーシ医科大学はチェルノブイリ原発事故の際に拠点となった大学で、ミンスクにはチェルノブイリ原発事故関連施設が多く存在している。原発事故の被災者を含めた精神疾患患者の社会復帰支援を行うクラブハウス、原発事故で被ばくしたレスキュー隊の治療を行った病院であるミンスク循環器リハビリセンター、リアルタイムで環境中の放射線量を計測している気象学センター、事故後の健康管理を行ったベラルー



Figure 5 ベラルーシ医科大学

シ国立大学産業保健センター、原発事故後に発生した甲状腺ガンの手術を行ったミンスク内分泌病院、原発事故の被害者は無料で利用できるリハビリ・温泉学センターなどを来訪し、原発事故の被害を受けた人々が今なお多くのサポートを受けていることを学んだ。

その中で特に印象に残ったのは、ミンスク循環器リハビリ病院において、原発事故の対応に貢献した放射線科医のアリサ医師に話を伺ったことである。まず「ベラルーシで今でも放射線を怖がっている人はいるか」との質問には、「数はそれほど多くないが、いろんな病気を放射能につなげて考える人はいる」とのことであった。これはおそらく今後福島で正しい知識が普及することがなければ、少なからず問題になるかもしれない。また「被ばくした人に差別はなかったのか」との質問には、「ほぼなかった」らしい。このことは驚きだった。広島・長崎ではもちろんヒバ



Figure 6 ミンスク循環器リハビリセンター

クシャへの差別は事実であるし、福島でも避難者への差別が問題となったというニュースを聞いたことがある。ソ連時代の情報統制など様々な要素もあるだろうが、この違いはどこから来るのか、非常に興味深い。民族性の違いといったことも考えられるが、差別の問題も結局は教育に帰結されるのではないだろうか。次に「甲状腺ガン以外に甲状腺疾患は増えなかったのか」との質問には、「橋本病が増えたと思う」との答えだった。ただこれは統計が存在しないので、真実かどうかは分からない。ただ福島において、甲状腺ガン以外にも増加する疾患がないか注意すべきだと思う。最後に「ベラルーシで建設中の新しい原発についてどう思うか」と質問すると、意外にも「ほとんどの国民はポジティブに考えている」との回答を得た。原発に反対している人も多く存在する日本とは状況が違っている。理由としては27年前の原発事故の記憶が薄れてきていることに加え、ベラルーシは資源に乏しくエネルギーをロシアに依存しているということ、日本とは違って地震や津波といった自然災害が少ないということがあるという。

またベラルーシ医科大学の学生たちと議論する中で見えてきたことを紹介したい。ベラルーシは社会主義国家であることから、公務員である医師の賃金は非常に低く、問題となっている。医師の給料はタクシーの運転手よりも低い場合もあるようで、多くの医師がロシアやドイツに出稼ぎに行くという。賃金は低いにも関わらず労働時間や社会的責任は他国と同様であるため、酒に溺れて身を減ぼす医師、職を辞してしまう医師も多くいるのだという。これは医療システムの構造的な問題だろう。医療費が無料であるものの、感染症病院で見た医療の実態とも関連して非常に危ういものがあると思う。学生たちにその状況について質問すると、多くの者が「憂慮すべきだが、自国の政治は変えられない」と答えていた。ベラルーシはいわゆる独裁国家であり、反対の声を上げてそれが政治に反映されることは難しいようだ。また医療費が無料ということで、人々が安易に救急車を呼んでしまったり、何でもないようなケガ・体調不良でも病院に来たりすることも問題となっているらしい。

こういった医療システムの問題は日本と無関係ではない。日本は資本主義国家だが、手厚い医療

(自己負担3割・高額療養費制度・生活保護の無償医療など)においては社会主義的であるといわれている。そして急激な少子高齢化を背景に、増え続ける医療費を国債など借金で賄っているのが現状である。今後、日本の医師の賃金が今の水準を保ち続けるのだろうか。もしも日本の財政が破綻すれば、医師の待遇もベラルーシのようになるかもしれない。また実際、介護士などは現在低賃金・重労働を強いられているのが実情である。医療従事者の疲弊は国民の健康に直結し



Figure 7 学生たちと議論

ているため、日本においても中長期的に持続可能な医療システムの構築は急務なのではないか。私はそれを考える中で、やはり重要なのは疾患を未然に予防する予防医療であり、それはリスク認知のあり方につながるものだと思っている。放射線はもちろん、生活習慣病のリスクについても今後より一層「正しく怖がっていく」ことが大切であろう。

8. 今後の改善点

ゴメリおよびベラルーシ医科大学での研修に当たり、カズロフスキー先生・ルデノーク先生の両副学長先生が研修担当となっていたが、具体的なスケジュールを事前に把握していなかったことと、急な予定変更時の連絡・調整を担当する部署の連絡先を把握していなかった。今後は事前に上記について把握しておくことが望ましいと考える。また今回偶然に基礎上級の講座として、放射線健康管理学講座に配属して質問紙を作成することができた。今後も基礎上級で放射線や公衆衛生分野の講座と連携して留学の準備を行ったほうがより良いのではないだろうか。

9. 所感

ベラルーシの隣国であるウクライナでは紛争が起きているとのことで、留学前は治安に関して心配していたが全くの杞憂だった。ベラルーシはいたって平和で、ロシアなどに比べても治安はかなり良いという。私が出会った多くのベラルーシの人々は自国を愛していると言っていたのだが、治安がよく、暮らしやすいという点はその理由の一つらしい。ベラルーシには原発事故の被害に加えて政治・経済・医療などの多くの課題があるが、それでも人々は明るく朗らかに日々の生活を営んでいる。ベラルーシで出会った多くの医師・医学生は前述した低賃金の問題を嘆いてはいたものの、それでもなお医師を志す学生は多く、医師たちも自分の仕事に誇りを持っている様子だった。ある学生は「ベラルーシの人間はソ連時代みたいなボランティアに慣れているのさ」と言っていたが、彼らの使命感・清貧に甘んじる精神は本当に尊敬すべきだと思う。私はある意味医師として理想的な姿をベラルーシで見たのかもしれない。

今回は原発事故や放射線防護、生活習慣病などの公衆衛生といった福島に通ずる分野を学ぶことが目的だったが、それらに加えて感染症病院の経験から国際保健について、医師の賃金の問題から医療経済について深く考え、学生とのコミュニケーションから英語の重要性を再確認した。この留

学は自分の視野を大きく広げるものだったと思うし、ベラルーシの諸問題を考える中で日本・福島の諸問題についても新たな発見・考察ができ、とてもよい経験になった。これからも世界という大きな視野から物事を見ていきたいと思う。

10. 謝辞

調査をするにあたって英語版の質問紙のロシア語翻訳と学生への説明と配布・回収を担当してくれた6年生のデニスをはじめ、質問を監修して頂いたカズロフスキー副学長先生、公衆衛生学教授であるシャルシャコワ先生、福島県立医大熊谷先生、通訳・調整して頂いた長崎大学の高橋純平先生には心から感謝している。加えてカズロフスキー先生は現地治安機関にこの調査を実施するための許可申請をしていただいた。また、留学の事務手続きをしてくださった災害医療総合学習センター高橋さん、ゴメリ医科大学での研修をセッティングして頂いたカズロフスキー副学長先生、ベラルーシ医科大学での研修をセッティングして頂いたルデノーク副学長先生、自分について生活・研修の手助けをしてくれた学生のデニス、ジーマをはじめ、留学においてお世話になったすべての人に感謝の言葉を述べたい。貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

⑨ よろず健康相談事業報告



平成24年5月より、福島第一原子力発電所事故による避難を余儀なくされた区域を含む市町村の方々を対象に、個別健康相談を実施しています（当センターと福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、放射線災害医療センター及び国立病院機構災害医療センターとの共同事業）※。

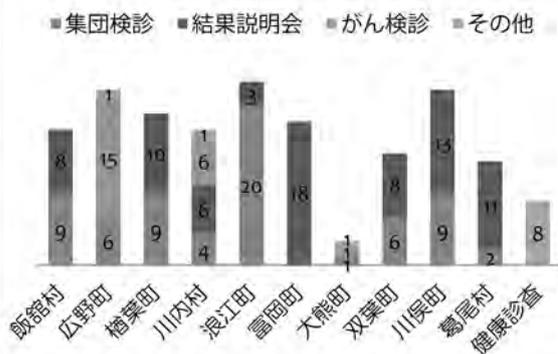
放射線健康不安が根強い福島で「よろず健康相談」を実施して4年。健康不安や避難に伴う様々な困難に直面する人々に寄り添いつつ、これまで災害医療に関わりの薄かった医療者が放射線災害の実態に触れ、福島の教訓を受け継ぐ貴重な教育の場にもなりました。相談員として全国から参加してくれた医療者・学生はのべ328名を超えています。

今年度(12月末現在)の実績は、実施回数176回、相談件数1632件となっています。

(※今年度は、飯舘村、広野町、楡葉町、川内村、浪江町、富岡町、大熊町、双葉町、川俣町、葛尾村の集団健診及び健診結果返却会等に併設して実施しました。)

実施市町村

①市町村別実施回数



避難指示区域の概念図



実施回数197回分のグラフ(12月末現在)。

※「健康診査」とは、福島県立医科大学が福島県からの委託を受けて、避難区域等の住民の方、および「基本調査」の結果、健康診査が必要と認められた方を対象に行っているものです。

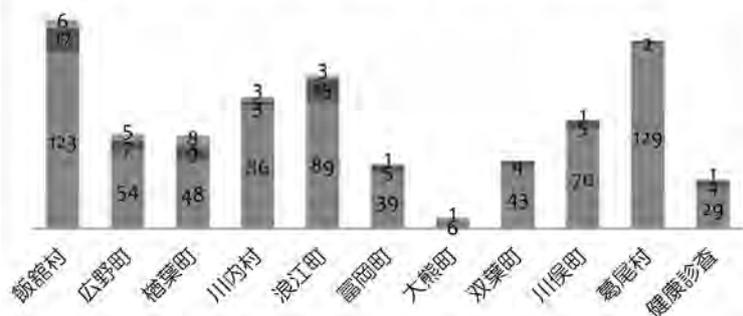
② 相談内容内訳

- 身体症状に関すること
- ことろに関すること
- 放射線に関すること



③ 市町村別相談内容内訳

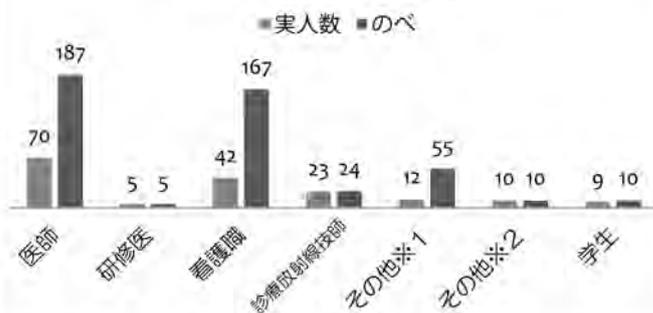
- 身体症状に関すること
- ことろに関すること
- 放射線に関すること



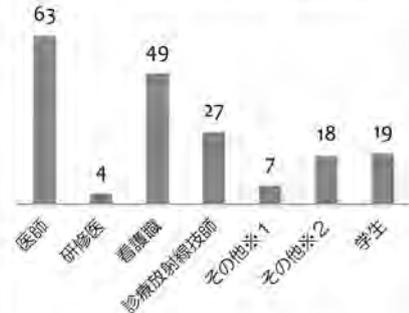
参加者

よろず健康相談事業に参加した、①職種別参加人数、②事前研修受講者数、③所属一覧は以下の通りです。

① 職種別参加人数



② 事前研修受講者数



①実人数169名、のべ人数448名の内訳

②事前研修受講総数＝187名、実施回数21回（福島災害医療セミナー、弘前出前1回）＋学生のための福島災害医療セミナー2回 ※1＝医療系職種（理学療法士、臨床心理士）、※2＝その他職種（ソーシャルワーカー、管理栄養士、救急救命士、消防士、事務職）

③ 所属一覧

■ 医療者

- 【福島県内】福島県立医科大学、原子力安全研究協会いわき事務所・福島事務所、ふくしま心のケアセンター、二本松市、星ヶ丘病院、総合南東北病院、福島県立南会津病院、会津医療センター、星総合病院、桜ヶ丘病院、福島赤十字病院、飯館村、矢吹病院、かしま病院、
- 【北海道】旭川医科大学病院【東北】弘前大学、石巻赤十字病院、仙台市立病院、国立病院機構 仙台医療センター、上十三保健所、東北大学病院
- 【関東】国立病院機構 災害医療センター、筑波大学、しおがま診療所、船橋二和病院、大森赤十字病院、茨城県立中央病院、済生会宇都宮病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜市立大学附属病院、横浜市立みなと赤十字病院、日本医科大学多摩永山病院、前橋赤十字病院、災害看護支援機構、水戸済生会病院、神奈川県看護協会、日本医科大学付属病院、東京大学医学部付属病院、日本赤十字看護大学、公益財団法人がん研究会、川崎市立川崎病院、杏林大学病院、聖マリアンナ医科大学病院
- 【中部】市立御前崎総合病院、岐阜県立多治見病院、市立敦賀病院、国立病院機構 敦賀医療センター、町立富

来病院、セントメディカル・アソシエイツ LLC、藤田保健衛生大学病院、JCHO 中京病院、新城市民病院、春日井市民病院、国立長寿医療研究センター

【関西】京都山城総合医療センター、みきやまりハビリテーション病院、京都第一赤十字病院、長浜赤十字病院

【中国】広島大学病院、広島赤十字原爆病院、鳥取大学医学部附属病院

【四国】高知県立大学

【九州・沖縄】JCHO 九州病院、長崎大学病院、鹿児島大学、鹿児島大学医学部・歯学部付属病院、社会医療法人泉和会 千代田病院、長崎労災病院、国立病院機構 九州医療センター、大分県立病院、国立病院機構 長崎医療センター、阿蘇温泉病院

■学生

【九州】長崎大学、宮崎大学

参加者の感想

学生より



よろず健康相談に参加してくださった方の感想から。震災より4年経過した福島で、実際に被災されている方々と接する機会は、貴重な経験となりました。

・私自身もそうであるように、医師や看護師等の医療関係者の一言で安心したり不安になったりするし、相談するだけでもスッキリすることもあるので、このよろず健康相談は、住民の方にとっても良いことだと思う。もっと多くの人が相談に来てもらえるように私たちも呼びかけをしたいと思います。
・実際に声をかけた住民の方が健康相談に来てくださってうれしかったです。住民の方々は様々な不安を持っておられて、放射線だけではなく、災害後の運動不足で増加している生活習慣病に対するの対策を早くすすめなければいけないと思いました。

・総合検診にあわせ、よろず相談所相談員の一人として参加した。あいにくの天気で、小雨も降り、寒い中、早い人は朝五時半から並んでいた。計170名ほどの住民が訪れ、相談件数は6名であった。私は2人お話しさせていただいたが、2人とも身体的なことに対する相談であった。しかし、1人は時折、今はもう何ともない、やはりこの時代、手に職があつて良かった、もう落ち込んでいても仕方ない、などと震災での苦労をうかがわせる発言が多かった。
・意外なことに放射線に関することに対する不安を訴えられるのではなく、高血圧や不整脈に関することに不安を持たれていました。加えて、生活に対する不安などを口にされることも少なく、前向きに今後のことを考えていらっしゃいました。福島の外でテレビを見ているだけでは知り得ないことがたくさん聞くことができました。

研修医より

学生より

・避難住民の方のストレスといっても、4年が経過した現在は必ずしも「震災に関連」したものではないことを知った。しかし健康面においては、背景に自分の家を急に離れなくてはいけなかったことにより生じたと考えられる事例があり、相談内容と震災の関連はなくても背景を考慮する必要があると分かった。
・避難町の住民の特定健診において、住民の方々の健康状態を垣間見ることができ、また実際によろず相談を受けることができたのは意義深かった。年々変化していく地域や住民の意識の推移を見ていくことの大切さを実感した。

★詳細はHP <http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/ecdm/index.html> をご覧ください。

【お問合せ先】  ecdm@fmu.ac.jp 福島県立医科大学 災害医療総合学習センター

⑩保健活動支援

福島では原発事故による放射性物質による環境汚染があることから、放射線レベルのモニタリングや食品中の放射性物質の管理などの環境安全管理に加え、個人線量計による外部被ばく線量管理やホールボディカウンタによる内部被ばく線量管理などが必要とされている。福島県をはじめとして、各市町村レベルでもそれぞれの取り組みがなされているものの、住民にはその結果および意義が適切に伝わっているとは言いがたい。よろず健康相談などの我々の取り組みなどから、観察される放射線レベルと放射線健康不安の程度が大きく乖離している場合や、放射線問題が個人の放射線健康リスク認知の差異からタブー化してしまっている場合などが多く見受けられている。そのために人々は漠然と根拠のない不安を感じつつ、そのまま不安が固定されていく傾向にある。さらに、これら健康不安に対応すべき行政保健職員も放射線やその健康影響、福島の実態について理解していない場合が多く、実施されている対応が十分な効果を上げられない状況となっている。

そのため、(1)県や県内自治体の保健師、放射線相談員等に対する情報提供・教育の機会を設け、さらに(2)住民に対する放射線健康リスクに関する効果的なコミュニケーションのあり方を模索してきた。(1)については、福島県の協力のもとで、学内の公衆衛生学講座・性差医療センターと共同で県内各地で実施している出前講座や、広野町の放射線健康相談員に対する講習会を実施した。(2)については、福島市の保健師と連携した市内各地の町内会・老人会・子育て母親教室等に出向いての放射線健康リスクに関する小規模な勉強会や、広野町の乳幼児の母親を対象としたお母さんのための相談会を継続的に実施した。これらの活動は、小規模ながら自主的な放射線リスクの理解と主体的な生活再建への機運の醸成に貢献している。

ア 出前講座

□事業概要：福島県立医科大学の公衆衛生学講座、性差医療センターと共同で、福島県・福島市を窓口として、地域保健事業に従事する保健師等を対象に出前講座を実施している。県・市を通じて、予め当方で組んだ講義テーマに対する受講希望に応じて出向く体制とした。講義と意見カードをもとにした討論から成る2部又は3部構成とし、主な講義テーマは、「原子力災害とメンタルヘルス」、「健康情報を読み解く力、伝える力：ヘルスリテラシー」、「福島における放射線リスク」、「女性のライフステージを考慮した健康支援」、「笑いを生かした健康づくり」、「循環疾患の1次から3次予防」であった。災害医療総合学習センターは、「福島における放射線リスク」では単独で講師を、「健康情報を読み解く力、伝える力：ヘルスリテラシー」では共同での講師を務め、それ以外のテーマの時にも、討論のファシリテーターを務めることで運営した。

□事業内容：行政保健師に対する研修会

□事業目的

- ① 保健師等の知識・技術の向上
- ② 保健師等同士、保健師等と医師の情報交換
- ③ 保健師等のストレス、不安軽減
- ④ 放射線関連の知識の向上と情報提供

□実施日

テーマ	日時	主催	開催場所	講師	ファシリテーター	参加者
健康情報を読み伝える力、伝える力：ヘルスリテラシー①	6月22日	県中保健福祉事務所	同左	後藤あや	後藤、伊藤、黒田、中山	26
健康情報を読み伝える力、伝える力：ヘルスリテラシー②	7月27日	県中保健福祉事務所	同左	後藤あや	後藤、安井、黒田、中山	27
妊娠期からのパパママ対象の育児支援	7月29日	福島市	福島市保健福祉センター	石井佳代子	石井、後藤、安井	36
福島における放射線リスク	9月3日	相双保健福祉事務所 いわき出張所	同左	熊谷敦史	熊谷、安井、吉田、後藤	9
①講義「ベラルーシ共和国における母子保健活動」 ②「食品管理における放射線防護と社会的側面」	9月11日	福島県	県北保健福祉事務所	※	熊谷、安井、後藤、黒田	18
健康情報を読み伝える力、伝える力：ヘルスリテラシー①	10月5日	会津保健福祉事務所	会津若松市コミュニティ施設ピカリンホール	後藤あや	後藤、熊谷、吉田	13
健康情報を読み伝える力、伝える力：ヘルスリテラシー②	11月9日	会津保健福祉事務所	同左	後藤あや	後藤、安井	12
健康情報を読み伝える力、伝える力：ヘルスリテラシー 1回シリーズ	11月26日	県中保健福祉事務所	同左	後藤あや	後藤、安井	30
循環器疾患の1次から3次予防	11月27日	会津保健福祉事務所	会津若松合同庁舎	遠藤教子	遠藤、後藤、安井	20
健康情報を読み伝える力、伝える力：ヘルスリテラシー①	1月5日	いわき市	いわき市総合保健福祉センター	後藤あや	後藤、熊谷、安井、吉田	21
健康情報を読み伝える力、伝える力：ヘルスリテラシー 1回シリーズ	1月25日	郡山市	郡山市保健所	後藤あや	後藤、熊谷、安井	20
健康情報を読み伝える力、伝える力：ヘルスリテラシー②	3月7日	いわき市	いわき市総合保健福祉センター	後藤あや	後藤、安井、吉田	10

※ ①ストリン病院 ライサ・ミシウラ、②ノルウェー放射線防護庁 アストリッド・リーランド

□実施回数：12回

□一部紹介：「福島における放射線リスクについて」

時間	形式	内容	担当
13：30～13：40	導入	オリエンテーション	吉田
13：40～15：10	講義	第一部：放射線と健康	熊谷
15：20～15：45	WS	第二部：意見交換	安井、吉田
15：50～16：25	講義	第三部：リスクコミュニケーション	熊谷
16：25～16：30	まとめ	閉会	熊谷

1. 講義



福島における放射線リスクについて、外部被ばくや内部被ばくによる健康影響や、福島県内のデータの紹介・解説を通して、住民の放射線リスクの影響について考えた。

2. 意見交換

講義後に個人の疑問をカードに書き、その内容について参加者と講師間で共有し、住民からの放射線の質問に対する対応のあり方について考えた。



イ 広野町お母さん相談会

□事業概要

町の保健担当部局と災害医療総合学習センターとの連携事業としてお母さんの放射線相談会を広野町保健センターにて実施している。対象は未就学児の母親およびその家族とし、概ね1～2か月に1回程度実施している。本事業は、母親の疑問・不安への具体的対応のみならず、町保健師への放射線状況評価の伝達・研修も兼ねており、放射線災害慢性期の地域における実効的なリスクコミュニケーションの実践であり、地域保健事業の充実に寄与する取り組みである。

今年度は、①対象者の具体的な不安に沿った内容の講話、②意見交換を念頭に置いたワークショップの二部構成で行った。講義テーマは、「放射線と健康について」、「放射線と健康について（食品）」、「WBC測定と内部被ばくについて」、「甲状腺について」であった。

□事業内容：未就学児の母親およびその家族への放射線に関する相談会

□事業目的

- ① 母親とその家族の放射線関連の知識の向上及び不安の軽減
- ② 保健師と住民の意見交換への支援
- ③ 保健師等の放射線関連の知識の向上及び情報提供

□実施日

2015年7月3日、9月10日、10月30日、12月4日、2016年2月1日

□実施回数：5回

□一部紹介：「放射線と健康について」

時間	形式	内容	担当
10：30～11：30	講話	放射線と健康について（食品）	熊谷
11：30～12：30	WS	意見交換	吉田、熊谷
12：40～13：00	話し合い	保健師との振り返り	熊谷、吉田

□相談会の様子

広野町の放射線に関するデータの紹介・解説を通して、現状の放射線リスクの影響について考えた。

また、意見交換では、お母さんの理解度や不安について確認を行った。



ウ 広野町放射線相談員養成と活動支援

内閣府等の支援により、福島県内の自治体は、住民の立場から放射線問題を考える存在として放射線相談員を設置し、リスクコミュニケーションの担い手としての活躍が期待されている。当センターは福島県内自治体の保健活動支援の一環として、広野町の放射線相談員支援を行ってきた。熊谷が同町の放射線相談員室の顧問を委嘱され、放射線相談員室開設に当たり、計5回にわたる放射線の基礎知識や広野町を取り巻く放射線問題の現状について講義を行った。その後も、より実質的で効果的なリスクコミュニケーションとなるよう、相談員による広報活動や住民相談活動に関しても支援を継続している。

エ 福島市民対象放射線講座

福島市の保健部局とも連携し、福島市内各所の町内会・老人会・乳幼児の母親学級等で放射線の基礎講座と座談会を実施した。いずれも和室で、40～60分ほどの講話を行ったのちに参加者を4～5人のグループに分け、いずれにも保健師がファシリテーターとして加わり20分ほどの話し合いを行い、その後に各グループの議論の結果や疑問を発表し、最後に参加者全員で提起された質問を考えるという形式をとった。町内会等から、繰り返しの実施や、さらに個別の課題（内部被ばくについて等）の講習をしたい等の要望があったことから、この支援活動が効果的であったことが伺える。特に、「このように分かりやすい放射線の話聞いたのは初めて」、「初めて状況がわかった」との意見も多く出され、放射線関連の情報発信を比較的積極的に行ってきた福島市でさえも、個人への情報提供がなかなか進んでいない現状が伺えた。保健師自身も放射線の質問に答えることが容易ではないことから、このような、保健師と現場に向かい直接話す機会は、今後も継続する必要があると考える。

実施年月日	実施場所	対象	講話タイトル
2015. 3. 12	清水学習センター分館	サークル悠遊	放射線と健康についての基礎講座
2015. 4. 09	清水学習センター分館	サークル悠遊	放射線と健康についての基礎講座第2回
2015. 4. 30	保健福祉センター		平成26年ガラスバッジ結果説明会
2015. 6. 13	北沢又小学校	北沢又小学校区交通安全母の会	放射線と健康
2015. 6. 27	北沢又小学校	北沢又小学校区交通安全母の会	放射線と健康について：基本のおさらい・食品・甲状腺
2015. 6. 30	山神集会所	山神町会	外部被ばくと健康影響
2015. 7. 23	山神集会所	山神町会	線量計の結果はどうでしたか？
2015. 9. 29	吉井田学習センター	吉井田地区乳幼児母親	被ばくの危険性は？甲状腺は？福島のもの食べていいの？
2015. 10. 29	信夫学習センター	信夫地区乳幼児母親	被ばくの危険性は？甲状腺は？福島のもの食べていいの？

※7月23日実施分までは、福島市事業として実施。9月29日以降は福島市と当センターの共同事業として実施。

オ 放射線環境測定・住宅内汚染状況測定（川内村）

□事業概要：2013年度末の住民相談会において、住民より家屋内の汚染検査（GM サーベイメータを用いた測定）の依頼があった。住民の希望を聞いたところ3件のお宅で測定の希望があり、川内村保健師と共同で家屋内物品の汚染検査を実施した。

□事業内容：放射線環境測定・住宅内汚染状況測定

□事業目的

- ①測定によるデータを用いた住民へのリスクコミュニケーション
- ②住民の不安軽減
- ③保健師の負担軽減

□実施日：2014年4月18日

□考察：1件目のお宅は原発から20km圏外にあるが、ホットスポットとして川内村の他の場所よりも線量が高いとのことであった。2件目、3件目のお宅は福島第1原発から16キロ前後の場所にある。3件のお宅での測定結果では、屋内にあった主な物品の測定結果ではバックグラウンド値と大差がなく、使用可能と考えられる。また、それぞれのお宅において、屋外の空間線量率は1.0-2.0 μ Sv/h、屋内では1.0 μ Sv/h未滿との実測値であった。それぞれのお宅では、測定後に説明を行い、家主の方も安心したとのことである。しかし、今後も帰還を目指す自治体にとっては同様の不安を抱える住民が多いと考えられる。今後住民のニーズに沿った支援が行えるように準備していく必要がある。

□測定・説明の様子



⑪ベラルーシ共和国及びウクライナとの原発事故後協力委員会

外務省の要請により、チェルノブイリ事故後の対応を行ってきたベラルーシ共和国・ウクライナ両国の担当部局と日本の担当者との連絡調整のための委員会に参加した。今回は3回目の実施であり、日本からは主管する外務省、原子力規制庁、文部科学省（JAEA）、農林水産省、環境省および当センターの熊谷、東京大学（ウクライナのみ）が参加した。

ベラルーシ共和国・ウクライナともに福島と同じく原発事故を経験した土地であり、経験を相互に共有することが重要であることは認識されている。しかしながら、参加者が幅広く、課題が分散していることから、この委員会のみでは具体的・効果的な協力実現とは必ずしもいかないが、同じ分野の担当者同士が接触できる機会であり、当センターとしてもベラルーシではゴメリの放射線医学研究部門の担当者、および非常事態省の担当者に研究分野の協議、ウクライナでは旧知の放射線医学研究部門の担当者らと今後のリスクコミュニケーション教育の重要性について確認する機会があったこと、さらに各界に福島県立医科大学・長崎大学との共同大学院募集について周知することができたことも挙げられる。

⑫国際原子力機関（IAEA）との連携

2012年度から、福島県、福島県立医科大学、およびIAEAとの協定に基づいて、医学教育における放射線医学教育の再構築に関する協力を継続しているもの、および2013年度から開始された医学物理士を対象とする放射線災害医療教育のあり方に関する国際基準を策定する取組みを推進している。

【協定に基づくプロジェクト】

- ・ NA 9/16 : Enhancing radiation medicine education by building capacity of health professionals and medical students
- ・ NA 9/17 : Strengthening research cooperation in radiation disaster medicine including post-traumatic stress disorders
- ・ NA22 : Science and technology society (STS) Perspectives on Nuclear Science Radiation and Human Health : The View from Asia
- ・ NA21 : The development of a specific training package for medical radiation physicists (MP) in support to nuclear or radiological emergency situations

2012年度から、Science, Technology and Society (STS) と称される、社会の中の科学技術のあり方、考え方を中心に、社会科学的視点から、福島における放射線災害医療の経験に基づき放射線医学教育を見直す取組を行ってきた (NA 9/16、NA 9/17、NA22)。IAEA との2012年からの議論の結果、世界の専門家とともにハンドブックが作成され、それをもとに福島県立医科大学で実践的ワークショップも実施した。

2013年度からは、医学物理士にも放射線災害時の重要な役割を担ってもらうべく放射線災害医療に関する教育基準を策定することとなり、福島県立医科大学からは放射線災害医療教育の中心を担っている当センターが参画してきた (NA21)。教育すべき項目、内容を策定し、それに沿った実践的ワークショップを2015年6月に実施した。この成功から、2016年度にはアメリカ合衆国にて継続実施する方向となっている。

福島県立医科大学で原発事故後に開始した放射線災害医療教育は世界をリードしており、その成果が世界の放射線医学教育のスタンダードとなろうとしている。福島から世界に発信していくクオリティを保つことは、つまり福島で世界一のクオリティの放射線医学教育を実践することである。福島は、その自らの立場と役割そして責任を見失ってはならず、ますます世界と連携した取り組みが求められる。

研究業績

論 文

[欧文]

Ohtsuru A, Tanigawa K, Kumagai A, Niwa O, Takamura N, Midorikawa S, Nollet K, Yamashita S, Ohto H, Chhem RK, Clarke M. Nuclear disasters and health: lessons learned, challenges, and proposals. *Lancet*. 2015 ; 386 (9992) : 489-97

Yoshida K, Hayashida N, Fukushima Y, Ohtsuru A, Ohba T, Hasegawa A, Sato H, Shishido F, Yasui K, Kumagai A, Yusa T, Kudo T, Yamashita S, Takamura N. Changes in radiological imaging frequencies in children before and after the accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant in Fukushima Prefecture, Japan. *Jap J Radiol*. 2015 ; 33 (10) : 619-26.

Morita N, Miura M, Yoshida M, Kumagai A, Ohtsuru A, Usa T, Kudo T, Takamura N, Yamashita S, Matsuda N. Spatiotemporal characteristics of internal radiation exposure in evacuees and first responders after the radiological accident in Fukushima. *Radiat Res*. 2013 Sep ; 180 (3) : 299-306.

[和文]

- 吉田浩二, 中島香菜美, 宮谷理恵, 高橋洋子, 吉田るみ, 山本尚幸. 緊急被ばく医療実習における看護師チェックリストの有効性の検討. *日本放射線看護学会誌*. 2015 ; 3 (1) : 1-6.
- 大津留晶, 熊谷敦史, 宮崎真, 緑川早苗, 坂井晃, 長谷川有史. 原子力災害から学ぶ新たな医療放射線防護 福島における医師・医学生への放射線災害医療教育の試み. *医療放射線防護 Newsletter*. 2015 ; 72 : 36-42.
- 大津留晶, 宮崎真, 熊谷敦史, 佐藤久志, 緑川早苗, 長谷川有史. 放射線災害と向き合っ 原発事故後の現況と医療における課題. *東北矯正歯科学会雑誌*. 2014 ; 22 (1) : 27-29.
- 熊谷敦史. 福島で納得して生活できるために-健康の視点から (Living Safety and Soundly in Fukushima- A Human Health Perspective). *都市計画 (日本都市計画学会誌)* 2014 ; 63 (5) : 22-23.
- 吉田浩二, 宮地麻美, 鍛冶朋子, 朝長さつき, 伊藤陽子, 川久保真弓, 中島香菜美, 佐藤良信. 放射線治療を受けた咽頭がん患者の有害事象評価 放射線性皮膚炎を中心に. *日本放射線看護学会誌*. 2014 ; 2 (1) : 12-18.
- 前川和彦, 浅利靖, 富永隆子, 宮後法博, 森村尚登, 熊谷敦史, 北宮千秋, 明石真言. 緊急被ばく医療の原点へ帰る 次世代へのメッセージ 東電福島第一原発事故の現場対応と課題. *MOOK 医療科学*. 2013 ; (6) : 139-142.
- 熊谷敦史. 緊急被ばく医療の原点へ帰る 次世代へのメッセージ 東電福島第一原発事故の現場対応と課題 福島原発事故への緊急被ばく医療支援について. *MOOK 医療科学*. 2013 ; (6) : 109-116.

- 熊谷敦史, 山下俊一. 原子力災害による甲状腺発がんリスクと対策. 日本臨床. 2012;70 (11) : 1988-1994.

研究発表等

[研究発表]

- 長谷川有史, 田勢長一郎, 佐藤久志, 宍戸文男, 熊谷敦史, 宮崎真, 大津留晶. 緊急被ばく医療「救命処置」から「根本治療」へ 東日本大震災からみた被ばく医療の現状と展望. 日本放射線影響学会大会講演要旨集 (1347-8680) 55回 Page59 (2012.09)
- 森田直子, 三浦美和, 熊谷敦史, 大津留晶, 宇佐俊郎, 工藤崇, 高村昇, 山下俊一, 松田尚樹. 福島原発事故後の避難者及び初期対応者における体内放射能の時間空間的特徴. 日本放射線影響学会大会講演要旨集 (1347-8680) 56回 Page128 (2013.10)
- 長井一浩, 原田浩, 熊谷敦史, 宇佐俊郎, 高槻光寿, 江口晋, 大津留晶, 山下俊一, 宮崎泰司. 自家樹状細胞免疫療法によって細胆管癌を制御し得たHIVキャリアの1症例. 日本輸血細胞治療学会誌 (1881-3011) 60巻1号 Page94 (2014.02)
- 工藤崇, 上谷雅孝, 土田龍郎, 木村浩彦, 高村昇, 吉田浩二, Lucian Krille, Steffen Mueller. 小児CT検査目的と頻度の日独国際・国内比較. 第73回日本医学放射線学会総会; 2014.04.13; 神奈川. 日本医学放射線学会総会抄録集. S351.
- 熊谷敦史, 安井清孝, 吉田浩二, 長谷川有史, 大津留晶, 福島哲仁. 福島県立医科大学における被ばく医療教育の取り組み; 原発事故後3年の災害医療総合学習センターの活動. 第46回日本医学教育学会; 2014.07.19; 和歌山. 医学教育 45 (suppl). 149.
- 安井清孝, 長谷川有史, 牧野恵子, 吉田浩二, 熊谷敦史, 大津留晶, 福島哲仁. シミュレーション演習を通じて放射線災害医療センターの診療レイアウトを改善した事例. 第46回日本医学教育学会; 2014.07.19; 和歌山. 医学教育 45 (suppl). 132.
- 吉田浩二, 熊谷敦史, 安井清孝, 本谷亮, 宮崎真, 長谷川有史, 佐藤久志, 緑川早苗, 大津留晶, 福島哲仁. 医学生に対する放射線災害医療教育の評価-理解度確認テストの分析-. 第46回日本医学教育学会; 2014.07.19; 和歌山. 医学教育 45 (suppl). 163.
- 照井稔宏, 小澤尚弥, 関根虎之介, 熊谷敦史, 安井清孝, 大谷晃司. 医学部生・看護学部生のための福島災害医療セミナー開催の経験: 第2報. 第46回日本医学教育学会; 2014.07.19; 和歌山. 医学教育 45 (suppl). 209.
- 吉田浩二, 中島香菜美, 宮谷理恵, 高橋洋子, 吉田るみ, 新川哲子, 浦田秀子, 山本尚幸, 林田直美, 高村昇. 看護師が実施した被ばく医療実習検証からみえたもの. 第3回日本放射線看護学会学術集会; 2014.09.05; 大阪. 日本放射線看護学会学術集会抄録集. 56.
- 浦田秀子, 新川哲子, 吉田浩二, 中島香菜美, 折田真紀子, 佐藤良信, 中島由美子, 林田直美, 高村昇. 放射線看護専門看護師コースの原発被災地における実習の取り組み. 第3回日本放射線看護

- 学会学術集会；2014. 09. 05；大阪. 日本放射線看護学会学術集会抄録集. 58.
- 松川京子, 中馬育子, 土橋由美子, 吉田浩二, 松成裕子. 当施設における粒子線治療看護研修開催への取り組み. 第3回日本放射線看護学会学術集会；2014. 09. 05；大阪. 日本放射線看護学会学術集会抄録集. 97.
- 吉田浩二, 安井清孝, 佐藤良信, 牧野恵子, 大葉隆, 長谷川有史, 佐藤久志, 熊谷敦史, 大津留晶. 緊急被ばく医療教育-福島県立医科大学附属病院の取り組み-. 第20回日本集団災害医学会総会・学術集会；2015. 02. 27；東京.
- 吉田浩二, 安井清孝, 熊谷敦史, 大津留晶. KJ法を用いたプロブレムマッピングの放射線災害医療教育への導入. 第47回日本医学教育学会大会；2015. 07. 25；新潟. 第47回日本医学教育学会大会予稿集. 154.
- 安井清孝, 吉田浩二, 熊谷敦史, 大津留晶. 模擬患者演習の震災後健康相談教育への応用. 第47回日本医学教育学会大会；2015. 07. 25；新潟. 第47回日本医学教育学会大会予稿集. 108.
- 四宮翼, 関根萌, 永井拓, 熊谷敦史, 安井清孝, 河嶋讓, 小早川義貴, 小塚浩, 大谷晃司. 医学部生・看護学部生のための福島災害医療セミナー開催の経験. 第3報：医学生が関心を持つ項目は何か？. 第47回日本医学教育学会大会；2015. 07. 25；新潟.
- 吉田浩二, 福島芳子, 小西恵美子. 東日本大震災時の対応と復興のための日本放射線看護学会の活動-第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラムでの発表報告-. 第4回放射線看護学会学術集会；2015. 09. 12；鹿児島. 第4回日本放射線看護学会学術集会プログラム・抄録集. 66.
- 吉田浩二. 福島県内保健師を対象とした放射線教育研修から放射線教育への提言. 第4回放射線看護学会学術集会；2015. 09. 12；鹿児島. 第4回日本放射線看護学会学術集会プログラム・抄録集. 106.
- 安井清孝, 吉田浩二, 熊谷敦史. 災害医療研修における震災の新聞記事スライドショーを活用したモチベーション向上の試み. 第21回日本集団災害医学会総会・学術集会；2016. 02. 28；山形. 第21回日本集団災害医学会総会・学術集会プログラム・抄録集. 529.
- 吉田浩二, 安井清孝, 熊谷敦史, 大津留晶. 福島県内保健師の放射線に関連した不安や認識調査. 第21回日本集団災害医学会総会・学術集会；2016. 02. 29；山形. 第21回日本集団災害医学会総会・学術集会プログラム・抄録集. 588.
- 安井清孝, 吉田浩二, 熊谷敦史. 常総市鬼怒川氾濫の避難所ボランティア活動報告. 第21回日本集団災害医学会総会・学術集会；2016. 02. 29；山形. 第21回日本集団災害医学会総会・学術集会プログラム・抄録集. 540.

[国内シンポジウム]

- 熊谷敦史. 「緊急被ばく医療を住民・行政・警察・消防へどう教えるか；福島県における取り組み」；第2回日本放射線事故・災害医学会；2014. 08. 30；福井.
- 吉田浩二. 「原発事故後の被ばく者支援活動と被災地住民への健康相談からの提言」. 第16回青森継続看護研究会；2014. 09. 14；青森.

- 吉田浩二. 「東日本大震災を支援して～看護師から診療放射線技師に期待すること～」. 第30回日本診療放射線技師学術大会/第21回東アジア学術交流大会；2014. 09. 19；大分.
- 吉田浩二. 「環境省受託研究報告会」. 放射線の健康影響に係る調査事業研究プロジェクト；2014. 11. 22；長崎.
- 熊谷敦史. 「福島第一原子力発電所事故に対する福島県立医科大学の取り組み」. 第27回日本リスク研究会年次大会；2014. 11. 29；京都.
- 熊谷敦史. 「原発事故後のリスクコミュニケーション；納得して生活できるために」. 第20回日本集団災害医学会；2015. 02. 28；東京.
- 熊谷敦史. 「原発事故後のリスクコミュニケーション；納得して生活できるために」. 第20回日本集団災害医学会ワークショップ9「被災者生活支援」；2015. 02. 28；東京.
- 吉田浩二. 「放射線看護専門看護師コース修了生の活動」. 一般社団法人日本看護研究学会第41回学術集会；2015. 08. 23；広島.
- 吉田浩二. 「長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻『放射線看護専門看護師養成コース』修了生の活動の紹介」. 第4回日本放射線看護学会学術集会；2015. 09. 12；鹿児島.
- 熊谷敦史. 「住民の不安に対する大学の取り組みについて」. ワークショップ「リスクコミュニケーションの効果の評価方法の構築」；2015. 11. 14；福島.

国際学会、国際会議、国際セミナー

【国際シンポジウム】

- Atsushi Kumagai, Michio Murakami. Health risks and anxieties due to radionuclides after the Fukushima accident. Medical Preparedness and Response to Radiation Emergencies ; The International KIRAMS-REMPAN Workshop co-sponsored by WHO, Seoul, Korea, 2015. 03. 10
- Atsushi Kumagai. Risk Communication after the Radiation Disaster ; Living Safely and Soundly in Fukushima. 第3回国連防災会議パブリック・フォーラム：福島県医大の原発事故への対応と事故後の福島県民の健康, 仙台. 2015. 03. 16.
- Koji Yoshida. Contributions of nurses after the nuclear accident and proposal for education in radiation nursing. Satellite Meeting of ICRR2015 in Hirosaki University, Aomori, Japan. 2015. 05. 23.
- Atsushi Kumagai. A Role for Medical Professionals during a Radiation Disaster : Effective Risk Communication. Second Asian Workshop on the Ethical Dimensions of the System of Radiological Protection, A focus on Nuclear Emergencies and Post-Accident Situations (ICRP), Fukushima, Japan. 2015. 06. 02
- Atsushi Kumagai. Module14 : Effective Risk Communication including video and role playing. Workshop for medical physicists in support of NRE, E2-CS-48887 (IAEA-Workshop).

Fukushima, Japan. 2015. 06. 26

- 熊谷敦史. 第一部広野町の放射線の状況について, (1) 広野町除染等に関する検証委員会の検討結果について, (セッション No. 13) 広野町民のこれからの健康について～震災後の広野でより良く生きるために、何が出来るか～, 国際フォーラム『被災地・広野町から考える』～“幸せな帰町・復興”に向けて～, Hirono, Fukushima, Japan. 2015. 09. 18
- Atsushi Kumagai. Communicating Radiation to Fukushima Residents : Who We Should Support Next?. Technical Meeting “Science, Technology and Society Perspectives on Nuclear Science, Radiation and Human Health: The View from Asia”, Nagasaki, Japan. 2015. 11. 11
- Koji Yoshida. Changes in radiological imaging frequencies in children before and after the accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant in Fukushima Prefecture, Japan. 2nd Technical Meeting : “Science, Technology and Society (STS) Perspectives on Nuclear Science, Radiation and Human Health: The View from Asia” Nagasaki, Japan. 2015. 11. 11.
- Atsushi Kumagai. Dialogue with Evacuees : Yorozu (anything) Health Consultation Project. A2.3 Review of current activities carried out after the Fukushima accident in Japan. SHAMISEN Workshop in Fukushima, Fukushima, Japan. 2016. 03. 05

【国際学会一般発表】

- Koji Yoshida, Naomi Hayashida, Takashi Kudo, Noboru Takamura. Changes of the Frequencies of Radiological Imaging before and after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident in Fukushima Prefecture. 15th International Congress of Radiation Research. Kyoto, Japan. 2015. 05. 27

【国際会議】

- Atsushi Kumagai. Living safely and soundly in Fukushima; Risk communication after the radiation disaster. Lecture on Radiation Disaster Preparedness. National Institute of Public Health, Phnom Penh, Cambodia. 2015. 02. 12
- Atsushi Kumagai. Specific training package ongoing FMU bedside learning. Training Meeting on Radiation, Health, and Society : Radiation leading Education Change after Fukushima. 51787. (IAEA), Fukushima, Japan. 2015. 06. 30
- Atsushi Kumagai. Late Effects among Hiroshima & Nagasaki A-bomb Survivors 히로시마 나가사키 원폭피폭자의 만성기의 건강영향. NIRS-KIRAMS Training Program on Radiation Emergency Medicine for Korean Medical Professionals, Chiba, Japan. 2015. 07. 29
- Atsushi Kumagai. FMU Education Program on Radiation Disaster. The Third Evidence-based Medicine-Training of Trainers, Fukushima, Japan. 2015. 11. 17
- Atsushi Kumagai. FMU Education Program on Radiation Emergency. 14th Coordination and Planning Meeting of the WHO/REMPAN Collaborating Center and Liaison Institutions. Wur-

zburg, Germany. 2014. 05. 07-09.

- Atsushi Kumagai. Radiation Emergency Medicine Training/Education. The Conference of Emergency Radiation Medicine & Composite Disasters Management between Fukushima Medical University and VGH-Taipei, Fukushima, Japan. 2014. 05. 27
- Koji Yoshida. Nursing care during and after the disaster. The Conference of Emergency Radiation Medicine & Composite Disasters Management between Fukushima Medical University and VGH-Taipei, Fukushima, Japan. 2014. 05. 27
- Koji Yoshida. Technical Meeting on Enhancing Radiation Medicine Education. International Atomic Energy Agency (IAEA), Fukushima, Japan. 2014. 07. 25-27
- Atsushi Kumagai. Risk Communication with Fukushima Residents. The 2014 International Seminar on Radiation Risk Communication. Taipei (National Taiwan University Hospital), Taiwan. 2014. 10. 07
- Atsushi Kumagai. FMU Education Program on Radiation Emergency. KIRAMS & FMU Joint Workshop, Fukushima, Japan. 2014. 10. 27
- Atsushi Kumagai. Risk Communication with Fukushima Residents. KIRAMS International Meeting, Seoul, Korea. 2014. 11. 11
- Atsushi Kumagai. Consultants' meeting on the development of a specific training package for medical radiation physicists in support to nuclear or radiological emergency situations, E2-CS-48887, Vienna, Austria. 2014. 05. 19-23
- Atsushi Kumagai. Consultants' meeting on the development of a specific training package for medical radiation physicists in support to nuclear or radiological emergency situations, E2-CS-49807, Vienna, Austria. 2014. 10. 15-17

研修会・講演会等

講師	テーマ・内容等	開催日	開催場所（派遣先）
熊谷 敦史	○第2回「放射線の影響とクライシスコミュニケーション」に関する先導的研究開発委員会、講演「事故直後の活動から災害医療総合学習センターのよろず相談までの活動」2014.02.24、福島県立医科大学（日本学術振興会）		
吉田 浩二	○第1回石川県被ばく医療研修、実習「被ばく医療実習」2014.03.01、公立穴水総合病院（公益財団法人原子力安全研究協会）		
吉田 浩二	○青森県「原子力災害医療対応／専門研修（救護所設置・運営）」、講義「救護所の設置・運営」、2014.03.09、青森県労働福祉会館（原子力規制庁委託、原子力安全研究協会）		
吉田 浩二	○鳥根県「原子力災害医療対応／専門研修（救護所設置・運営）」、講義「救護所の設置・運営」、机上演習「救護所の運営」、2014.03.17、鳥根県原子力防災センター（原子力規制庁委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○「食品中の放射性物質」に係るリスクコミュニケーション、基調講演「放射線の健康影響～食品の安全性について考える～」2014.03.18、星陵会館、東京（消費者庁消費者安全課）		
熊谷 敦史	○県民講習会、講演「福島の現状；生活における放射線リスク」2014.03.26、ホテルハマツ、郡山（公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会）		
熊谷 敦史	○第4回放射線と健康に関する講演会、講演「広野の状況；内部被ばくを中心に」2014.03.29、広野町保健センター（広野町町民保健グループ）		
熊谷 敦史	○平成26年度臨床研修医オリエンテーション、講演「放射線の基礎知識：福島の震災と放射線リスク」2014.04.01、福島県立医科大学		
熊谷 敦史	○平成26年度放射線と市民の健康講座、講話「外部被ばくと空間線量率」2014.06.13、山神町会集会所（福島市健康福祉部・放射線健康管理室）		
熊谷 敦史	○森林づくり県民講習会、講演「福島での生活における放射線リスク」2014.07.03、杉妻会館（公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会）		
熊谷 敦史	○食と放射能に関する説明会、講演「福島の震災；生活における放射線リスク」2014.07.04、須賀川市立西袋第二小学校（消費者庁、福島県、特定非営利活動法人超学際的研究機構）		
安井 清孝	○ファシリテーション研修、2014.07.11～12、徳島大学病院（徳島大学病院キャリア形成支援センター）		
熊谷 敦史	○県外視察研修会、講義「福島の震災；住民の放射線リスクと心身の健康課題」2014.07.23、公益財団法人原子力安全研究協会（埼玉県南部高等学校等保健会）		
熊谷 敦史	○平成26年度震災からの復興再生セミナー、講演「放射線におけるリスクコミュニケーション」2014.07.25、ビッグパレットふくしま（公立学校共済組合福島支部）		
熊谷 敦史	○第60回鳥取県東部医師会医学セミナー、講演「内部被ばくを中心とした慢性期の被ばく医療の問題」2014.08.02、鳥取県東部医師会館（一般社団法人鳥取県東部医師会）		
熊谷 敦史	○平成26年度震災からの復興再生セミナー、講演「放射線におけるリスクコミュニケーション」2014.08.06、会津アピオスペース（公立学校共済組合福島支部）		
熊谷 敦史	○平成26年度食の安心・安全フォーラム、講演「放射線の健康影響～食品の安全性について考える～」2014.08.25、ウイングス京都（一般財団法人日本原子力文化財団）		
熊谷 敦史	○平成26年度緊急被ばく医療人材育成プロジェクト現職者研修、講義「福島の現状」2014.08.31、弘前大学大学院保健学研究科（弘前大学大学院保健学研究科）		
熊谷 敦史	○放射線と健康等に関する講演会及び相談会、講演「放射線と健康」2014.09.07、角田市総合保健福祉センター、宮城県（角田市放射線対策室・健康推進課）		
吉田 浩二	○講義「福島第一原子力発電所事故とその対応（緊急被ばく時の対応1）・（緊急被ばく時の対応2）」2014.10.09、長崎大学医学部（長崎大学医学部保健学科）		
吉田 浩二	○特別講義「放射線診断看護学」・「放射線国際災害看護学」2014.10.11～12、鹿児島大学医学部保健学科（鹿児島大学大学院保健学研究科）		
熊谷 敦史	○信夫地区親と子のおしゃべり広場、講演「私たちの放射線リスク」2014.10.22、福島市役所信夫支所（福島市健康福祉部・放射線健康管理室、福島県「放射線と健康」アドバイザーグループ）		
熊谷 敦史 (吉田 浩二)	○内部被ばくを防ぐための健康座談会、講話「内部被ばくを防ぐための健康座談会」2014.10.24、大波地区上染屋中組町町会集会所、福島市（福島市健康福祉部・放射線健康管理室）		

講師	テーマ・内容等	開催日	開催場所（派遣先）
熊谷 敦史	○食と放射能に関する説明会、講演「福島の震災；生活における放射線リスク」2014.10.28、いわき市消費生活センター（消費者庁、福島県、特定非営利活動法人超学際的研究機構）		
安井 清孝	○ファシリテーション研修、2014.11.01、徳島県立中央病院（徳島県立中央病院）		
熊谷 敦史	○平成26年度第43回女性大学講座（第2回）、講義「生活における放射線健康リスク」2014.11.04、アクティブシニアセンター・アオウゼ、福島市（福島市教育委員会）		
安井 清孝	○シミュレータ実演指導、2014.11.14、国際医療福祉大学大学院東京青山キャンパス（国際医療福祉大学）		
熊谷 敦史	○特別講義「放射線診断看護学・放射線国際災害（福島の震災、福島における放射線リスク、被ばく・汚染傷病者医療対応、リスクコミュニケーション）看護学」2014.11.15～16、鹿児島大学医学部保健学科（鹿児島大学大学院保健学研究科）		
安井 清孝	○平成26年度福島県NBC研修、実習「環境放射線測定」、机上演習「被ばく・汚染事故対応を考える」2014.11.17、福島県立医科大学（福島県保健福祉部）		
熊谷 敦史	○平成26年度福島県NBC研修、講義「チェルノブイリと福島の現状」2014.11.19、福島県立医科大学（福島県保健福祉部）		
吉田 浩二	○川内村の復興支援に寄り添える高度医療人の育成プログラム、講演「災害時における医療者の役割―被災者のメンタルヘルス―」2014.11.29、長崎大学医学部（長崎大学医学部保健学科）		
熊谷 敦史	○放射線と健康についての基礎講座、講話「放射線と健康についての基礎講座」2014.11.30、福島市北沢又区民会館（福島市健康福祉部・放射線健康管理室）		
吉田 浩二	○岐阜県「原子力災害医療対応／専門研修（スクリーニング・除染）」、講義「被検者への対応」2014.12.03、ソフトピアジャパンセンター（岐阜県委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○食と放射能に関する説明会、講演「放射線と健康について」2014.12.11、会津美里町立新鶴中学校（消費者庁、福島県、特定非営利活動法人超学際的研究機構）		
熊谷 敦史	○広野町放射線相談員研修会、講義「福島震災」、「福島における放射線リスク①」2014.12.22、広野町役場（福島県広野町）		
熊谷 敦史	○広野町放射線相談員研修会、講義「福島における放射線リスク②」2015.01.08、広野町役場（福島県広野町）		
熊谷 敦史	○平成26年度「立地地域原子力教育セミナー」、講義「放射線の健康への影響」2015.01.16、宮城教育大学（一般財団法人日本原子力文化財団）		
熊谷 敦史	○環境省主催放射線の健康影響等に関する住民セミナー（茨城県）、講演「福島第一原発事故後の健康リスクを考える」2015.01.17、グリーンパレスふじしろ（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○平成26年度長崎県原子力防災訓練、緊急被ばく医療講話「原発事故にそなえて」2015.01.24、勝本町ふれあいセンターかざはや、長崎県壱岐市（長崎県福祉保健部医療政策課）		
吉田 浩二	○岐阜県「原子力災害医療対応／専門研修（スクリーニング・除染）」、講義「被検者への対応」2015.01.25 ソフトピアジャパンセンター（岐阜県委託、原子力安全研究協会）		
安井 清孝	○疾病管理学演習、2015.01.29、慶応義塾大学医学部クリニカル・シミュレーションラボ（国際医療福祉大学）		
熊谷 敦史	○「放射線と健康」講演会、講演「放射線と健康について」2015.02.03、鏡石町図書館（福島県「放射線と健康」アドバイザーグループ）		
熊谷 敦史	○第2回放射線と健康についての基礎講座、講演「放射線と健康についての基礎講座」2015.02.04、福島市北沢又区民会館（福島市健康福祉部・放射線健康管理室、福島県「放射線と健康」アドバイザーグループ）		
吉田 浩二	○福井大学災害専門看護師実習、講義「放射線災害看護」2015.02.06、福島県立医科大学（国立病院機構災害医療センター福島復興支援室）		
熊谷 敦史	○第5回放射線と健康に関する講演会、講演「放射線と健康について；広野町における健康リスク」2015.02.07、広野町保健センター（広野町）		
熊谷 敦史	○習志野市消費生活講座「食と放射能の関係やからだへの影響を考えてみましょう！～子どもたちの未来を安心なものにするために～」、講演「食と放射線の関係やからだへの影響を考えてみましょう！」2015.02.09、習志野市庁舎分室サンロード津田沼、千葉県（習志野市消費生活研究会・消費者庁・習志野市）		

講師	テーマ・内容等	開催日	開催場所（派遣先）
吉田 浩二	○福井大学災害専門看護師実習、講義「放射線災害看護」2015.02.13、福島県立医科大学（国立病院機構災害医療センター福島復興支援室）		
吉田 浩二	○平成26年度「原子力災害医療対応講師養成講座」、演習「被検者への対応」2015.02.14、公益財団法人原子力安全研究協会（原子力規制庁委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史 (安井 清孝) (吉田 浩二)	○平成26年ガラスバッジ結果説明会、講演「放射線と健康についての基礎講座；外部被ばく検査と福島の現状」2015.02.24、福島市保健福祉センター（福島市健康福祉部・放射線健康管理室）		
熊谷 敦史	○広野町放射線相談員研修会、講義「福島におけるリスクコミュニケーション」2015.02.26、広野町役場（福島県広野町）		
熊谷 敦史	○環境省主催放射線の健康影響等に関する住民セミナー茨城県、講演「福島第一原発事故後の健康リスクを考える」2015.02.27、ひたちなかテクノセンター（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○環境省主催放射線の健康影響等に関する住民セミナー（千葉県）、講演「福島第一原発事故後の健康リスクを考える」2015.03.01、我孫子南近隣センター（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史 (安井 清孝)	○平成26年ガラスバッジ結果説明会、講演「放射線と健康についての基礎講座；外部被ばく検査と福島の現状」2015.03.03、福島市保健福祉センター（福島市健康福祉部・放射線健康管理室）		
熊谷 敦史 (吉田浩二)	○平成26年ガラスバッジ結果説明会、講演「放射線と健康についての基礎講座；外部被ばく検査と福島の現状」2015.03.08、福島市保健福祉センター（福島市健康福祉部・放射線健康管理室）		
熊谷 敦史	○「放射線と健康」講演会①、講演「放射線と健康についての基礎講座」2015.03.12、福島市清水学習センター分館（福島県「放射線と健康」アドバイザリーグループ）		
熊谷 敦史	○鹿児島大学病院講演会、講演「原発立地県の医療の備え」2015.03.17、鹿児島大学大学院保健学研究科、（鹿児島大学医学部保健学科）		
吉田 浩二	○鹿児島大学病院講演会、講演「原発事故後の看護師の関わりと今後の課題」2015.03.17、鹿児島大学大学院保健学研究科、（鹿児島大学医学部保健学科）		
熊谷 敦史	○平成27年度臨床研修医オリエンテーション、講義「放射線の健康への影響」2015.04.01、福島県立医科大学		
熊谷 敦史	○「放射線と健康」講演会②、講演「放射線と健康についての基礎講座第2回」2015.04.09、福島市清水学習センター分館（福島県「放射線と健康」アドバイザリーグループ）		
熊谷 敦史 (安井 清孝)	○平成26年ガラスバッジ結果説明会、講演「放射線と健康～ガラスバッジ測定結果をふまえて～」2015.04.30、福島市保健福祉センター（福島市健康福祉部・放射線健康管理室）		
安井 清孝	○平成27年度「災害支援ナーススキルアップ研修」2015.05.29、神奈川県ナースセンター研修室（公益社団法人神奈川県看護協会）		
安井 清孝	○ファシリテーション ステップアップ研修、2015.06.06、徳島県立中央病院（徳島県立中央病院）		
熊谷 敦史	○食と放射能に関する説明会、講演「放射線と健康について」2015.06.11、福島県立川俣高等学校（消費者庁、福島県、特定非営利活動法人超学際的研究機構）		
熊谷 敦史	○「放射線と健康」講演会、講演「放射線と健康について：基本のおさらい・食品・甲状腺」2015.06.13、福島市立北沢又小学校（福島県「放射線と健康」アドバイザリーグループ）		
熊谷 敦史	○「放射線と健康」講演会、講演「外部被ばく測定をしてみよう」2015.06.27、福島市立北沢又小学校（福島県「放射線と健康」アドバイザリーグループ）		
熊谷 敦史	○食と放射能に関する説明会、講演「放射線と健康について：内部被ばく等の人体影響と食品中の放射性物質」2015.06.29、郡山市立高瀬中学校（消費者庁、福島県、特定非営利活動法人超学際的研究機構）		
熊谷 敦史	○「放射線と健康」講演会、講演「外部被ばくと健康影響」2015.06.30、山神集会所（福島県「放射線と健康」アドバイザリーグループ）		

講師	テーマ・内容等	開催日	開催場所（派遣先）
吉田 浩二	○平成27年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士前期課程）放射線看護高度看護実践コース 放射線看護学実習Ⅰ、2015. 07. 03、福島県立医科大学（弘前大学大学院保健学研究科）		
吉田 浩二	○放射線の健康影響等に関するセミナー、講演「被ばく線量から健康影響を考える」2015. 07. 21、ポラリス保健看護学院（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○「放射線と健康」講演会、講演「線量計の結果はどうでしたか？」2015. 07. 23、山神集会所（福島県「放射線と健康」アドバイザーグループ）		
熊谷 敦史	○「放射線と健康」講演会、2015. 08. 28、福島テルサ（福島県「放射線と健康」アドバイザーグループ）		
熊谷 敦史	○平成27年度緊急被ばく医療人材育成プロジェクト現職者研修、講義「福島の現状」2015. 08. 30、弘前大学大学院保健学研究科（弘前大学大学院保健学研究科）		
吉田 浩二	○「楢葉町生活支援相談員等に対する研修会」及び「楢葉町保健師に対する研修会」2015. 08. 31、楢葉町役場いわき出張所（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○食と放射能に関する説明会、講演「放射線と健康について」2015. 09. 17、西郷村立西郷第一中学校（消費者庁、福島県、特定非営利活動法人超学際的研究機構）		
安井 清孝	○平成27年度日本赤十字第1ブロック支部合同災害救護訓練、2015. 09. 29、ビッグパレットふくしま（日本赤十字社福島県支部）		
熊谷 敦史	○福島市吉井田地区放射線と子どもの健康講座、講話「被ばくの危険性は？甲状腺は？福島のもの食べていいの？」2015. 09. 29、吉井田学習センター（福島市）		
安井 清孝	○平成27年度つるみ在宅ケアネットワーク在宅医療連携拠点事業研修会、2015. 10. 07、鶴見公会堂（鶴見区医師会在宅部門）		
安井 清孝	○ファシリテーション研修、2015. 10. 16～17、徳島大学病院（徳島大学病院キャリア形成支援センター）		
熊谷 敦史	○放射線による健康不安に関する住民参加型プログラム（車座集会）葛尾村：2回目、講演「放射線の体への影響、甲状腺について」2015. 10. 18、葛尾村役場三春出張所（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○平成27年度長岡地域災害医療コーディネーターチーム研修、原子力災害医療講演会、講演「原子力災害における被ばく医療」2015. 10. 19、長岡リリックホール（新潟県長岡保健所）		
熊谷 敦史	○市町村応援職員研修、講演「福島における放射線リスク」2015. 10. 22、復興庁福島復興局（福島復興局）		
熊谷 敦史	○平成27年度放射線による健康不安の軽減等に資する人材育成のための研修会 千葉県（1回目）、講演「福島第一原発事故後の健康リスクを考える」2015. 10. 26、シンテイ千葉ビル（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○信夫地区放射線ミニ講話+おしゃべりしよう♪、講話「被ばくの危険性は？甲状腺は？福島のもの食べていいの？」、2015. 10. 29、信夫学習センター（福島市）		
熊谷 敦史	○平成27年度福島県NBC研修、講義「チェルノブイリと福島の現状」2015. 11. 02、福島県立医科大学（福島県保健福祉部）		
熊谷 敦史	○北沢又八計町会放射線と健康についての基礎講座、講話「内部被ばくと健康リスク」2015. 11. 07、福島市北沢又八計町会（福島市）		
熊谷 敦史	○平成27年度（第25回）全国動物管理関係事業所協議会全国大会、講演「震災後の放射線健康リスク」2015. 11. 12、ホテル福島グリーンパレス（福島県食品生活衛生課）		
熊谷 敦史 吉田 浩二	○平成27年度災害医療従事者研修（Ⅱ）、講義「汚染を伴った外傷患者の取り扱い」、演習「除染実習」2015. 11. 13、（独）国立病院機構長崎医療センター（（独）国立病院機構本部 九州グループ）		
熊谷 敦史	○平成27年度放射線による健康不安の軽減等に資する人材育成のための研修会 千葉県（2回目）、講演「福島第一原発事故後の健康リスクを考える」2015. 11. 16、松戸市商工会議所（環境省委託、原子力安全研究協会）		
吉田 浩二	○講義「福島第一原子力発電所事故とその対応（緊急被ばく時の対応1）・（緊急被ばく時の対応2）」2015. 11. 26、長崎大学（長崎大学医学部保健学科）		

講師	テーマ・内容等	開催日	開催場所（派遣先）
熊谷 敦史	○広野町「放射線健康リスク管理のための研修会」、講義「放射線の基礎知識と健康影響」2015.12.01、広野町役場（環境省委託、原子力安全研究協会）		
安井 清孝	○シナリオシミュレーション研修のための教育担当者の養成研修会、2015.12.05、公立学校共済組合四国中央病院（公立学校共済組合四国中央病院）		
熊谷 敦史	○平成27年度宮崎県放射線技師会秋期学術講演会、講演「診療放射線技師に知ってほしい福島原発事故とは」2015.12.05、エアラインホテル宮崎（一般社団法人宮崎県放射線技師会）		
熊谷 敦史	○特別講義：放射線防護学特論、2015.12.12～13、鹿児島大学医学部保健学科（鹿児島大学大学院保健学研究科）		
吉田 浩二	○放射線による健康不安に関する住民参加型プログラム（車座集会）西郷村：1回目、意見交換会、2015.12.15、西郷村保健福祉センター（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○放射線の健康影響に関するセミナー（北海道）、講演「福島における放射線リスク」2015.12.19、道特会館（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○放射線による健康不安に関する住民参加型プログラム（車座集会）広野町：1回目、講演「福島の水・食品と外部被ばく」2015.12.21、四倉鬼越仮設集会所（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○放射線の健康影響等に関する住民セミナー（茨城県取手市）、講演「震災後の健康リスクを考える」2016.01.16、取手市福祉交流センター（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○広野町住民説明会、2016.01.17、広野町保健センター（広野町、環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○広野町住民説明会、2016.01.18、ララシャンスいわき（広野町、環境省委託、原子力安全研究協会）		
安井 清孝	○放射線健康リスク管理のための研修会（浪江町）、ワークショップ「住民からの問合せの対応—放射線についての質問—」2016.01.18、浪江町役場二本松事務所（環境省委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○放射線による健康不安に関する住民参加型プログラム（車座集会）広野町：2回目、講演「Dシャトルでわかったこと」2016.01.25、四倉鬼越仮設集会所（環境省委託、原子力安全研究協会）		
安井 清孝	○放射線健康リスク管理のための研修会（浪江町）、ワークショップ「住民からの問合せの対応—放射線についての質問—」2016.02.01、浪江町役場（環境省委託、原子力安全研究協会）		
吉田 浩二	○福井大学災害専門看護師実習、講義「放射線災害看護」2016.02.02、福島県立医科大学（国立病院機構災害医療センター福島復興支援室）		
吉田 浩二	○平成27年度「原子力災害医療対応研修講師養成講座」、実践研修「避難退域時検査・除染」2016.02.06、原子力安全研究協会（原子力規制庁委託、原子力安全研究協会）		
熊谷 敦史	○第6回放射線と健康に関する講演会、講演「放射線と健康について；広野町における健康リスク」2015.02.07、広野町保健センター（広野町）		
熊谷 敦史 安井 清孝 吉田 浩二	○緊急被ばく医療講演会・研修会、講演「汚染を伴った外傷患者の取り扱い」、講演「原発事故後の他職種との関わり—放射線看護専門看護師としての役割—」、実習「被ばく・汚染傷病者受け入れ」2016.02.07、鹿児島大学桜ヶ丘キャンパス（鹿児島大学地域防災教育研究センター）		
熊谷 敦史	○森林づくり県民講習会、講演「福島における放射線の現状と森林づくり活動への放射線リスク」2016.02.12、いわき産業創造館 LATOV（公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会）		
熊谷 敦史	○食品に関するリスクコミュニケーション～食品中の放射性物質に対する取組について～（大会場）、基調講演「震災後の放射線健康リスクについて」2016.02.19、ホルトホール大分（消費者庁消費者安全課）		
吉田 浩二	○平成27年度「原子力災害医療対応研修講師養成講座」、実践研修「医療機関における対応」2016.02.20～21、原子力安全研究協会（原子力規制庁委託、原子力安全研究協会）		
吉田 浩二	○平成27年度「放射線業務従事者に対する再教育講習会」、講義「原子力災害医療を考える—福島での経験を通じた看護師の視点から—」2016.03.04～05、長崎大学病院（長崎大学病院）		

医療人育成・支援センター
年報2014－2015年度

2016年3月発行

編集 公立大学法人
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター

〒960－1295 福島県福島市光が丘1番地
Tel 024－547－1713
Fax 024－547－1715

発行所 株式会社 山川印刷所
福島県福島市庄野字清水尻1－10

C M E C D E

医療人育成・支援センター
Biennial Report
年報 2014 ▶ 2015年度



公立大学法人
福島県立医科大学